

日本医療大学年報

第 7 号

2021 年



日本医療大学

目次

1. 使命・目的等	1
2. 学生	8
3. 教育課程	29
4. 教員・職員	34
5. 経営・管理と財務	40
6. 内部質保証	44
7. 大学が独自に設定した基準による自己評価	47
8. 社会貢献	57
9. 顕彰	57
10. 委員会等活動報告	58
11. 教員の自己点検・評価	92

1. 使命・目的等

1-1. 使命・目的及び教育目的の設定

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

日本医療大学（以下、本学）及びその母体となる学校法人の使命・目的については、各種規程にて具体的かつ明確に示されている。

まず、学校法人の使命・目的について、「学校法人日本医療大学寄附行為」第3条に「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、大学及び専修学校を設置して学校教育を行うことを目的とする」と規定している。さらに、本学の使命・目的について、「日本医療大学学則」第1条（目的）に「日本医療大学は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の精神に基づき、深く専門の学術を教授及び研究し、人間尊重を基盤とした専門職業人を育成して、社会の発展に寄与するとともに人々の健康及び生活の向上に貢献することを目的とする」と規定している。また、同学則第6条第2項には、学部及び学科の教育上の目的について、「生命の尊厳の理念に基づき、豊かな感性と教養で人間性を高め、高度な知識と技術を学修し、倫理的及び論理的な実践力で、地域医療に貢献する専門職業人を育成する」と規定している。

1-1-② 簡潔な文章化

上述の使命・目的は、建学の精神、基本理念、教育理念というかたちで簡潔に文章化されている。また、各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）にも反映させ、学生及び教職員に分かり易く示している。

○建学の精神

共生社会の実現～病める人や障がいを持つ人を含む全ての人々が自立し、その尊厳が重んぜられ暮らせる社会の実現を目指す～

○基本理念

「人は人を愛し、人にふれることによって、自らも成長する」

医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学は、学生が、高度な専門知識と技術の修得にとどまらず、医療・福祉の現場と一体になったキャンパスで、高齢の方や障がいを持った方々と日々ふれあいながら学修することで、人のこころの痛みや思いがわかり自らも成長していく人材を養成します。

○教育理念

- 1 「職業人になる自覚をもとう」実践的教育を通して職業人としての自覚や誇りを育む。
- 2 「自律した人間になろう」己に厳しく、自ら考え、自ら行動する。
- 3 「確かな専門知識・技術を修得しよう」社会や時代の要請に応え、専門的な知識と技術を体系的に修得する。
- 4 「社会に貢献できる専門職になろう」医療・福祉に携わる人として、社会からの信頼を得る。
- 5 「問題解決能力を身に付けよう」自ら課題を発見し、活動し、振り返ることによって問題を解決する。

三つのポリシー

○看護学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

看護学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4 科学的根拠に基づき、対象者に必要な看護を提供できる能力
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、看護学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

看護学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる能力を育成するために、「社会と健康支援」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「健康と疾病」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
- 4 高度で専門的な看護の実践能力の育成のため、看護の基本、対象の特徴と看護実践、看護の統合学習について学ぶ専門教育科目を配置する
- 5 将来の看護職業人としての自覚を持ち、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働して働くための豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー：AP】

看護学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

- 1 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、看護学の学修に意欲と熱意を持つ人
- 2 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
- 3 人の健康に関心を持ち、地域の保健医療福祉、社会に貢献する意志のある人
- 4 人に関心を持ち、あたたかい心で人とコミュニケーションができる人
- 5 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
- 6 基本的生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人

○リハビリテーション学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

リハビリテーション学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4-1 対象者の運動機能を改善するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な理学療法を提供できる能力（理学療法学専攻）
- 4-2 対象者の主体的な生活を支援するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な作業療法を提供できる能力（作業療法学専攻）
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、理学療法学・作業療法学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

リハビリテーション学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献できる資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法の実践に必要な基礎的な知識を修得するため、「人体の構造と機能および心身の発達」、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4-1 対象者の運動機能の改善を目的とした、高度で専門的な理学療法の実践能力育成のため、理学療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する（理学療法学専攻）
- 4-2 対象者の主体的な生活を支援することを目的とした、高度で専門的な作業療法の実践能力育成のため、作業療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する（作業療法学専攻）
- 5 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー：AP】

リハビリテーション学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲のある人材を求める。

- 1 理学療法士・作業療法士を志している人
- 2 理学療法学・作業療法学を学ぶために必要な基礎学力のある人
- 3 基礎的コミュニケーション能力を有している人
- 4 他者を思いやる心がある人
- 5 何事にも根気強く臨み、責任を持って最後までやりとげる人
- 6 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人
- 7-1 人の運動や動作のメカニズムに関心を持っている人（理学療法学専攻）
- 7-2 人の生活を専門的な視点から支援し、社会に貢献したいと思っている人（作業療法学専攻）

○診療放射線学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

診療放射線学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4 科学的根拠に基づき、放射線の画像診断と放射線治療を提供できる能力
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、診療放射線学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

診療放射線学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実験・実習、演習の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉と診療放射線」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた診療放射線の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「保健医療における理工学的基礎並びに放射線の科学と技術」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4 高度で専門的な診療放射線の実践能力を育成するため、診療放射線検査法、放射線治療法、放射線安全管理法について学ぶ専門教育科目を配置する
- 5 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー：AP】

診療放射線学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

- 1 診療放射線技師を志している人
- 2 診療放射線学を学ぶために必要な基礎学力のある人
- 3 基礎的コミュニケーション能力を有している人
- 4 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
- 5 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
- 6 基本的生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人

○臨床検査学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

臨床検査学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力

- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4 科学的根拠に基づき、良質な臨床検査を提供できる能力
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、臨床検査学を発展させる能力
- 6 臨床検査室の品質マネジメントシステムの構築及び実践できる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

臨床検査学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実習、演習の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するため、「保健医療福祉と医学検査」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた臨床検査の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能」、「医学検査の基礎とその疾病との関連」、「医療工学及び情報科学」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4 高度で専門的な臨床検査の実践能力、発展させる能力を育成するため、「臨床病態学」、「各臨床検査法」、「卒業研究」を学ぶ専門教育科目を配置する
- 5 臨床検査室の品質マネジメントシステムの構築及び実践できる能力を育成するため「検査総合管理学」、「医療安全管理学」を配置する

【アドミッション・ポリシー：AP】

臨床検査学科は、本学の建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

- 1 臨床検査技師を志し臨床検査学の学修に意欲的に取り組むことができる人
- 2 臨床検査学を学ぶために必要な基礎学力のある人
- 3 基礎的コミュニケーション能力を有している人
- 4 他者の意見や考え方に触れ、自らの意見を整理し表現するための思考力・判断力・表現力を有している人
- 5 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

1-1-③ 個性・特色の明示

本学の歩みは、昭和 59（1984）年に札幌市豊平区月寒に開設した「特別養護老人ホーム幸栄の里」に始まる。「特別養護老人ホーム幸栄の里」では、デンマークから学んだノーマライゼーションを日本で実践するために、入所の方々だけでなく在宅の方々へのサービスも初めて事業化した。しかし、事業展開する中で、医療と福祉の高度な人材育成の必要性を痛感し、平成元（1989）年に本学の前身となる「日本福祉学院」を開校した。本学は、社会福祉法人ノテ福祉会を中心とする 10 法人とともに「つしま医療福祉グループ」を形成し、各種医療・福祉施設と大学施設が複合したコミュニティ「アンデルセン福祉村」をキャンパスの本拠地としていた。そして、令和 3（2021）年 4 月に札幌市豊平区月寒東の月寒本キャンパスへ移転し、現在に至る。

このような歴史を背景にして生まれた精神と理念は、全ての人々が安心して暮らすことができる「共生社会の実現」をめざし、「医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学」をキャッチフレーズとして、その使命・目的及び教育目的・目標に反映されている。

1-1-④ 変化への対応

大学教育改革の中の柱として『三つのポリシーに基づく大学教育改革の実現』において、「三つのポリシーを一貫性及び整合性あるものとして一体的に策定することにより、選抜・教育・卒業の各段階における目標を具体化し、大学教育の質的転換を図ること」として、平成 29 (2017) 年から三つのポリシーを策定・公開することが義務付けられた。それを踏まえ、本学では学科（2 専攻を含む）の三つのポリシーについて、SYLLABUS や大学 HP などにおいて公開し、周知を図っている。

令和 7 (2025) 年にはいわゆる「団塊の世代」がすべて 75 歳以上となり、我が国における高齢化は一層進行していくものと予想されていることから、このような社会情勢を見据えた「医療介護総合確保推進法」が施行され、地域における効率的かつ質の高い医療や介護の提供を総合的に確保する「地域包括ケアシステム」の構築が求められている。本学では、こうした多様化する社会の要請に応えることのできる医療専門職を育成するため、新たな学部・学科の増設を含め、組織構成及び関係諸規定等の見直しを継続的に検討・実施している。

1-2. 使命・目的及び教育目的の反映

1-2-① 役員、教職員の理解と支持

本学の建学の精神、基本理念、5つの教育理念の見直しについては、平成 28(2016)年に理事長、学長、常務理事、事務局長、経営戦略企画室長で構成する本法人の中長期経営計画プロジェクトにおいて検討し、理事会で承認を得ている。また、三つのポリシーの見直しは、運営会議で審議した後、教授会に提案し意見を求めており、建学の精神、基本理念、教育理念、使命・目的等を改正する場合は、運営会議・教授会・理事会に諮り決定しており、役員・教職員の理解と支持を得る体制となっている。この他、使命・目的及び教育目的は、学則に明示しているほか、CAMPUS GUIDE、ホームページ、大学案内にも掲載している。

1-2-② 学内外への周知

使命・目的及び教育目的は、ホームページ、CAMPUS GUIDE（教職員、学生に配布）、大学案内等に明記するとともに、校舎内の主要な場所に掲示するなどして周知徹底を図っている。

その他、入学式、学位記授与式、入学生ガイダンス、オリエンテーション、オープンキャンパスなどにおいて説明の機会を設けている。

1-2-③ 中長期的な計画への反映

本法人の中長期経営計画に建学の精神、基本理念、教育理念が反映されるよう、平成 28 (2016) 年 7 月からの中長期経営プロジェクトにおける審議を経て、同計画を見直した。

1-2-④ 三つのポリシーへの反映

三つのポリシーが、本学の建学の精神、基本理念、教育理念を反映した内容となるよう、学科会議、運営会議における審議を経て、教授会に意見を求め、見直しを実施した。

1-2-⑤ 教育研究組織の構成との整合性

本学の保健医療学部は、看護学科、リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻）、診療放射線学科及び臨床検査学科の4学科から構成される。また、附属施設として、図書館、認知症研究所、キャリアセンターを設けている。

同学部には、必要な教員を配置するとともに、円滑な運営を図るため各種委員会を設置しており、使命・目的及び各学科の教育目的の実現のため、それぞれの委員会の審議内容を教授会及び学科会議で共有するなど、組織間の連携強化に努めている。

2. 学生

2-1. 学生の受け入れ

2-1-① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知

本学は開学時（平成 26（2014）年度）より「本学の教育理念に共鳴し、自らの成長を自己推進していくことができる学生を求めています。養成する人材が卒業後に札幌地域のみならず、北海道全体、ひいては日本国内、また広く国際的な視野を持ちつつ活動していくことができる人材を求めます。さらに北海道という地域特性に鑑み、医療の地域偏在をなくすため、各地域・へき地においても人々の健康な生活を支援することに貢献できるたくましい人材を募集します」といった内容を日本医療大学のアドミッション・ポリシーとして示してきた。加えて、令和元（2019）年度からは学科ごとにアドミッション・ポリシーを策定し求める人材像を示している。

アドミッション・ポリシーについては、ホームページや大学案内、学生募集要項、それぞれの学科の SYLLABUS に掲載し、高校生、保護者、高校教諭、在学生等に幅広く周知を図っている。また、大学案内、学生募集要項はホームページ上にデジタルパンフレットとして公開している。

2-1-② アドミッション・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施とその検証

本学の入学者受け入れ方針の周知については、本学が開催するオープンキャンパス、一日体験入学、高校訪問、出前講義、学校説明会、進学相談会等において、多くの時間をかけて実施している。特に高校訪問については、教職員が一体となり、北海道内 287 校のうち約 240 校の高等学校を訪問し、オープンキャンパスや一日体験入学を案内するとともに、高校生の進路動向の情報収集を実施している。高校訪問は 1 期（4 月から 6 月）、2 期（8 月から 10 月）、3 期（12 月から 2 月）と定期的に行い、1 期は「在学生の学生生活状況の報告」と「オープンキャンパス参加誘導」、2 期は「総合型選抜・学校推薦型選抜出願の誘導」、3 期は「一般選抜と大学入学共通テスト利用選抜の出願誘導」と位置づけている。

本学の入学者受け入れの基本方針については、入学試験委員会で審議決定する旨規定されている。

本学で実施する入学試験は、平成 26（2014）・27（2015）年度入試においては、一般入試（前期・後期）・推薦入試（前期）の 2 つの入試区分であったが、平成 29（2017）年度入試から A0 入試（リハビリテーション学科のみ）、平成 30（2018）年度入試から大学入試センター試験利用入試（前期・後期）・推薦入試（後期）を看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科で導入した。令和元（2019）年度入試から指定校推薦入試・大学入試センター試験利用入試（中期）・A0 入試（全学科）を導入した。さらに、令和 2（2020）年度入試からは、A0 入試（後期）をリハビリテーション学科のみに導入し、一般入試（前期）では札幌に加えて函館にも試験会場を設置した。

令和 3（2021）年度入試では、これまでの看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科に、令和 3 年度からの設置認可が得られた臨床検査学科を加えて、一般選抜（旧一般入試（前期・後期）、学校推薦型選抜（旧推薦入試（公募前期・公募後期）、総合型選抜（旧 A0 入試（前期・後期）、大学入学共通テスト利用選抜（旧大学入試センター試験利用入試（前期・中期・後期）、学校推薦型選抜（指定校）の 5 つの区分で入学試験を実施した。

令和 4（2022）年度入試では、令和 4 年度からの設置認可が得られた臨床工学科、総合福祉学部の介護福祉マネジメント学科、ソーシャルワーク学科を加えて、一般選抜（旧一般入試（前期・後期）、学校推薦型選抜（旧推薦入試（公募前期・公募後期）、総合型選抜

(旧 A0 入試 (前期・後期)、大学入学共通テスト利用選抜 (旧大学入試センター試験利用入試 (前期・中期・後期)、学校推薦型選抜 (指定校) の 5 つの区分で入学試験を実施した。保健医療学部の新学科である臨床工学科においては総合型選抜の後期実施後に自己アピール形式の入学試験を行った。

大学入学共通テスト利用選抜を除いた本学独自で実施する 4 区分の入学試験においては、将来、医療従事者として社会に貢献するという目的意識や本学アドミッション・ポリシーの理解、基本的なコミュニケーション能力をみる目的で、個人面接を必須としている。個人面接においては、面接委員間で受験生に対する対応や質問内容に大きな差異が生じないように「面接マニュアル」を作成し、面接の手順、評価の基準、評価項目ごとの質問例を記載し、面接委員に周知している。

入試問題に関しては、入学試験実施規程第 7 条 (入学試験問題の作成の原則) に基づき、1 科目に対し複数人で問題を作成している。また、問題作成に関しては、入試問題作成ミスを防止するために、第三者による点検を 2 回に分けて実施している。

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受け入れ数の維持

入学定員は、平成 30 (2018) 年度まで看護学科 80 人、リハビリテーション学科 80 人 (理学療法学専攻 40 人、作業療法学専攻 40 人)、診療放射線学科 50 人であったが、「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法規の整備等の法律」(平成 26 (2014) 年 6 月 18 日成立、平成 26 (2014) 年 6 月 25 日公布) では地域における質の高い医療を確保し、基盤整理を行うことを目標としていることから、令和元 (2019) 年度、看護学科の入学定員を 80 人から 100 人、リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員を 40 人から 80 人に増員した。令和 3 年度からは、月寒本キャンパスへの移転を機に、看護学科の入学定員を 150 人、診療放射線学科を 100 人に増員し、臨床検査学科を入学定員 60 人で新設した。さらに令和 4 年度からは、保健医療学部に臨床工学科 (定員 60 人) を加え、新学部として総合福祉学部 (介護福祉マネジメント学科 40 人、ソーシャルワーク学科 80 人) を新設した。令和 4 (2022) 年度入試の入学定員充足率は、看護学科が 104.0%、リハビリテーション学科が 102.5% (理学療法学専攻 116.3%、作業療法学専攻 75.0%)、診療放射線学科が 112.0%、臨床検査学科が 110.0%、臨床工学科が 60.0%、介護福祉マネジメント学科が 20.0%、ソーシャルワーク学科が 6.3%となった。

臨床工学科の入試の総合型選抜に自己アピール型の入試を加え定員確保を図った。すべての入試区分で理学療法学専攻と作業療法学専攻の併願を認め、一般入試と大学センター試験利用入試でも 2 学部 7 学科 2 専攻すべての併願を認めることとし、出願者数を増やす対策をとっている。また、令和 4 (2022) 年度入試からインターネットによる出願も開始し、コロナ禍においても出願しやすい環境としている。

2-2. 学修支援

2-2-① 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備

看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科、臨床検査学科の教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)については、1-2-②に記載されている。各学科のカリキュラムの構成概念については大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針は SYLLABUS に掲載し学生に周知している。

教員と職員等をはじめとする学修支援体制は、教務委員会において学生への周知について検討し、検討後教職員への周知を行っている。また、各学科長および各学科の学生担当教員(以下、学担)が中心となり、学生の個別対応を行い、他の教職員と連携している。

学内の各種委員会の構成員は、教員とともに事務職員も加わり、学生の抱える学業や生活についての問題を共有するとともに、起こり得る・起こり得た問題事項に関し解決に向けた方策を講じている。

学修支援の一環として、総合選抜型入試および推薦入試合格者に対し本学教員による入学前教育を行っている。

新入生オリエンテーションは、4月初旬の2日間、大学生としての心構えをはじめ、教務委員会・学生委員会からのオリエンテーション(履修登録・大学における学修に関すること、学生生活に関すること、図書室や学生相談室の利用方法など)を実施している。さらに、学担が中心となって、専門性の異なる学科別の特徴に応じたオリエンテーションを行い、本学学生として必要な情報を伝え、新しい環境に早期に適応できるよう努めている。また、新入生オリエンテーションでは、教務委員会が作成した「学修ハンドブック」を配布し、アカデミア・スキルの定着を促している。

在学生については、在学生ガイダンスを前期始業前に実施し、新学年での心構えや注意事項について指導している。また、キャリア学修支援センターと連携し、日々の学習支援に加え、国家試験対策として全国模擬試験の実施などで学習の動機づけを支援している。

各学科(リハビリテーション学科においては各専攻)に学担を複数名配置し、学生の教学上及び生活上の問題の早期発見、早期対応を心掛けている(表2-2-①-a)。

教務委員会では、各教員のオフィスアワーを半期ごとに大学システムであるユニバーサルパスポートにて学生に周知し、講義内容や学生生活に関する相談に利用している。また多くの教員はオフィスアワー以外の時間にも、可能な限り学生に対応している。

学修支援に直接的に関与する委員会は、「教務委員会」、「学生委員会」、「入学者選抜委員会」、「FD委員会」、「図書及び学術振興委員会」、「キャリア学修支援センター運営委員会」である。年度活動状況については、各委員会報告に記載している。

休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する実態については、次のような傾向が見られていた。2021年度の退学者は、54名のうち1年2年生が42名と全退学者の約8割を占めた。この2つの学年は大学入学時においてコロナ禍の中での入学者である。直接的な因果関係は不明であるが、退学理由を見ると40名が進路変更であり、詳細を見ると学業不振からの進路変更で大半を占めている。したがって入学前のイメージと入学後の体験での違いが進路変更とつながっている可能性が考えられた。休学者は2021年度の休学者は26人で前年度と同数であった。休学理由は進路熟慮が14名、次いで健康問題5名、学生生活への不適応3名、経済的理由2名、学業不振2名であった。休学、退学等の学籍異動にあたっては、あらかじめ学担が学生と面談し、学担の所見を付した書類の添付を求めている。必要に応じて保護者とも面談を行い、理解を得るようにしている。休学者については、定期的に学担に現況を連絡することが課され、休学中の学生の生活状況等の把握・指導や支援については、学担が中心となり教職協働により行っている。

表 2-2-①-a 2021 年度学生担当教員

学科	学年	学生担当教員
看護学科	1 年 A	○草薙 美穂・柏民 圭太
	1 年 B	○松本 真由美・滋野 和恵 原田 圭子
	2 年 A	○山崎公美子、福島眞里
	2 年 B	○林美枝子、合田恵里香
	3 年 A	○佐々木 由紀子・高儀 郁美
	3 年 B	○浅井 さおり・松村 寛子
	4 年 A	○吉野 純一・相馬 幸恵
	4 年 B	○進藤 ゆかり・工藤 悦子
リハビリテーション学科	1 年理学療法学専攻	西山 徹・三浦 紗世
	1 年作業療法学専攻	岸上 博俊・村上 正和
	2 年理学療法学専攻	渋川 佳彦・泉水朝貴
	2 年作業療法学専攻	清本 憲太
	3 年理学療法学専攻	石橋 晃仁・矢口 智恵
	3 年作業療法学専攻	村上 元
	4 年理学療法学専攻	新開谷 深・坂口 友康
	4 年作業療法学専攻	及川 直樹
診療放射線学科	1 年	俵 紀行・樋口 健太・西山 修輔
	2 年	木村 徹・黒蕨 邦夫・島 勝美
	3 年	白石 祐太・福山 篤司・阿部 匡史
	4 年	杉本芳則、藤田 智・小山 和也
臨床検査学科	1 年	○磯辺 正道・浅沼 広子

○：主担任

退学、休学者については、各学科で対応を行っているが大学としての検討を行い、少しでも学生の学修支援体制を整えていく必要があると思われる。

2-2-② TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実

TAに関して、本学は大学院を設置しておらず、今後の課題である。ただし、リハビリテーション学科においては、TAに代わるものとして「科目担当者制度」によるSA(Student Assistant)を活用し、全科目において、学生が教育用機器の準備、資料配布などによる授業の準備・補助、演習授業の準備・後片付けなどの補助を行っている。また、臨床実習開始前の期間は、上級年次生がSAを担当し、科目担当教員の指導の下に検査測定などの技術指導やアドバイスを行うことでサポートしている。

令和元(2019)年度に、リハビリテーション学科に聴覚に障がいを持つ学生が1名入学し在籍している。聴覚状況は先天聾で人工内耳(右)を装用、左耳からの聴覚はないものの、右聴覚と読唇で会話の理解は可能である。当該学生の入学前より、学科会議等において、聴覚状況、授業環境、配慮事項を確認し、学科の全教職員が当該学生の障がいに対する理解を深め、適切に対応できるように準備し、実施している。具体的には、教室においては

中央からやや左側前列に席を配置し、科目担当者に対しては、口述や板書での配慮事項を説明し、徹底して実施している。2021年度も同様の対応を継続している。

2-3. キャリア支援

2-3-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備

本学キャリア学修支援センター（以下「センター」という）は、平成29（2017）年4月にそれまでの就職・進路対策委員会を改組し発足した。また、令和3（2021）年4月には、新キャンパス（月寒本キャンパス）への移転を機に「学生の職業観や勤労観を育み、学生一人ひとりが社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしいキャリアビジョンを実現していくため、その目標達成にむけた総合的支援を行うことを目的とする」（キャリアセンター規程：第1条）に則り、全学部全学科の学生への就職、キャリア支援に特化する形で業務内容を整理するとともに、組織整備を図り名称を「日本医療大学キャリアセンター」に改称し、係る規程の改訂を行った。この規定改訂に伴い、専従のセンター事務員（同第4条第3項及び第7条）を配置し、学生のキャリア支援に対するサービス強化が図られた。

看護学科は開設9年目となり、平成29（2017）年度1期生の卒業以来、令和3年（2021）年度5期生が卒業した。リハビリテーション学科は開設8年目となり、平成30（2018）年度に1期生の卒業以来、令和3（2021）年度に4期生が卒業した。診療放射線学科は開設7年目となり、令和元（2019）年度に第1期生が卒業し、令和3（2021）年度に3期生が卒業した。また、令和3年4月には、新たに臨床検査学科が設置され、初年次より学科と連携し、既存学科におけるキャリア支援の経験を踏まえ、1年次よりスタートアップ講座を開講している。

本学は医療専門職の育成を使命としている点では看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科、臨床検査学科とも同様である。しかし、社会的・職業的自立に関する就職対策には職種により異なる部分も少なくはない。そのため、学部としての取り組みと学科ごとの取り組みに分けて述べる。

[1] 学部としての取り組み

センターは、部門員を通して各学科との緊密な連携のもと、社会的・職業的自立に関するキャリア教育、就職対策のための支援体制を構築している。

定期的にセンター長、部門員、センター事務員、大学事務局職員参加のもとセンター運営委員会を開催し、必要な業務連携や協議を行っている。日頃より就職・進学、キャリア形成に関する相談についてはセンター事務員が部門員と協力しつつ相談窓口となり、支援・助言を行っている。学生対応、求人对応、就職対策、キャリア支援などの業務内容は運営委員会にて報告されている。

教育課程外でセンターが実施しているキャリア教育の取り組み実績は、各種就職対策講座の開講や就職ガイダンスの開催、『就職ガイドブック』（令和3年度より従来の冊子配布を廃止し、本学独自の内容に一新しオリジナルガイドブックをデータ化し配信）の作成等がある。また、これまで求人票は紙ファイルのみの閲覧であったが、コロナ禍での修学状況を鑑みオンラインで閲覧できる求人検索システム「求人NAVI」を導入・運営が図られ学生へのサービス向上が進んだ。さらに本学指定の履歴書様式を一新しトライアル運用を図った（2022年度から本格導入・無料化予定）。

本学は医療専門職の育成を目指す大学であることから、教育課程においてはキャリア教育に繋がる科目である「臨地実習」、あるいは「臨床実習」を設定している。これらは、通常のインターンシップ以上に学生が働く目的を考え自己成長を促す機会となっている。「臨地実習」と「臨床実習」の時間数、回数、実施学年などは学科ごとに異なるが、センターではこれらの実習と連動させて各種講座を企画し、実施している。

学生には新入生オリエンテーションや在学生ガイダンスの機会を通し、本学キャリアセンターの機能や大学生活の時間の過ごし方、キャリアビジョンを描くための心構え等を説明し、積極的なセンターの利用を促進している。保護者には入学式における保護者説明会、後援会総会などで、キャリアセンターの紹介や過去の就職実績、採用市場等の説明を行い、保護者の理解と学生支援を促している。新型コロナウイルス感染拡大により学生支援においてもオンラインでのチャット機能を最大限活用し、学生個々からの質問や相談にタイムリーに回答し、また履歴書や小論文等の添削作業をオンライン上で行うなどスピード感をもって手厚い支援が出来たことが大きなメリットとなった。

〔2〕各学科の取り組み

○看護学科

看護学科は、幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、チーム医療、また他職種との連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を育成するために、看護学の専門的知識と技術に裏づけされた看護実践能力の向上を図っている。そのため、教育課程内外においてキャリア教育に積極的に取り組んでいる。

看護学科では、1年次から4年次までのカリキュラムにおいて臨地実習を取り入れている。臨地実習は看護実践場面における科学的根拠に基づく実践教育であると同時にキャリア教育の役割を果たしている。4年次の統合実習は、既修得科目の知識・技術を統合し、多様な課題に取り組む実習である。

このようなカリキュラムを踏まえ、センターでは低年次からキャリア教育支援に取り組んでいる。本年度は初めて卒業生1期生と3期生の2人を講師として招聘し「私の仕事トーク会」を実施した。2年次には「実習前マナー講座」、「就活スタートアップ講座」、3年次には「実習前マナー講座」「就職活動講座（履歴書・小論文・面接対策）、4年次には個別に応募書類の添削支援や面接対策の実施を行っている。このプロセスで学生は将来に向け自己の課題を明確にし、臨地実習に取り組みながら自らの進路を選択していく。4年次は、早期化している採用市場に対応すべく、より具体的な就職・進学活動をサポートし、学生が目指す看護が実践できるよう個別支援の強化を図ってきた。病院施設からのパンフレットや求人、奨学金情報のほか本学学生の受験報告書（就職および進学）は、学生がいつでも自由に閲覧できるよう新キャンパス移転後はキャリアセンター資料室にて格納し整備している。

令和3（2021）年度卒業の5期生は就職者86人（道内80人、道外6人）であった。86人の内訳は、大学病院13人、国公立・公的病院18人、民間病院55人であった。また、進学者は6人。なお、国家試験合格者の就職率は93.8%である。

以上のように、医療専門職として社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し、社会で活躍できるよう丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

○リハビリテーション学科

リハビリテーション学科は理学療法学専攻及び作業療法学専攻の2専攻からなり、多くの学生が卒業後理学療法士及び作業療法士として活躍することを希望している。幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、他職種との連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに、専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての態度を育成するために教育課程内外において、キャリア教育に積極的に取り組んでいる。

リハビリテーション学科では2年次から4年次までの教育課程の中で臨床実習を取り入れている。臨床実習は臨床現場における教育であり、同時にキャリア教育やインターンシップの代替としての役割を果たしている。臨床実習は臨床実習指導者と教員との密接な連携のもとに進めている。

1年次からキャリア教育に取り組み学修への適応を図り初年次教育の講座を実施し、2年次以降は臨床実習に合わせて各種講座を実施している。2年次には「自己分析・表現」、3年次には「接遇」、4年次には「就職オリエンテーション」および「面接・小論文講座」を行っている。

求人情報はすべてセンターで受け付けている。病院施設からのパンフレットや求人、奨学金情報は、学生がいつでも自由に閲覧できるように、センター資料室に専用コーナーを設け整備している。就職指導は部門員と教員が連携しながら行っている。

リハビリテーション学科では、全学で使用する就職ガイドブックの他にリハビリテーション学科に対応したより詳細な『就職ハンドブック』を用いてガイダンスを行うほか、毎年秋に学内就職説明会を開催している（2021年度は新キャンパス移転後初めて実施し本学のPRにもなった）。令和3（2021）年度の説明会には、理学療法学専攻及び作業療法学専攻合同で札幌をはじめ道内各地（一部道外）から69施設（午前の部37施設・午後の部32施設）が参加している。学生は、コロナ禍で多くの制限がある中で感染予防を徹底的うえ興味のある病院や施設等の説明を直接担当者から聞ける機会となり、疑問点を解決したうえで希望する施設への就職活動を行うことができ、就職や国家試験への心構えにもなっている。

就職説明会は、学生の就職意欲向上と病院との連携強化を図る機会ともなっている。学生が就職活動を行う前には部門員及び各専攻の学担が随時窓口となり、病院の事情に詳しい教員にも相談できるような連絡体制をとっている。

求人票等の就職に関する資料については、学生がいつでも自由に閲覧できるようにしており2021年度からはネットで求人票を検索できるシステム「求人NAVI」を導入し学生へのサービス向上を図った。就職試験前には、学生に面接や小論文などの個別指導も実施している。

令和3（2021）年度卒業の4期生就職者は45人（札幌市内27人、札幌市外15人、道外3人）であった。内訳は国公立・公的病院1人、民間病院40人、福祉施設4人であった。なお、国家試験合格者の就職率は88.5%（理学療法学専攻83.9%・作業療法学専攻95.2%）である。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

○診療放射線学科

診療放射線学科の学生の多くは卒業後診療放射線技師として活躍することを希望している。放射線医療におけるモダリティ技術の高度化や多様化に対応するため、基礎的な知識と技能の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成する。また、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身につけた職業人を育成する。

科学的に裏付けされた専門的知識と技術で放射線診療の実践能力向上のためのキャリア教育を行っている。

3年次から4年次までの教育課程の中で臨床実習を取り入れている。臨床実習はインターンシップの代替としての機能を持ち、社会人・職業人の自立に向けたキャリア教育の役割を果たしている。臨床実習は臨床実習指導者と教員との密接な連携のもとに進めている。

臨床実習の進行に合わせ、実習を前に医療人および社会人としての「接遇」「コミュニケーション」をテーマにキャリア教育講座を行っており、併せて就職活動に向け採用市場や専門職業人として就労意識を高める機会としている。

令和3（2021）年度卒業の3期生就職者は28人（札幌市内12人、札幌市外14人、道外2人）であった。内訳は大学病院1人、国公立・公的病院11人、民間病院16人であった。なお、就職希望者の就職率は96.9%である。大学院進学者が2名であった。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

○臨床検査学科

臨床検査学科は令和3（2021）年4月に開設し1年生を迎え入れた。学生の多くは卒業後臨床検査技師として活躍することを希望している。臨床検査技術の高度化や多様化、また新たな感染症に対応するべく検査などにも対応するため、基礎的な知識と技能の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成する。

1年次には大学生生活スタートアップ講座を部門員と連携しセンター事務員が行い、キャリア教育をスタートさせた。今後、学年を重ねる中で他学科のキャリア教育を参考にしつつ、臨床検査技師を養成する学科として、また臨床実習の進捗との整合を図りながら必要なキャリア教育を構築していくこととなる。

2-4. 学生サービス

2-4-① 学生生活の安定のための支援

[1] 学生サービス、厚生補導のための組織の設置とその機能

学生サービス、厚生補導のための組織として本学では「学生委員会」を設置している。委員は各学科2人の教員と学生・教員サポートグループの職員で組織し、学長指名の委員長が委員会を運営している。委員会については委員長が招集し、原則月1回（第2水曜日16時30分から）の定期開催のほか、緊急な議題が生じた場合は持ち回りの会議等で対応している。令和3年度は11回開催、8月、12月、1月は第4水曜日に実施した。

学生委員会では毎年11月に翌年度の運営計画を提示しているが令和3年度は2月となった。活動は大きく分けて、1. 通常の学生委員会業務、2. 学生委員会主催行事、3. 学

友会支援に分かれている。これに沿って単年毎の実施計画案を審議し、年度末に大学に提出している。

本学では大学設置後、学科増設や定員の増員を経て、令和3年度には臨床検査学科が新設され、4学科体制となった。学生委員会は増大する学生のニーズに合わせて毎年改善を繰り返し、より良い学生サービス、厚生補導に努めてきたが、コロナ禍の影響により、学内施設の利用禁止、学内団体の活動自粛等の問題が継続して発生し、課題となった。また、授業の聴講だけではなく、個人のコミュニケーションツールとして、SNSへの依存度の高まりがその原因であると推察されるが、その都度、学生委員会では学長の許可を得て、即日、ユニバーサルパスポート（ユニパ）を通じて「遠隔授業の受講前後に関するお願いと注意事項」、「ユニパに掲示された成績結果のSNSでの発信・拡散について」などを全学の学生への警告や注意として発信した。学生委員会が発行する「学生委員会からのお知らせ」でも、情報確認のお願いやSNSの利用に関する注意喚起として、遠隔授業の内容やダウンロードした資料、ユニパでの発信内容を保存、撮影し、個人のSNSにアップするといった処罰対象行為の禁止を具体的に掲載した。

〔2〕通常の学生委員会業務

学生サービス、厚生補導に関する学生委員会の通常サービスとしては以下の活動を実施している。

1) 環境整備やその美化

学生の居場所作りの整備、各棟の共同利用スペースの環境整備に関しては、例年は共用スペースへのイス・テーブル等の設置の拡充に努めてきた。令和3年度は月寒本キャンパスへの移転元年となり、本来であれば新キャンパスの使い勝手を確認しながら環境整備を進めていくことが求められるはずであったが、コロナの感染防止対策が優先されたことで検討には至っていない。一方、登校が許可された時期におけるコロナ対策のための学生食堂の三密を避けるアクリル板の設置や学内各所への消毒液等の設置、その後の施設利用に関する注意喚起を実施した。

2) 防災活動、災害時行動マニュアルの作成、配布

災害時行動マニュアルを作成し、毎年入学式後のオリエンテーションにて配布している。災害時の避難経路や緊急避難の方法、留意点等が名刺大の折り畳み式の冊子になっており、学生には学生証と同様に携帯を勧めている。

平成29（2017）年に札幌市と本学の間「福祉避難所等に関する学生ボランティア協定」が締結され、希望学生の登録募集は「学生委員会からのお知らせ」を通して毎年募集をかけていたが、今年度は募集を行わなかった。そのため大学側の責務である研修等の開催も実施しなかった。今年度現在に至るまで、協定に則った福祉避難所からの学生ボランティアの招聘は一度も発生していない。

3) 学内の保安

学内における遺失物に関しては事務局で管理しているが、明らかに盗難等の被害を受けた場合は、被害届を大学に提出してもらうと同時に本人、保護者と話し合い、警察に届け出ることもある。届け出た場合は警察の事情聴取や捜査に協力を行う。これまで保護者から警察に届けた例は、ノートパソコンの置忘れによる遺失物が1件であるが〔平成30（2018）年4月〕、別の場所から翌日に見つかり、被害届を取り下げている。

今年度は学生、教職員に対して掲示板やポータルサイト等で私物の自己管理に関する注意喚起を実施した。

4) 奨学金、学生の顕彰に関する業務

・学内奨学金授与者の選考業務

各種奨学金の応募者が推薦人数を超えた場合、学内での選考を学生委員会で実施するが、案件によっては各学科に選考を依頼することもある。今年度の具体的な活動に関しては[5]の1)、2)に記した。

・学生顕彰の選考業務と顕彰状授与式の挙行

人材育成の一環として、Grade Point Average (GPA) が優れ、学修態度において顕彰に値するとして教員の推薦を受けた学生又は、ボランティア活動や地域振興等の社会貢献活動において顕著な成果を残した学生および団体に対して、学生顕彰を行い副賞として図書券1万円を授与する。成績優秀による顕彰は毎年各学科・各学年上位10%とし、社会貢献による顕彰学生は毎年全学2人、あるいは2団体としている(上限数であり、該当学生がない場合もある)。選考は、年度末に成績優秀上位者一覧を各学科に示し、学科の推薦を得た学生を学生委員会でさらに検討して対象者案を決定する。今年度の具体的な活動に関しては[5]の1)、4)に記した。

5) 情報発信

学生への情報発信として、今年度は次のことを実施した。

- ① ニュースレター『あずまし』の発行
- ② 「学生委員会からのお知らせ」配布
- ③ 入学式、各学科のオリエンテーションにおける学生生活の説明

[3] 学生委員会主催行事の実施

学生委員会の主催行事は、開学年度から計画的に開催し、今年度に至るまでにその8回目を迎えることになっていた。前期は、対面での講座の開催は実施できなかったが、6月14日から18日の期間に遠隔で安心・安全週間を実施し、年金講座やSNSに関する講座、キャンパス・ハラスメントに関する講座等を配信した。

後期の11月から12月に実施されてきた「命を学ぶイベント」はコロナ禍の罹患状況を見ながら、以下の日程で実施した。

「命を学ぶイベント」

第8回「いのちのパネル展」交通事故被害者遺族の会

11月29日(月)～12月8日(金)

第8回 講演会『命』

講師：本学 看護学科学科長 吉野淳一教授

12月6日、7日 大講堂

他の主催行事が中止・遠隔となる中で、この2行事のみ対面で実施することができた。パネル展は三密を避けての閲覧をお願いし、講演会は間隔をあけての着席をお願いしての実施となったが、例年をはるかに超える数の学生が参加する結果となった。

[4] 学友会活動への支援

日本医療大学学友会は、平成26(2014)年4月24日施行の「日本医療大学学友会会則」に則って設置された。会則第2条により学友会は日本医療大学に在籍する学生全員をもって組織されている。前年度決算案、今年度予算案は、年間活動計画案、本部役員案は4月の対面での定期総会が中止となったため、遠隔で実施した。

学友会会長は全会員の選挙によって毎年1月に選ばれ、今年度会長は8代目の会長が各行事を主宰し、本部会は会長が指名した各学科1人の副会長と、年度初めのオリエンテーションやガイダンスで選抜される学科各組の代表者2人のうちの1人から組織される。

年間を通しての主な学友会主催行事は、新入生歓迎会、体育祭、日医祭で、令和2年度はそれら行事の第8回目の実施を計画していたが、コロナ禍の中ですべて中止を余儀なくされた。学友会本部会では緊急の予算案改訂を提言し、Web上で学友会員の承認を得て、今年度予算に「学外活動支援費」を新設し、全学学生に1人2,000円のクオカードを配布した。また卒業式、学位授与式では卒業生への記念品の配布は実施できたが、その後の卒業を祝う会は中止となった。

[5] 奨学金などの学生に対する経済的支援の実施

1) 日本学生支援機構奨学金、その他

日本学生支援機構奨学金の募集及び継続手続等に関しては説明会を開催し、希望学生が貸与、受給できるよう支援を行っている。また、地方自治体の奨学金制度、医療機関による奨学金制度などの情報を提供し、個別相談と申請手続きなどを支援している。病院等からの奨学金を個別に受けて就学している学生は複数人いる。

2) 国の「就学支援新制度」、「学生支援緊急給付金」

「就学支援新制度」は令和2年(2020)4月より、高等教育の無償化によって授業料・入学金を免除または減額される制度である。本学での対象人数は以下の表のとおりである。

授業料・入学金を免除または減免された人数			
学科	入学金免除	授業料(前期)	授業料(後期)
看護学科	26	76	71
リハビリテーション学科	29	74	71
診療放射線学科	17	40	39
臨床検査学科	8	8	6

「学生支援緊急給付金」は、コロナ禍による経済的な困窮支援のためのもので、単年度の実施である。本学の対象人数は以下の表のとおりである。

学科	緊急給付金対象人数
看護学科	102
リハビリテーション学科	90
診療放射線学科	52
臨床検査学科	7

3) 日本医療大学 特待生制度

学校法人日本医療大学特待生制度規程により、入学試験における合格者のうち優秀な成績をもって入学する者に対して入学後1年間の授業料の半額相当額を給付する制度を実施している。平成27(2015)年から施行し、平成28(2016)年度の入学生から適用しているが、今年度の入試を経て年度末までに選考された対象学生人数は以下のとおりであった。

特待生制度実績

(単位:人)

年度	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	臨床検査学科	合計
令和3 年度	0	1	0	1	7
	臨床工学科	介護福祉マネジメント学科	ソーシャルワーク学科		
	1	2	2		

4) 日本医療大学ファミリーサポート制度

ファミリーサポート制度は、日本医療大学に入学しようとする者のうち、保護者や兄弟姉妹が日本医療大学又は前身の専門学校の卒業生又は在学生である場合、もしくは、「つしま医療福祉グループ法人又は関連法人」の役職員の家族である場合に、検定料及び入学金を免除する制度である。今年度の入試を経て、年度末までに選考された対象学生人数は以下のとおりであった。

ファミリーサポート制度実績

(単位:人)

年度	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	臨床検査学科	合計
令和3 年度	6	4	3	4	17
	臨床工学科	介護福祉マネジメント学科	ソーシャルワーク学科		
	0	0	0		

5) 日本医療大学 学生顕彰

令和3年度は78名に成績優秀賞を授与し、社会貢献賞は2人との結果であった。授賞式はコロナ禍のため密を避け、4月20日に学長室にて代表学生のみで実施した。

[6] 学生の課外活動支援

課外活動の支援は、主に学内団体の設置と活動に関するものである。学内団体は現在7月末と翌年の1月末までに設置申請を受け付け、学生委員会の審査を経て学長の承認によって設置が許可される。基本的な備品に関しては設置許可後に各団体からの申請を受けて学生委員会の予算で購入しているが、活動の予算は学友会からの支援と個々の会費の徴収で行っている。

令和3年度は新設された団体はなかった。既存の7学内団体は、昨年度末に活動報告と決算報告を提出予定であった。しかしコロナ禍により、大学への登校が困難となったため、今年度末の締め切りとしたが、提出は数団体にとどまっている。コロナ禍によって、学生の課外活動は大きく影響を受けており、今後の課題となる。

〔7〕学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談

令和2年(2020年)度から学生に関わる様々な相談の窓口が機能するようになった。具体的には保健室、カウンセリングルーム、障害学生支援を中心とし、随時、各学科学生担任、事務部署(学生・教員サポートグループ)、ハラスメント相談と連携し対応している。

1) 保健室：月寒本キャンパスに移転し、保健室は大学正面玄関を入ってすぐ左の部屋に位置している。主にけがや疾患への救急対応と健康診断や感染症抗体価検査後のワクチン接種指導等、また、今年度はコロナ罹患者・濃厚接触者対応と、集団職域接種の打ち手を担った。真栄キャンパスと恵み野キャンパスが合体したことや、看護学科、診療放射線学科の学生数増員に伴い、非常に多忙を極めた。通年で838名の来室者があり、コロナ事情により5月から9月まで学生の登校は制限を受けたが、利用者数は大幅に増加した。その要因として考えられるのは、学生数が651人から1,251人に増加した点と、保健室の場所がわかりやすくなったことが大きいと思われる。

今後の課題は、緊急事態が生じた場合に、保健室までの連絡の方法が限られ、また、搬送用のストレッチャーが常備されていないため、保健室に搬送するまでに5分以上を要していることから、緊急時の対応を検討することが必須である。また、ワクチン接種指導を来室した学生に個別に実施しているため、保健室業務が煩雑になることから、次年度は集団指導を検討したい。

2) カウンセリングルーム：臨床心理士による心の相談は、カウンセリングルームが対応している。年度当初は保健室横に位置したが、隣室の保健室とカウンセリングルームの話し声が双方共に聞こえ、内容が筒抜けになることや、廊下や玄関を通過する際によく見え、利用を知られたくない学生たちの心情に寄り添えない面があった。年度後半から4階1412に場所を移し、比較的静かな環境で安定的に運営できるようになった。昨年度から実施している電話相談、Teamsによる遠隔相談を継続し、対面を苦手とする学生も利用できるように配慮している。利用件数は対面相談が49件、電話相談が10件、遠隔相談は0件であり、開室日数に対する平均利用件数は0.87件であった。前年度の1日利用件数0.56件から微増となったが、学生数に見合った増加とはなっていない。カウンセリングルームは学生たちにとっては守秘義務が守られる独立部署であることの安心感はある反面、対応するカウンセラーの人となりかわからず、利用につながらないことが考えられる。また、学科によっては、学科内の教員が個別の学生に丁寧な対応を行っており、なじみの先生と話す方が好まれる傾向が考えられる。悩みを抱える学生が安心して話せる場としてカウンセリングルームがより機能することが今後の課題である。

3) 障害学生支援

障害のある学生の支援については、今年度からより組織的な合理的配慮に関する取り組みを行った。何らかの合理的配慮を希望する学生は「支援申請書」を提出し、担当教員が面談を行い、具体的な配慮事項を決定し、本人が周知を希望する範囲で情報共有を行った。多くの場合、学担と保健室で共有している。また、講義時や定期試験時に合理的配慮を希望する学生からの申出を、事務方から文書で各科目担当者に配信し、協力を得ている。2021年度は6名の学生が対象であった。

4) その他

保健室ミーティングを隔週に実施し、保健室、事務部署(学生・教員サポートグループ)、教員に寄せられる大小さまざまな心身の健康相談や、困りごとをはじめ、学修や進級に関する相談ごとを可能な範囲で共有している。また、コロナ事情に伴うワクチン接種への協力、緊急時にPCR検査を必要とする学生が日医大病院を受診する場合のフローチャー

トの作成等も行った。B型肝炎ワクチンの集団接種は2021年度から全学科の1年生に実施の予定だったが、日医大病院の稼働が8月となり、また、他に優先すべきコロナワクチンの職域接種やインフルエンザワクチンの集団接種があり、B型ワクチン接種の実施は学内実習が2022年4月から開始される臨床検査学科の学生に限定された。

なお、保健室への来室者の増加やサポートが必要な学生への需要は高まっており、保健管理部門を委員会組織とし、全学科の教員と事務部署が関与することが望まれた。学長と学生・教員サポートグループ長と協議を重ね、これまでの学生相談センターをあらため、「保健管理委員会」を組織し、規定を整え、全学の委員会の一つに改組し、2022年度から新体制で運営されることとなった。

(2) ハラスメント防止について

ハラスメントの防止、啓発、対応策の検討に関しては、日本医療大学ハラスメント防止委員会が設置されている。「日本医療大学ハラスメント防止等に関する規程」が改訂され、一昨年は「日本医療大学ハラスメント防止等に関するガイドライン」が作成された。本学のハラスメント関連の規程やガイドラインは学生と教職員を対象としているが、啓発に関しては学生と教職員を分けて実施している。

一方、本学の教職員への啓発とハラスメント相談員への相談に関しては、ガイドラインに則ったガイダンスを実施している。

〔8〕 学生委員会関連各種規程、覚書、ガイドラインの作成と改正

「日本医療大学 SNS に関するガイドライン」を作成し、新入生新入生オリエンテーション、2年生から4年生へはユニパで配布・配信した。

2-5. 学修環境の整備

2-5-① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理

本学のキャンパスは、札幌市営地下鉄東西線と東豊線の2路線の沿線に位置し、「南郷13丁目駅」「月寒中央駅」「福住駅」のいずれの駅からも徒歩約10～15分の好アクセスな環境にある月寒本キャンパスと、北海道札幌市の南東部、札幌市営地下鉄東豊線「福住駅」からバスで約15分の自然豊かな環境に位置する真栄キャンパス、新千歳空港と札幌市を結ぶJRの路線上に位置する恵み野キャンパスを校地として所有している。

表2-5-1に示すように、校地の面積は3キャンパスを併せ121,638㎡、また、表2-5-2に示すように、校舎等の面積は50,098.82㎡であり、大学設置基準上必要な面積を満たしている。

表2-5-1 校地の面積

【月寒本キャンパス】

(単位:㎡)

		大学収容定員数 (学部合計) 1,320人				
校地等	区分	専用	共用	計	収容定員一人当たりの面積	設置基準上必要な面積
	校舎敷地	65,249	-	65,249	56.85	13,200
	運動用用地	9,790	-	9,790		
	小計	75,039	-	75,039		
	その他	0	-	0		
	合計	75,039	-	75,039		

【真栄キャンパス】

(単位:㎡)

		大学収容定員数 (学部合計) 0人				
校地等	区分	専用	共用	計	収容定員一人 当たりの面積	設置基準上必要 な面積
	校舎敷地	20,945	-	20,945	-	-
	運動用用地	13,710	-	13,710		
	小計	34,655	-	34,655		
	その他	3,058	-	3,058		
	合計	37,713	-	37,713		

【恵み野キャンパス】

(単位:㎡)

		大学収容定員数 (学部合計) 0人				
校地等	区分	専用	共用	計	収容定員一人 当たりの面積	設置基準上必要 な面積
	校舎敷地	8,886	-	8,886	-	-
	運動用用地	0	-	0		
	小計	8,886	-	8,886		
	その他	0	-	0		
	合計	8,886	-	8,886		

【大学全体】

(単位:㎡)

		大学収容定員数 (学部合計) 1,320人				
校地等	区分	専用	共用	計	収容定員一人 当たりの面積	設置基準上必要 な面積
	校舎敷地	95,080	-	95,080	92.15	13,200
	運動用用地	23,500	-	23,500		
	小計	118,580	-	118,580		
	その他	3,058	-	3,058		
	合計	121,638	-	121,638		

表2-5-2 校舎等の面積

【月寒本キャンパス】

(単位:㎡)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
1階	7,034.09	111.74		7,145.83	930.00		8,075.83
2階	8,034.15		1,358.82	9,329.97			9,329.97
3階	7,384.33			7,384.33			7,384.33
4階	7,384.33			7,384.33			7,384.33
PH階	36.00			36.00			36.00
小計	29,872.90			31,343.46			32,273.46

【真栄キャンパス】

(単位：㎡)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
旧看護棟計	2,492.78	456.41	359.94	3,309.13	660.00		3,969.13
1階	366.61	263.27	359.94	989.82	660.00		1,649.82
2階	761.39			761.39			761.39
3階	682.39			682.39			682.39
4階	682.39			682.39			682.39
5階	0	193.14		193.14			193.14
研究棟計	1,425.00			1,425.00			1,425.00
小計	3,917.78	456.41	359.94	4,734.13	660.00		5,394.13
旧放射線棟	4,694.77	167.26		4,862.05		549.23	5,411.28
1階	1,589.77	167.28		1,757.05		549.23	2,306.28
2階	1,035.00			1,035.00			1,035.00
3階	1,035.00			1,035.00			1,035.00
4階	1,035.00			1,035.00			1,035.00
研究棟計	455.30			455.30			455.30
小計	5,157.07	167.26		5,317.35		549.23	5,866.58

【恵み野キャンパス】

(単位：㎡)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
1号館	3,742.92	496.52	105.07	4,344.51	556.10		4,900.61
1階	810.63	496.52	105.07	1,412.22	556.10		1,968.32
2階	1,228.82			1,228.82			1,228.82
3階	1,253.12			1,253.12			1,253.12
4階	450.35			450.35			450.35
2号館	1,664.04			1,664.04			1,664.04
1階	651.54			651.54			651.54
2階	698.70			698.70			698.70
3階	313.80			313.80			313.80
小計	5,406.96	496.52	105.07	6,008.55	556.10		6,564.65

【大学全体】

(単位：㎡)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
大学全体	44,347.71	1,231.95	1,823.83	47,403.49	2,146.10	549.23	50,098.82

2-5-2 実習施設、図書館等の有効活用

[1] 図書館

新キャンパスへの移転に伴い、真栄本館・恵み野分館の二館体制で運営していた図書館を統合し、令和3（2021）年度より月寒本館として運営している。蔵書構成は、大学の前身である専門学校日本福祉看護・診療放射線学院、専門学校日本福祉リハビリテーション学院の蔵書を基礎とし、開学以来段階的に整備を重ねてきた。

令和4（2022）年3月31日現在の蔵書数は31,457冊（電子書籍含む）であり、そのうち和書は30,456冊、洋書は1,001冊である。令和3（2021）年度時点で継続受入している雑誌タイトルは、98種（うち洋雑誌は22種）である。また、「メディカルオンライン」「最新看護索引Web」等の文献データベースを導入しており、利用者はweb上からも豊富な学術文献にアクセスが可能となっている。

図書・雑誌及び視聴覚資料を購入するための資料費は、令和4年度に新設される新学部・新学科開設準備時の予算に加え、各学科240万円ずつとなっている。図書の選書及び購読雑誌の選定は、図書及び学術振興委員会の委員を通して、各学科の意向を反映した形となっている。

過去5年間における購入資料数は表2-5-3のとおりである。

表2-5-3 購入資料数

年度	購入資料数				
	和図書（冊）	洋図書（冊）	和雑誌（誌）	洋雑誌（誌）	視聴覚（タイトル）
令和3	470	30	76	22	1

図書館の規模、開館日数・入館者数、開館時間等の統計は表2-5-4から表2-5-6に示すとおりである。

表2-5-4 環境の整備状況

	面積	座席数	収容可能冊数
月寒本館	1,358.82 m ²	189席	36,300冊

表2-5-5 開館日数、入館者数

年度	開館日数（日）	入館者数総計（人）	1ヵ月平均（人）
令和3	259	5,600	467

表2-5-6 開館時間

月寒本館	開館時間		休館日
	平日	9:00-20:30	
	土曜日	9:00-17:00	
			日曜祝日、大学休業期間、 その他館長が認めた日

館内は、個人学習用の閲覧席や、グループで利用する場合の個室等、多様なスタイルに応じた学習環境を用意している。データベースの閲覧や蔵書検索に利用できる端末は10台あり、設置したプリンタから検索結果等を印刷することが出来る。DVDやVHSの視聴が可能な個人視聴覚ブースは5台設置してある。

過去5年間における貸出状況は表2-5-7、契約データベースの利用状況は表2-5-8のとおりである。

表 2-5-7 過去5年間の貸出状況（冊数）

年度	区分		
	学生	教職員	その他
令和3	2,092	1,117	0

表 2-5-8 契約中のデータベースの利用状況（検索回数）

年度	データベース				
	医中誌 Web	最新看護索引 Web	メディカルオンライン	CINAHL with Full Text	MEDLINE with Full Text
令和3	22,930	75	7,518	167	146

令和3（2021）年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策の為、学外者の利用を制限するとともに、館内の座席数を半減し、マスク着用・手指の消毒を徹底するように指導した。また、利用者が自宅等からも必要な情報にアクセスできるように、利用を館内限定としていたデータベースを、学外からもアクセスできるように開放する措置も引き続き実施した（令和4（2022）年度も継続中）。

続く「コロナ禍」の中でも、利用者が快適に図書館を利用できるように環境を整えるとともに、今後新学部・新学科の開設、既存の学科の定員増に併せて蔵書等の充実を図り、利用者に適切なサービスを提供していくことが、今後の図書館の課題である。

2-5-③ バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性

校舎入り口の段差をなくすなどバリアフリーに配慮しているほか、エレベーターや身障者用トイレを設置して車いす利用者等へ配慮している。

また、月寒本キャンパスにはコンビニ、レストラン、フィットネスジムなどの施設を隣接し、専門職業人を育てる大学として健康面からも学生生活を支えている。

2-5-④ 新型コロナウイルス感染症への対策に伴う学修環境の整備

令和3（2021）年度は、オミクロン株等の感染力の強い変異株が発生したことで、依然として全国的に感染拡大に歯止めがかからない状況が継続し、本学の所在する北海道にあっては、令和3（2021）年5月にまん延防止等重点措置適用後、短期間のうちに緊急事態宣言に移行した。このような状況の下始まった令和3（2021）年度は、本学にあっては引き続き感染症拡大防止対策と、学修環境の維持という両面の対策が求められる年となった。

令和3（2021）年度当初より、本学にあっては国・道の示す指針・対策に則り、遠隔授業を中心に講義等を行い、登校が必要な実習等についても必要最低限の登校となるよう調整しつつ、適切な社会的距離の確保、講義室等の消毒等を行い、感染拡大防止対策を実施しながら、コロナ禍においても安心・安全な学習環境の維持に努めた。

2-5-⑤ 授業を行う学生数の適切な管理

授業実施にあたっては、教育効果を高めるために、講義、演習、実習・実験などの講義形態に則し、複数の教員が分担し少人数グループを指導する形態が多く組み入れられている。また、各授業は、学科・専攻・学年で実施するものがほとんどである。

看護学科では、令和3（2021）年度から、収容定員の変更を行い、入学定員が100人から150人と増員したため、講義におけるクラスサイズは100人から150人前後となった。基礎教育科目の「日本語表現」や「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「中国語」などの語学系演習科目をはじめ、専門基礎教育科目や専門教育科目の演習科目は、授業科目や内容により、クラスサイズは50人前後である。特に、入学後間もなく実施される導入科目「看護を知る」、看護専門職としての知識・技術・態度を統合し、思考過程を重視する「看護研究演習」のクラスサイズは6人前後であり、少人数での指導で教育効果を高める努力をしている。また、看護学実習（小児看護学幼稚園実習以外の看護学実習）のクラスサイズは2人から4人とし、臨地実習指導者及び実習指導教員・大学教員それぞれが最大限の教育効果を高める配置としている。

リハビリテーション学科の理学療法学専攻及び作業療法学専攻では、基礎教育科目と専門基礎教育科目の共通科目のうち、「日本語表現」、「英語Ⅰ」、「中国語」などの語学系演習科目と一部の演習科目を除き、合同講義を実施している。また、専門科目のうち「共通・連携科目」でも合同講義となっている。それらの平成27（2015）年度から令和3（2020）年度までのクラスサイズは、50人から120人前後で推移している。各専攻単位で実施される授業のクラスサイズは、理学療法学専攻は30人から90人前後、作業療法学専攻は20人前後である。

診療放射線学科は、令和3（2021）年度から入学定員を50人から100人に増員した。基礎教育科目の「日本語表現」や「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「中国語」は合同講義を実施している。また、必修科目（「心理学」、「公衆衛生」など）が250人前後とクラスサイズが大きくなっている。選択科目の合同講義では、それぞれの年度や科目により、70人前後から300人前後とクラスサイズに幅がある。

令和3年（2021）年度に開設された臨床検査学科では、基礎教育科目の「日本語表現」や「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「中国語」などの語学系演習科目をはじめ、専門分野を学ぶための専門基礎教育科目や専門教育科目の演習科目のクラスサイズは60人前後である。

各学科とも専門基礎教育科目、専門教育科目の学内での演習、実習・実験では、授業科目や内容によりグループワークを取り入れ、10人前後の少人数グループを複数の教員が分担して指導を行っている。また、看護学科「看護研究演習」「看護ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」や、リハビリテーション学科共通・連携科目「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」などのゼミナール方式の科目や、選択科目ではあるが診療放射線学科の演習科目についても、教員1人につき10人前後の学生を担当しており、実質的に少人数対応となっている。

平成28（2016）年度以降、看護学科、リハビリテーション学科では、選択科目で、履修者数が5人以下となる科目があるが、本学では開講制限は実施しておらず、少人数での授業を行っている。

2-6. 学生の意見・要望への対応

2-6-① 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

本学では、毎年5月から6月にかけて、全学対象の学生アンケートを実施してきたが、令和3年度は、7月20日から30日にかけて実施した。方法はMicrosoftのFormsを利用

し、学生には対面でのホームルームや授業時間内に手元のスマートフォンから回答を入力・送信してもらった。

このアンケートの記述式の回答が、毎年最も直接的な学生からの意見・要望を把握する機会であるが、その対応に関しては複数年を要するものや、対応が現実的に困難なものも数多い。特にコロナ禍の現状では、意見・要望に応える状況にはなく、感染予防対策の徹底などについてニュースレターやお知らせ等を利用した注意喚起に努めることにとどまった。また、全学的に医療従事者を目指す学生として、自己の健康観察の依頼やその強化をお願いし、登校後体調が良好でない学生は保健室の経過観察とともにより安全な方法で、帰宅させる等の対応を行った。

2-6-② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析の検討結果の活用

心身に関する健康相談については、令和2年度から学生相談が担う制度改変が行われた。しかし、ソフトとしての相談部署の包括的連携はスタートしたが、その詳細に関する議論を令和2年に行うこととなっていたが、コロナ禍の中で取り組みが進まず、現在に至っている。日本学生相談学会では、学生相談を臨床心理士によるものに限定せず、「学生助育」という言葉で示している。「学生を各種の人的欲求を持って生活し成長する主体であるとみなす観点に立ち、その発達と成熟を助長し援助する一切の活動」(Wesley P. Lloyd 他『学生助育総論 大学における新しい学生厚生指導』文部省大学学術局学生課 1953年)と考え、通常の教育の過程すべてが含まれ、特に様々な困難に直面することでくじけそうになりながらも、人間的に成長する面を教職員全体が護り育てることと考えられている。多岐にわたる相談部署を包括的に組織化した学生相談への試みは、こうした専門学会の趣旨に沿うものであるが、令和3年度は学生委員会のもとにおかれたため、カウンセリングルームのニュースレターの発刊や令和3年(2021年)度の学生相談センターの活動報告は、学生委員会から大学に提出された。しかし学生委員会がこれまでその管理を担っていなかった保健室などの活動や、他の委員会の対応事項も含まれるものとなり、次年度からは新設予定の委員会での対応が望まれる。

これまでのアンケート結果から、過去の学生相談室(現カウンセリングルーム)の認知度は、次第に高まってはいるが、2019年の集計結果を見るとその認知度は全学科で45.7%である。年間の開室日数は71日間となっている。利用数に関しては、対面相談が11件(延べ数49件)、電話相談が3件(延べ数10件)の合計14件(延べ数59件)である。

今後は、さまざまな学生相談部署の認知度を上げるとともに、相談内容(学修面、対人・心理面、進路、経済面、健康面、その他)の把握や、利用の満足度を把握し、その対応を学内の関連部署や委員会、学科へと繋げるシステムを整え、学生たちが相談をしてよかったと思えるような、学生相談をバックアップする体制の整備が必要であろう。

経済的な支援に関しては本学の奨学金貸与率は年々高まっている。しかし給付型は、経済上、また学力上の申請要件が厳しく、今後の拡充はあまり期待できない。

2-6-③ 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

施設・環境に関しては学生アンケートで主に学生生活に関する施設や学食に関する項目がほとんどで、その改善には様々な努めてきた。

学修環境に関しては、前年度に引き続き遠隔授業が行われたため、自宅での通信環境へのサポートとして、Wi-Fi機器の貸し出しなどを対応した。

また、平成30（2018）年度から、人権擁護委員会の提案で制度化された定期試験結果の試験の合否、成績に関する再確認の申し立ては、令和3年（2021）度前期試験で1件（看護学科1件、診療放射線学科0件、リハビリテーション学科0件、臨床検査学科0件）、後期試験で3件（看護学科0件、診療放射線学科3件、リハビリテーション学科0件、臨床検査学科0件）であった。即時担当事務局と関連する委員会で対応し解決した。

3. 教育課程

3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定

3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

3学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）については、1-2-④に記載されているので割愛する。ディプロマ・ポリシーは、大学ホームページ等で公表し、学生募集要項、SYLLABUSにも記載している。

3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知

各教科目の成績評価方法は、科目責任者によってSYLLABUSに明記し、授業の冒頭に科目責任者が学生に説明し、学生と合意の上で適用している。SYLLABUSには、すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの関連性を明示し、各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施している。またSYLLABUSには、科目ごとの具体的な評価方法や配点を明記している。評価は、SYLLABUSに明記されている客観的な基準に従い、公正かつ厳正に評価を行っている。これらの内容と履修上の注意点は、各学年のオリエンテーションにて学生への周知徹底を図っている。単位の認定に関しては、教務委員会で審議し、教授会に意見を求め学長が認定している。なお、本学の成績表記は、表3-1-1のとおりである。

表3-1-1 成績評価

成績評価	評点(点)	単位付与
AA (秀)	90-100	合格
A (優)	80-89	
B (良)	70-79	
C (可)	60-69	
D (不可)	59以下	不合格

3-1-③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用

単位認定、進級及び卒業認定は、学則に定められた基準に従って厳正に行っている。単位認定や成績評価は、学則第28条（単位数の計算方法）、第29条（試験）、第30条（成績の評価）で規定している。他大学等の授業科目の履修や入学前の既修得単位の認定については、学則第31条32条に規定されている。卒業や学位の授与についても同第33条、第34条に示されている。また、学則第26条、第28条、第30条及び第31条の規定に基づき、履修規程を別に定めている。

履修規程には、授業科目、単位、履修登録、重複履修の禁止、試験、試験の種類、定期試験、追試験、再試験、追実習、不正行為、成績評価、GPA（Grade Point Average、総合平均点）、単位授与、進級要件、臨地・臨床実習科目の履修要件、資格取得のために必要な要件、他の大学等における履修等、他の大学との協議に基づく学生の履修等、認定単位の上限、出願の手続き、単位の認定、修業年限、再入学した者の既修等を示している。

本学における履修は、日々の学修の積み重ねを重視している。成績評価については、GPA制度による総合成績評価を導入している。GPAは、学期ごと、年度ごとに通算の値を算出している。CAMPUS GUIDEにその説明を記載し、成績票に表示して学修評価の参考となるよ

うにしている。また、GPA は、奨学金制度の適用、成績優秀者を選定する際の参考資料、進路指導等に有効に用いている。本件は、履修規程第 6 章第 17 条第 1 項、第 2 項や CAMPUS GUIDE に記載している。

また、各学科で履修の上限単位 (CAP) を設け、1 年間に履修できる授業単位を制限することで、1 単位に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化を図っている。本件は、履修規程第 3 章第 4 条第 2 項を CAMPUS GUIDE に記載している。

進級要件は、履修規程第 7 章第 19 条の進級要件により、(1) ~ (4) のように定められている。

- (1) 1 年次から 2 年次への進級
- (2) 2 年次から 3 年次への進級
- (3) 3 年次から 4 年次への進級
- (4) 「基礎教育科目の選択科目」

卒業要件は、本学学則第 33 条 (卒業) に、「本学に 4 年以上在学し、別表第 2 に定める所定の授業科目及び単位を修得し、卒業認定基準を満たした者には、学長が教授会に意見を求め卒業証書・学位記を授与する。」と規定している。

各学科における卒業要件は、表 3-1-2 のとおりである。

表 3-1-2 卒業の要件 (単位)

学 科	看 護	リハビリテーション 2019 年入学生まで	リハビリテーション 2020 年入学生	診療放射線	臨床検査
必 修	103	理学 107 作業 108	理学 109 作業 110	102	114
選 択	21	理学 17 作業 16	理学 17 作業 16	24	10
合 計	124	124	126	126	124

他の大学等における履修した単位の認定及び単位数の上限については、学則第 31 条、第 32 条の定めにより、履修規程第 9 章第 22 条 (他大学等の対象となる履修等)、第 23 条 (他の大学との協議に基づく学生の履修等)、第 24 条 (認定単位及びその上限) に規定され、「60 単位を超えないものとする」と規定している。

また、学則第 34 条、第 35 条の定めにより、履修規程第 8 章に、資格取得のために必要な要件を規定している。

なお、進級・卒業要件の基準については CAMPUS GUIDE、SYLLABUS 等に明示し、学生及び教職員に周知している。

成績結果については、学期毎 (9 月と 3 月) に保護者と学生に通知しており、平成 30 (2018) 年度から成績についての「疑義申し立て」を制度化している。

3-2 教育課程及び教授方法

3-2-1 ① カリキュラム・ポリシーの策定と周知

各学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシー等を達成するために必要な教育課程の編成や授業科目の内容及び教育方法について基本的な考え方を示す内容とした。カリキュラム・ポリシーは、大学ホームページ、学生募集要項、SYLLABUS 等で公表している。

各学科のカリキュラムの構成概念については、大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針は SYLLABUS に掲載し学生に周知している。

看護学科の教育目標は、本学の教育理念に基づき、

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意思を尊重できる。
 2. 全人的理解を基盤とした援助的人間関係を形成できる。
 3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術で看護実践が出来る。
 4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働出来る。
 5. 科学的思考と問題解決能力、主体的学修能力で自己成長出来る。
- という5項目を掲げている。

看護を実践の科学として位置づけ、「人間」、「環境」、「健康」、「看護」の四つの基本概念からなる教科目でカリキュラムを構成している。看護学は、人がよりよく生きることを支える実践科学である。人間が病むこと、人間がより健康に生活するための課題を問い続けるとともに、人びとの健康の保持・増進と健康障がいを持つ人びとへの生活を支援する看護師に必要な教科目を配置している。

リハビリテーション学科の教育目標は、本学の教育理念に基づき、

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意思を尊重できる。
 2. 全人的理解を基盤とした援助的人間関係を形成できる。
 3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術でリハビリテーションの実践が出来る。
 4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働出来る。
 5. 科学的思考と問題解決能力、主体的学修能力で自己成長出来る。
- という5項目を掲げている。

リハビリテーション学科のカリキュラムは、医療技術の高度化、多様化に対応できる幅広い教養とグローバルな視野を持ち、主体的に学び、考え、行動する人材の育成及び地域医療・福祉に貢献できることができるように構成している。

診療放射線学科の教育目的は、本学の教育理念に基づき、

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意思を尊重できる。
 2. 全人的理解を基盤とした援助的人間関係を形成できる。
 3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術で放射線診療を実践出来る。
 4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働出来る。
- という4項目を掲げている。

診療放射線学科のカリキュラムは、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身につけ、専門職業人としての知識・技術・態度を教授することを教育上の目的とし、必要な教育科目を配置している。

臨床検査学科の教育目標は、本学の教育理念に基づき

1. 患者中心の仕事ができる臨床検査技師
 2. 科学的に臨床検査学を追求できる臨床検査技師
 3. 検査室の基本的運営・管理が出来る能力を持った臨床検査技師
- という3項目を掲げている。

臨床検査学科のカリキュラムは、医療人として必要な一般教養とともに臨床検査技師として求められる知識と技術を確実に習得することを教育上の目的として必要な教育科目を配置している。

3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを一体的で整合性あるものとして策定するとともに、三者の関係をわかりやすく、大学ホームページ、SYLLABUS 等において示している。

ディプロマ・ポリシーを本学の教育によって「何ができるようになるか」に力点を置き、学生が身に付けるべき資質・能力を明確化し、カリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程の編成や授業科目の内容及び教育方法について基本的な考え方を具体的に示す内容とした。

さらに、カリキュラムマップ（ディプロマ・ポリシーと科目の整合表）を策定し、SYLLABUS 等にて学生に周知している。

3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

各学科の教育課程については、SYLLABUS において、カリキュラムの特色と構成概念、教育課程の編成、教育課程進捗表（楔形配置、学年の特徴、臨地・臨床実習、主体的学修）について述べている。

本学の教育課程は、授業科目を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」及び「専門教育科目」に区分し編成している。カリキュラムマップを整備し順序立てて履修できるように年次配当し、体系的編成を行っている。

看護学科では、基礎教育科目を5領域（32教科目）、専門基礎教育科目を2領域（29教科目）、専門教育科目を3領域（51教科目）に区分し教科目を配置している。看護学科では基礎教育科目が他学科に比較して多くなっている。看護学学修の導入科目として「看護を知る」など、看護について考える問題意識の明確化を目的とした独自のカリキュラムを編成している。

リハビリテーション学科では、令和元（2019）年度から新たな教育課程での授業を実施しており、基礎教育科目を3領域（32教科目）、専門基礎教育科目を3領域（29教科目）に、専門教育科目を6領域（理学47教科目、作業42教科目）に区分し授業科目を配置している。

診療放射線学科では、基礎教育科目を3領域（27教科目）、専門基礎教育科目を3領域（33教科目）、専門教育科目を10領域（44教科目）に区分し授業科目を配置している。

臨床検査学科では、基礎教育科目を3領域（26教科目）、専門基礎教育科目3領域（32教科目）、専門教育科目を8領域（56教科目）に区分し授業科目を配置している。

3-2-④ 教養教育の実施

本学の教養教育は各学科においての共通科目と各学科の独自に必要な教養科目を「基礎教育科目」として設定している。医療従事者となる基礎的知識として、看護学科では「導入」、「人間の理解」、「人間と社会」、「生活と情報」、「語学」で構成されている。リハビリテーション学科、診療放射線学科、臨床検査学科では、「科学的思考の基礎」、「人間と生活」、「語学」で構成されている。

カリキュラム委員会において、教養教育についての検討に関する全学方針を検討し、学科横断的な視座から基礎教養科目の運用、科目名や開講時期等の統一化を図っている。

3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

本学は、医療従事者を養成する教育機関であるため、基礎的知識の上に応用的知識や技術を積み重ねていく教育形態をとっている。すなわち、専門性が高くなる前に基礎教育科目の単位修得が必須となる。医療現場での見学や実習は、低学年から実施しており、学生の学修意欲の高揚を目的としている。

教授方法の工夫については、各教員の意識と方法に委ねられているが、自主的、問題解決型授業の展開や映像などを利用し視覚への強調を行っている教員が多い。2020年度はコロナウイルス感染によって開催を見送ったが、2021年度はFD研修会を再開し、教授法の向上を図る試みが行われている。全教員が原則参加し、教員の教育能力を高めるための実践的方法の向上を図る試みがなされている。

3-3. 学修成果の点検・評価

3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

三つのポリシーを踏まえた学修成果を点検し評価する方法の確立にはある程度の時間が必要であり、各学科で学修成果を点検・評価する方法を確立すべくデータを蓄積している。

三つのポリシーのうちの一つカリキュラム・ポリシーはカリキュラム委員会がカリキュラムマップを作成し、看護、リハビリテーション、診療放射線、臨床検査の各学科において授業構成とカリキュラム・ポリシーがどのように符合しているか SYLLABUS で示している。

三つのポリシーのうちカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーとも関連する、学修成果を把握しようとする取り組みも継続・拡充している。看護学科では、従来は教員と学生双方に紙面でカリキュラム評価を実施していたが、昨年度からは卒業を迎える学生に向けて Web 上で評価アンケートを実施している。リハビリテーション学科でも同様に卒業を迎える学生に向けて学修到達度アンケートを実施している。診療放射線学科でも、国家試験終了後に学修到達度を確認するアンケートを実施している。令和3年度に新設された臨床検査学科でも第1期生卒業時にこのような経緯を踏まえた検討がなされていくものと思われる。

三つのポリシーのうち特にディプロマ・ポリシーに関連が深いものとして卒業生の特性が挙げられる。この特性を把握するには学生の卒業後の状況にある程度把握したり卒業生に学生時代を振り返ってもらったりする必要があるかもしれない。カリキュラム委員会では、すでに実施している離職状況調査に加えて、卒業生の就職先の管理的立場にある方へ向けた卒業生の特性に関するアンケートについて検討するとともに、卒業生に大学での学修内容の過不足を問うアンケートについても検討を継続している。

3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

本学では、各科目の最後の授業で学生を対象に授業アンケートを実施している。その結果は、各教員が Web 上で担当講義のアンケート結果を参照できるようになっている。

3-3-①で述べたような4年次の卒業を前にした学生を対象に学修到達度を確認するアンケートについては、これらの結果を学科内で共有するとともに、各学科のカリキュラム検討の際、包括的にカリキュラム構成と内容を点検する視点から、可能なものについてはカリキュラム改訂に反映させている。令和3年度では、看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科、臨床検査学科において指定規則等の変更に伴うカリキュラム改訂を文科省に申請し、令和4年度より実施の見込みとなっている。

4. 教員・職員

4-1. 教学マネジメントの機能

4-1-1① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮

大学の意思決定について学長は、「日本医療大学学則」第41条の2に「校務をつかさどり、所属職員を統督する」と規定している。

学長が判断を適正に行いリーダーシップを発揮するための補佐体制として、「学校法人日本医療大学組織規程」第6条に基づき学長のガバナンスの強化、本学の意思決定及び本学運営の円滑化を図ることを目的に運営会議を設置している。

運営会議は、「日本医療大学運営会議規程」第2条の規定に基づき、本学運営に関する企画立案及び学内の意見調整、理事会に要望する事項、教授会に諮問する事項、その他本学運営に関する事項について審議し、必要な業務を行っている。学長、学部長、各学科長、事務局長を構成員とし、学長が会議を招集し、議長となり、月2回開催している。

4-1-1② 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメント体制の構築

本学の使命・目的の達成のため、権限の適切な分散と責任の明確化に配慮し、「学校法人日本医療大学組織規程」、「学校法人日本医療大学事務組織規程」、「学校法人日本医療大学事務分掌細則」、「学校法人日本医療大学職務権限規程」、「日本医療大学運営会議規程」、「日本医療大学教授会規程」等の諸規程を整備している。

学長は、本教授会規程に基づき学位の授与、卒業及び課程の修了、学生の入学、その他教学に関する重要事項等の決定に際しては、教授会に意見を求めて決定している。

教学マネジメントを支える基盤の一つとして、学長の下に、本学の教育、研究、その他諸活動に関する学内外の情報やデータ等を収集及び分析し、本学の運営のための計画策定、政策決定等を支援することを目的にIR室を設置している。

学生の表彰及び懲罰に関する事項については、それぞれ「日本医療大学学生の表彰に関する規程」、「日本医療大学学生の懲戒等に関する規程」を整備している。

4-1-1③ 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメント

本学の使命・目的達成のため、「学校法人日本医療大学組織規程」、「学校法人日本医療大学事務組織規程」、「学校法人日本医療大学事務分掌細則」等に基づき事務体制を構築しており、本体制は適切に機能している。

本学の事務職員数は、66人〔令和4（2022）年5月1日現在〕であり、事務職員の採用は、「学校法人日本医療大学就業規則」に基づき理事長が行っており、各部署の業務内容及び業務量に応じ、職員の年齢、キャリア、能力等を勘案し、適材適所に配置している。

4-2. 教員の配置・職能開発等

4-2-1① 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置

教員の採用及び昇任は、日本医療大学教員任用規程及び日本医療大学教員の採用に関する細則に従い、教員選考委員会規程により人格、健康、教育研究上の経歴及び研究業績などを考慮して選考することとしている。募集方法は原則公募としている。

専任教員数は、大学設置基準第13条及び各職業資格関連の指定基準の規程に定められた必要な専任教員数を確保している。

4-2-② FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施

本学では、教育及び授業の改善、教員の研修、教員の資質・能力向上を目指してFD委員会が組織されている。FD委員会では、全学的なFD関連事項を決定し、本学教職員の教育・研究活動の向上や活性化を目指して、研修の実施とその見直しを行っている。

FD委員会は各学科代表者12名と大学事務局3名の15名で組織されている。本委員会は研修会の企画運営や授業評価等の会議を主に実施している。委員会では教育内容を改善するために、教員の研修会又は講演会、教員に対する学生による授業評価アンケートを実施し改善計画を行っている。これらの詳細については、年度毎にFD委員会活動報告書としてまとめている。

FD研修会については、2021(令和3)年12月3日(金)16時30分～17時30分に「SYLLABUS作成、授業デザインの基本」に関する研修会を対面式とオンデマンド方式で行った。教員はすべてが参加し、教職員を含めると89名の参加があった。研修会に関するアンケート調査の結果は、5段階評価で、「とても良い」と「良い」を合わせた割合は以下の通りであった。「研修内容：90%」「研修時期：67%」「研修方法：73%」「研修所要時間：66%」の評価を受けた。「普通」以上の評価を含めると、すべての項目について87%以上の評価であった。

授業評価アンケートは従来の紙媒体から昨年の2020年度より導入された新システムのユニバーサルパスポート(ユニパ)に移行した。しかし、キャンパス移転やコロナの影響でいろいろな混乱が生じた。授業アンケート実施方法については、Teamsによる方法も検討されたが2020年度からユニパに変更したばかりなので、2021年度は2020年度を踏襲してユニパで実施した。

2020年度は学生への周知が不足していたため、2021年度は積極的にアンケート回答の協力について学生に周知徹底した。入力開始日や終了日、学生への公開開始日と終了日を明確にし、教育効果の向上を図った。

また、新教務システムの導入により、Wi-Fiへのアクセスが必要となり、学生が一斉に回答を行うと回線が繋がらない事や回答時間が長くなると途中で切れてしまう事、ユニパのアンケートの項目までたどり着けない事などの技術的な課題があった。

学外の研修会では、2021(令和3)年9月3日(金)に開催された「北海道FDSDフォーラム2021」に本校のFD委員が出席した。「本学におけるオンライン授業実施状況と課題」について森口教授、「コロナ禍における学生支援」について澤口参事が発表を行った。また、フォーラムに関する情報をFD委員会のメンバーに紹介し、議論を行った。

北海道大学等の主催でFDに関するセミナーをアルファオフィスなどで本学の教員に周知し教育力の向上を図った。

4-3. 職員の研修

4-3-① SD (Staff Development) をはじめとする大学運営に関わる職員の能力向上に資する取り組み

私立大学をめぐる環境が激変する中、大学の経営戦略の構築及び管理運営機能の強化並びに教育・研究機能の活性化が重要課題とされている。

こうしたことから、事務職員を対象とした管理運営、教育・研究支援などに関する事務処理能力の向上に資するよう、学内においてSDの一環として各種の研修を実施している。

また、大学職員として求められる専門性の向上や効率的な業務処理手法の修得に資するよう、北海道地区FD・SD推進協議会に加入し、情報を収集するとともに、日本私立大学協会北海道支部が開催する研修会への参加促進などに努めている。しかし、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響から、これら学外での研修会のほぼ全てが中止となってしまう。そのため、学内における研修環境を充実させるべく、事務局連絡会議を始めとした会議等での情報共有の場を増やすとともに、オンライン研修への積極的な参加等、研修機会の充実に取り組んでいる。

加えて、事務局内においては学内外で経験を積んだベテラン職員を各グループの要所に配置し、業務を通じた後進への知識経験の承継を図っている。

他方、事務職員の人事評価制度を導入するなど、「職員の意欲や能力の向上」、「組織の活性化」、「効率的な業務運営」などに向けた取組みを進めるとともに、個人の業務目標の設定や評価者による個人面談などを通じて、職員のモチベーションの向上、人材育成などに努めている。

4-4-① 研究環境の整備と適正な運営・管理

本学では、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」〔平成19（2007）年2月15日文科科学大臣決定、平成26（2014）年2月18日改正〕及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」〔平成26（2014）年8月26日文科科学大臣決定〕に基づき、「日本医療大学における競争的資金等の不正防止に関する基本方針」を策定し、科学研究費補助金をはじめとする競争的資金等の適正な管理・運営及び不正防止のための取り組み、環境の整備、関係規程を整備した。

4-4-② 研究倫理の確立と厳正な運用

本学では、学術研究倫理に関し研究倫理委員会規程、不正行為に関する取扱規程、研究活動行動規範を制定し、研究活動に係わる倫理意識の向上に取り組んでいる。

研究倫理委員会規程には、組織及び運営に関し必要な事項を定めている。また、倫理審査申請から承認までの流れを示した手引きを作成している。

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」の改正（令和3（2021）年2月）を受け、本学でも研究活動上の不正行為の防止と不正行為の疑惑が生じた場合に適正な対応を行うことを目的として、不正行為に関する取扱規程の整備を行った。また、学術研究の信頼性と公平性の確保を目的とした研究活動上の基本的な倫理指針として、研究活動行動規範を制定した。また、令和2（2020）年度から国の倫理指針に沿った、より使いやすい研究倫理審査申請様式等および研究倫理審査申請書様式等作成マニュアルを改訂し運用している。

令和3（2021）年度は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（経済産業省、文部科学省、厚生労働省）の制定に準じ、本学研究倫理委員会規定の改訂に係る研究倫理審査申請書様式、及び研究倫理審査申請書様式等作成マニュアルに一部修正を加えた。なお、教員には、今般の研究倫理指針制定を受け、その要点と申請上の注意点について、研究倫理研修会を開催し周知徹底した。

研究倫理研修会については、新型コロナウイルス感染状況を踏まえオンライン開催に加え、教員の受講機会確保に配慮しオンデマンド配信も併せて実施した。大学事務局は本研修会受講者に修了書の発行を行い、教員の受講状況を把握している。

学部学生については、卒業研究に係る研究倫理指針を示し、卒業研究の一部に組み込み、講義の中において研究倫理教育を実施している。

4-4-③ 研究活動への資源の配分

本学では、専門分野における専任教員の学術研究及び教育研究向上に資するため研究費（個人研究費、学術助成費、教育向上研究費）が交付される。

日本医療大学研究費審査委員会規程で研究費審査委員会の組織及び運営に関し必要な事項を定め、本学の学術助成費及び教育向上研究費の交付は研究代表者から提出された計画調書を研究費審査委員会が審査し決定する。令和3（2021）年度は、学術助成費は15件、教育向上研究費は8件の研究に対し交付した。

< 看護学科 >

【学術助成費】

1. 高等教育機関に所属する学生のインターネット依存の現状とその健康影響
教授 志渡 晃一
2. LRRFIP1/GCF2 蛋白が標的とする新しい遺伝子の同定
教授 瀧本 将人
3. 地域における母乳育児継続に関連する要因の検討
講師 松村 寛子
4. 新型コロナウイルス感染症の蔓延が看護大学生に及ぼす心理的影響
講師 吉田 香
5. 急性期病院における認知症高齢者の家族と看護師のかかわりに関する文献検討
助教 和田 ゆい
6. 虚血性心疾患における患者の Self-Care に関する文献研究
助手 本間 公

【教育向上研究費】

1. 日本医療大学「死生学」科目設置提言のための調査と学生用デス・カフェの試み
教授 林 美枝子

< リハビリテーション学科 >

【学術助成費】

1. 胸椎後弯角度の変化が肩甲骨の運動へ及ぼす影響について
准教授 泉水 朝貴
2. 一側で生じた触覚情報を共有すると反対側の触覚の学習が生じるか？
—触覚フィードバック装置ゆびレコーダー®を用いた検討—
准教授 清本 憲太

3. 大学生における自閉スペクトラム傾向、感覚、セルフモニタリング能力及び把持能力の関係

講師 村上 元

4. VRを用いたKINVISの効果—健常者における従来法との比較—

助教 村上 正和

【教育向上研究費】

1. 臨床場面ライブ配信による学内臨床実習の試み

—遠隔会議システムとリアルタイムモザイクアプリを用いて—

教授 大堀 具視

< 診療放射線学科 >

【学術助成費】

1. 短時間PETデータを用いた高画質画像再構成法開発に関する基礎的検討

助教 藤田 智

【教育向上研究費】

1. MRIの基礎原理および撮像法の理解促進と研究開発への発展を主眼とした対話形式による総合演習を実施するためのシミュレーション環境構築

教授 俵 紀行

2. 診療放射線技師国家試験および化学に関連する分野横断的な研究

教授 樋口 健太

3. 学生のキャリアアップのための支援プログラム構築について

准教授 島 勝美

4. 3Dプリンタを活用した診療放射線学科における教育プログラムの構築

准教授 福山 篤司

< 臨床検査学科 >

【学術助成費】

1. ホルモン受容体陽性乳がんの最適治療選択に向けた免疫病理学的解析

教授 浅沼 広子

2. 光散乱分析を利用したラテックス試薬によるPCT測定試薬の基本性能に関する検討

教授 梅森 祥央

3. 札幌市内で検出されるESBL(Extended-spectrum β -lactamase)産生大腸菌の薬剤感受性率の調査および分子疫学解析

教授 品川 雅明

4. 新型コロナウイルス抗体検査の疫学調査研究について

助教 磯辺 正道

【教育向上研究費】

1. 動物臓器を用いた病理検査学実習に向けての検討

教授 徳永 祐一

2. 生化学検査の日常業務遂行技術習得および研究推進のための生化学自動分析装置の稼働とそれによる学生教育効果の検討

講師 澁谷 斉

5. 経営・管理と財務

5-1. 経営の規律と誠実性

5-1-① 経営の規律と誠実性の維持

5-1-② 法人の使命・目的の実現への継続的努力

本法人は、建学の精神を「共生社会の実現」とし、「学校法人日本医療大学寄附行為」第3条に「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、大学を設置して学校教育を行うことを目的とする。」と定めている。また、この目的の達成に必要な組織を整備するとともに、組織を適切に運営するための諸規程を定め、規律ある堅実な経営を行っている。

教職員に対しては、「学校法人日本医療大学就業規則」及び「学校法人日本医療大学賞罰規程」において服務規律、懲戒事由等を明示し、法令及び関係規程等を遵守し業務を行うことを義務付けている。

会計処理は、学校法人会計基準に則って行われている。財務会計は、「学校法人日本医療大学経理規程」、「学校法人日本医療大学経理規程取扱細則」、「学校法人日本医療大学授業料等取扱規程」、「日本医療大学授業料等取扱規程に関する細則」、「学校法人日本医療大学寄附受入規程」、「学校法人日本医療大学固定資産及び物品管理規程」、「学校法人日本医療大学資産運用規程」を整備し、適切に処理されている。

組織の倫理については、「日本医療大学研究倫理委員会規程」、「日本医療大学不正調査委員会規程」、「日本医療大学人権擁護委員会規程」、「学校法人日本医療大学公益通報者保護規程」、「学校法人日本医療大学個人情報保護に関する規程」、「学校法人日本医療大学セクシャル・ハラスメントの防止等に関する規則」等を整備するとともに、本学に研究倫理委員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、セクシャル・ハラスメント防止委員会等を設置して、体制の整備を行っている。

その他、教育研究活動や財務等に関する情報をホームページで公表することなどを通じて、法人の運営に関する透明性の確保に努めている。

5-1-③ 環境保全、人権、安全への配慮

本学では、キャンパスの整備に当たって、良好な自然環境の保全に向けて、建築物及び工作物の設置、宅地造成、土地開墾などに配慮している。また、開学時から夏季にはクールビズを実施しているほか、節電や節水等注意喚起のポスターを校舎内の各所に掲示するなど、本学全体の省エネ意識の向上に努めている。

人権については、「日本医療大学研究倫理委員会規程」、「日本医療大学人権擁護委員会規程」、「学校法人日本医療大学公益通報者保護規程」、「学校法人日本医療大学個人情報保護に関する規程」、「学校法人日本医療大学セクシャル・ハラスメントの防止等に関する規則」等を制定するとともに、研究倫理委員会、人権擁護委員会、セクシャル・ハラスメント防止委員会を設置するほか、各種の苦情や相談に対応する相談員を配置するなど人権擁護の周知・徹底に努めている。

また、本学では、火災、地震その他の災害の予防及び人命の安全並びに防止を図ることを目的に、消防計画、危機管理マニュアルを定めている。令和3年度については、新型コロナウイルス感染拡大の影響から実地の避難訓練は見合わせたものの、文書で訓練の要諦、心構えの周知を図った。また学内での防災意識醸成を目的に「防災の日」を実施した。

他方、平成30(2018)年9月の北海道胆振東部地震を契機に、各キャンパスに災害用食品の備蓄を行い毎年更新している。

加えて、令和2（2020）年度以降、新型コロナウイルス感染防止のため、学内における消毒液の配置、施設・設備の消毒、遠隔・分散授業実施などに全学一丸となって取り組んでいる。

5-2. 理事会の機能

5-2-① 法人の使命・目的の達成と適切な運営に資する意思決定を可能とする体制の整備とその機能

法人の使命・目的の達成と適切な運営に資する意思決定ができるよう「学校法人日本医療大学寄附行為」に基づき、理事会、評議員会を設置している。理事会は寄附行為第7条に規定する選任区分に従い選任された理事8人によって構成され、理事長が議長となり、会議を運営している。令和3年（2021）度は年6回開催し、理事の出席率は93.75%であった。

監事は、同寄附行為第8条の規定に従い2人が選任され、寄附行為第17条に掲げる職務を行い、理事会に出席して意見を述べている。

外部の役員として、理事には行政書士と企業経営者、監事には司法書士と公認会計士（計4人）を選任しており、本外部役員の高い見識と幅広い経験を活かしながら、法人の使命・目的の達成と適切な運営を行うための体制を整えている。

評議員は、同寄附行為第27条に規定する選任区分に従い選任された評議員17人によって構成され、評議員の互選により議長を選任し、会議を運営している。

その他、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した理事は、出席者と見なすこととしている。

5-3. 管理運営の円滑化と相互チェック

5-3-① 法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化

令和3（2021）年度の理事会は、年6回開催し、主な議事内容は、事業計画、予算、規程の改正、理事・評議員の選任、事業報告、決算報告、各学校の状況報告等であり、適切に審議、議決している。また、法人の運営の実務にあたる事務局の役職者が、事案に応じて理事会に臨席することにより、施策の実効性を確保し得るよう運営している。

令和3（2021）年度の評議員会は、年7回開催し、評議員の出席率は89.9%であった。主な議案は、理事・評議員の選任、予算・事業計画の諮問、各学校の状況報告等であり、適切に審議、議決、答申している。

「学校法人日本医療大学寄附行為」第13条には、「理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。」と規定している。

一方、「日本医療大学学則」第41条の2に、「学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。」と規定されているとおり、学長は、大学全体の教育、授業計画、入試、学生支援、研究、教職員の人事等を統括する。

教学と法人の一体的経営を図り、現下の厳しい競争的環境へ迅速に対応し、法人及び大学の財務基盤を強化することにより、教学への支援をより一層充実することを目的に経営戦略会議を設置している。経営戦略会議は、理事長、総長、学長、事務局長及び外部の有識者2人が構成員となり、原則隔月開催され、本法人の経営・教学全体に関する事項について審議している。

また、法人の理念及び建学の精神を踏まえ、理事会が決定した経営方針に基づき業務を執行し、法人の経営基盤の一層の強化を図ることを目的に、執行役員会及び学校連絡会議

を設置している。執行役員会は、理事長、副理事長に加え、理事会及び評議員会の同意を得て理事長が委嘱する学内教職員による執行役員、さらに事務局の各幹部職員による准執行役員から構成される。また、学校連絡会議は、理事長、副理事長に加え、学長、学科長、事務各部門責任者などから構成される。

5-3-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性

監事は、「学校法人日本医療大学寄附行為」第17条に掲げる職務を行い、理事会・評議員会に出席して意見を述べるとともに、理事長や常勤の理事から業務執行状況について報告を受けるほか、監査の執行等に際して必要に応じ説明を求めている。また、重要な書類を閲覧し、業務執行が法令及び寄附行為等に則って適正に行われているか、経営方針に従って適切・適正に行われているかについて随時検証している。

評議員会は、同寄附行為第23条により17人の評議員をもって組織されており、理事会で審議される事項のうち、同寄附行為第25条に規定している諮問事項について理事長に意見を述べている。また、同寄附行為第26条に「この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の仕事執行の状況について、役員に対して意見を述べ若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。」と規定しており、諮問機関としての役割を果たしている。

また、監事による監査のほかに、理事長が選任した職員による内部監査室を設置し、監事と連携して業務監査及び会計監査を実施している。

5-4. 財務基盤と収支

5-4-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

5-4-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

本学は、専門学校を継承して平成26(2014)年4月に、新たに日本医療大学として開学して以来、組織運営体制を整備することに注力してきたが、本学が将来に向けて安定した経営を維持しながら、大学としての使命を果たしていくために、収支構造の見直しを行い、本法人の経営を学生納付金等の収入の範囲内で行うこととした。すなわち、従来予算要求の積み上げ方式から収入予算枠内で事業を組み立てる方式に変更するとともに、共通経費等を見直し、非効率で無駄な経費の削減を徹底するほか、選択と集中による予算の重点的な配分によって、事業活動収支の黒字転換を図ることを予算編成の基本方針とした。

財務に関しては、中長期事業計画を踏まえた収支計画に則り、盤石な基盤形成に向けた取り組みを進めている。

また、教学への支援の充実強化に向けて、教学と法人の一体的経営を図り、現下の厳しい競争的環境にも迅速に対応し得るよう財務基盤を一層強化することなどを目的として、平成30(2018)年4月に外部委員を含めた経営戦略会議を設置し、経営及び教学全体に関する事項について検討している。

さらに、予算編成の基本方針を全うし得るよう、収容定員に対する学生数100%の確保に努めるとともに、公的研究費や民間の助成金に関する説明会を実施し、外部資金獲得に向けた取組みを促進している。

また、専門学校を閉校したことによる影響を除き、平成26(2014)年に大学を設置して以来、事業活動収入は着実に増加しており、令和3(2021)年度の事業活動収支計算書では、収入合計が2,882,299千円となっている。

一方、同年度の基本金組入前当年度収支差額は246,750千円の収入超過となっている。平成26(2014)年度に開学して以来、毎年度、特別寄附金を受贈するとともに、収入に見合った経費の支出を考慮した運営を継続していることから、この7年間全てで収入超過となっており、収支のバランスは保たれている。

5-5. 会計

5-5-① 会計処理の適正な実施

本学にあつては、「学校法人会計基準」、「学校法人日本医療大学経理規程」、「学校法人日本医療大学経理規程取扱細則」等に基づき、会計処理を適正に行っている。

学内の会計処理で判断に難しい事例が生じた場合は、日本私立学校振興・共済事業団、公認会計士、税理士等に確認するなどして、適切に対応している。

予算については、事務局予算編成担当が、各部署のヒアリングを行うなどして予算原案をとりまとめた上で、理事長が総合的に調整して予算案を策定し、3月末までに評議員会の意見を聞き、理事会において審議、決定している。

また、補正予算についても、必要に応じ同様の手続きを経て措置している。

5-5-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

会計監査は、公認会計士による監査、監事による監査及び内部監査が行われている。

公認会計士による監査は、当該年度の12月、3月、次年度の4月、5月に実施されており、会計処理に関する指導、助言があつた場合には、速やかに対応している。

監事は、「学校法人日本医療大学寄附行為」第9条により2人が選任されており、その業務は同寄附行為及び「学校法人日本医療大学監事監査規程」により定められている。

また監事は、理事会、評議員会に出席し、本法人の業務や財産状況について把握するとともに、本学の業務執行内容等について、適宜意見を述べている。

さらに、内部監査においても、会計監査の監査項目を定めた内部監査計画書に基づいて監査を実施し、報告書を作成の上、理事長へ報告するとともに、所要の対応策を提示している。

6. 内部質保証

6-1. 内部質保証の組織体制

6-1-1① 内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立

本学は、建学の精神として掲げている「共生社会の実現」の精神に基づき、「日本医療大学学則」第3条に、「本学は、教育水準の向上及び活性化を図り、その目的と社会的使命を果たすため、教育研究活動等について自己点検及び評価を行う」と定め、内部質保証のための組織を整備するとともに、責任体制を確立している。

具体的な本学の内部質保証に関わる事項等は、開学以降「日本医療大学自己点検評価委員会規程」に即して、自己点検・評価委員会が中心となり点検及び評価を実施している。

同委員会の発足は平成 27(2015)年4月であり、同年11月25日に初回の会議が開催された後、毎月第4水曜日を定例会議日としている。

第一回目の会議開催時点では、診療放射線学科は開設されていないことから、看護学科教員3人、リハビリテーション学科教員3人、事務局長で委員会を構成していたが、現在は、看護学科長、リハビリテーション学科長、診療放射線学科長、臨床検査学科長、各学科から2人ずつ選出された教員8人、法人グループ長の13人を構成員として委員会を運営している。

同委員会では、受審認証評価機関の選定、年報の作成、教員の自己点検・評価の実施、全学的な委員会活動に対する点検を行い、円滑なPDCAサイクルを実行するために、学内から幅広く情報を収集する体制を整えた。また、より広義の内部質保証活動については、学内の各種委員会などにおいて継続的に実施している。例えば、授業内容の向上・改善を目的とした「学生による授業評価アンケート」は、FD委員会が中心となって実施し、結果をホームページや掲示板に公表しているほか、学生委員会を中心に、大学における学生の生活環境の向上を目的として、「学生生活全般についての満足度調査」を実施するなどして、学生からの要望を採択するための仕組みを整えている。

このように各委員会において提起された問題点や改善点を次年度の事業計画に反映することなどを通じて、毎年度の目標設定や自己点検を行う内部質保証の充実に努めている。

6-2. 内部質保証のための自己点検・評価

6-2-1① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有

各委員会は、毎年の活動内容を自己点検・評価した上で委員会活動報告書を作成し、自己点検・評価委員会に提出している。自己点検・評価委員会では、各委員会から提出された内容の実行状況と総括のチェックを行い、年報という形で公表している。各委員会は自己点検・評価委員会による検証結果に基づき改善を行い、これをまとめて次年度の事業計画案を作成し、最終的に学長から次年度大学事業計画として、年度末の「大学方針説明会」において説明を行っている。

学校教育法第109条に基づき、本学ではエビデンスに基づいた自己点検・評価に努めており、自己点検・評価委員会によって、全教員を対象に教員の自己点検・評価を実施している。この自己点検・評価は、教員自身の活動について自己点検・評価を行うことにより、自己の主体的な能力開発や教育、研究などの活動の活性化を促進し、更なる教育研究の高揚を図ることを目的としている。自己点検・評価する分野は、「教育」、「研究」、「大学業務」、「社会貢献」の4分野とし、教員自らが、年度当初に目標を立て、「教員自己点検・評価表」に記入し、上司（看護学科においては、分野の教授を分野に属する准教授、講師、助教、助手の上司とし、学科長を教授の上司とする。リハビリテーション学科におい

ては、専攻長を専攻に属する准教授、講師、助教の上司とし、学科長を教授の上司とする。診療放射線学科、臨床検査学科においては、学科長を教授、准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長の上司は学部長とし、学部長の上司は学長とする)と協議の上、同意を得る。年度末には、教員自己点検・評価表に年度目標に対する成果等を記入し、再度上司と面談の上、自己点検・評価結果が確定する。

この教員の自己点検・評価は、平成 28 (2016) 年度から毎年度実施し、教員自己点検・評価表の結果に関しては、自己点検・評価委員会がまとめ、本学の年報及びホームページ上にて公表している。

また、各委員会から年度末に提出される「活動報告」や次年度の「活動計画」について内容の吟味を行っている。これまでに実例はないが、吟味の結果「日本高等教育評価機構」の基準を充たさない事象が認められた場合、委員会に是正を求めることにしている。

毎年、「日本高等教育評価機構」から公表される「判断例」について、本学の実態と照合し適否を確認している。

6-2-② IR (Institutional Research) などを活用した十分な調査・データの収集と分析

平成 30 (2018) 年 6 月 27 日開催の自己点検・評価委員会において IR 組織の設置が提案されたことを受け、教授会において同委員会の下部組織として「IR 専門部会」を設置することを決定した。第 1 回 IR 専門部会において、各委員会における活動記録(議事録や調査関係書類等)を同部会に提出するよう依頼した。しかし、平成 30 (2018) 年 10 月 22 日開催の運営会議において、IR 組織は自己点検・評価委員会の下部組織ではなく、独立した組織にすべきとの方針が示され、同月 24 日開催の第 3 回 IR 専門部会において、同部会を平成 30 (2018) 年度末に廃止することを決定した。そして平成 31 (2019) 年 1 月 23 日開催の教授会において、平成 31 (2019) 年度から自己点検 IR 室をより上位の組織として位置づけ、一層の機能強化に向けた取組みを推進することが承認された。こうした背景を踏まえて設置された IR 室は、同年 4 月 1 日に設置された運営会議に並ぶ上位組織として位置付けられ、現在は、同会議と同じ構成員(学長、学科長、事務局長等)により運営されている。IR 室の設置により、IR を推進する環境が整い、今後の運営が期待される。

本学では、教育・学修支援に関する調査・分析のために、FD 委員会が中心となって「学生による授業評価アンケート」を実施している。このアンケートは、平成 28 (2016) 年度に見直しを実施したところであるが、各教員は、同アンケートの結果を今後の教育にどう反映させるかを書面で提出するとともに、アンケート結果は学生にも公開し、教員・学生間の意見交流の機会としている。

また、本学では、学生委員会が、例年 5 月に全学生を対象として実施している「学生の生活に関するアンケート」を通じて、学生生活の実態と大学に対する要望を把握するとともに、学生がより一層充実した大学生活を送ることができるよう、種々の改善に努めている。本アンケートは無記名とし、基本的属性、入学に至る経緯、大学生活の現状、大学生活全般についての満足度、学生気質などに関する回答についてはマークシート方式を、また、大学へのアクセス、学生食堂、施設・設備などの改善要望などに関する回答については記述式を採用している。アンケート結果に関しては、毎年、教授会に報告するとともに、学生には学生ポータルサイトで発信しているニュースレター「あずまし」を通じて周知している。また、この「あずまし」には、学生から提案のあった改善案に対する取り組みについても紹介している。

6-3. 内部質保証の機能性

6-3-① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性

本学の内部質保証は、「自己点検評価委員会規程」に基づき、自己点検・評価委員会が中心となって計画（Plan）、実施（Do）した自己点検・評価の結果を、自己点検・評価委員会や教授会で報告・検討（Check）し、その結果を全学の教職員が教育研究活動に反映し、改善を図り（Action）、さらにそれを点検・評価に結び付けていくという内部質保証のためのPDCAサイクルは確立している。前述のように、大学全体として、自己点検・評価は毎年度継続的に実施し、その結果についても日本医療大学年報としてホームページ上で共有しており、大学の運営に反映させている。

本学は、開学から1年ごとに新学科が増設された経緯があり、旧ディプロマ・ポリシーに沿った教育を展開してきた。しかし、開学後4年を経過した平成30（2018）年頃から建学の精神などと三つのポリシーを改めて全面的に見直す必要性が生じてきた。平成30

（2018）年度6月から10月にかけて、学長のリーダーシップのもと、自己点検・評価委員会委員である各学科長を構成員とする運営会議を中心に三つのポリシーの見直しの原案を作成し、さらに学科会議・教授会等関係会議において検討を重ね、新たな三つのポリシーが策定された。これによって、入学選抜、教育、卒業の各段階の目標の具現化を図った。

それに伴い、カリキュラム委員会において、カリキュラム委員会委員長のもと、自己点検・評価委員会委員も構成員として加わり、カリキュラムマップの原案を作成し、各学科において検討を重ねた。平成30（2018）年度12月の教授会においてカリキュラムマップが提示され、ディプロマ・ポリシーの内容をカリキュラムに反映した。SYLLABUSにおいては、令和元（2019）年度から、すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの関連性を明示し、科目レベルにおいても各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施している。

本学の内部質保証は三つのポリシーを起点とした内部質保証の取り組みが開始されている。令和2（2020）年度までは、年報の完成に時間を要し、年報の中身について点検・評価が疎かになっていた。しかし、令和2（2020）年度より年報の作成を早め、大学評価機構の評価基準に照らし合わせて年度内に自己点検・評価を行った。令和3年度3月には、今後の大学運営・設置計画について方針説明会として、理事長から「サクセスロードプラン」が示され、大学運営の中長期計画、事務局改革などが示された。

7. 大学が独自に設定した基準による自己評価

7-1. 認知症研究所

7-1-1 本研究所の目的は、認知症を惹起する疾患の制圧を達成するため、これら疾患に関する研究及び各種事業を行い、もって国民の健康福祉の増進に寄与することとする。

7-1-2-① 研究：「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」株式会社クオリからの「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」に関する受託研究、「アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証Ⅱ」、「スヌーズレン」に関する研究

7-1-2-② 普及：認知症サポーター養成講座

7-1-2-③ 外部連携：「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」、「アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証Ⅱ」

基準項目「研究」に関して、(1)株式会社クオリからの受託研究として、認知症高齢者への理想的ないすを開発するため、八田研究員を中心に、岸上研究員も交えて研究を進めている。(2)株式会社アミノアップからの受託研究として、ノテ福祉会の介護事業所の入居者、利用者を対象に、アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の臨床効果を図るための試験を2018年10月から開始し、2020年2月で終了した。研究成果を2022年3月にジャーナル「*Evidence-based Complementary and Alternative Medicine*」に投稿し、査読中である。(3)ノテ福祉会と共同し、八田研究員と新岡研究員を中心に、「スヌーズレン」に関する研究を行っている。

基準項目「普及」に関して、認知症サポーター養成講座を、5月7日日本学保健医療学部看護学科、6月30日診療放射線学科、10月18日臨床検査学科、11月24日リハビリテーション学科、3月14、15日外国人技能実習生、19日生涯学習講座で実施した。

基準項目「外部連携」に関して、研究(1)に関連して株式会社クオリ、研究(2)に関連して株式会社アミノアップから受託研究を実施している。

7-2. 教員の自己点検・評価

「教員の自己点検・評価制度」は、平成28年度に制定された制度であり、前年度末に次年度の教育・研究・大学業務・社会貢献についての重み付けを上司と共に設定し、年度末にそれらについて自己評価を行い、その結果を基に翌年度の目標を立て、PDCAサイクルを実践するものである。

【教員の自己点検・評価制度】

教員の自己点検・評価（以下「自己点検・評価」という）制度は以下のとおりである。

(1) 制度の目的

教員自身の活動について自己点検・評価を行うことにより、自己の主体的な能力開発や教育、研究などの活動の活性化を促進し、更なる教育研究の高揚を図ることを目的とする。

(2) 対象者

日本医療大学の全教員を対象とする。

(3) 自己点検・評価における基本方針

- ①自己点検・評価する分野は、「教育」、「研究」、「大学業務」、「社会貢献」の4分野とする。
- ②教員自らが、年度目標を立て、「教員自己点検・評価表（以下、「評価表」という。）」に記入し、上司と協議の上、同意を得る。同表に、年度目標に対する成果等を記入し、上司と面談の上、自己点検・評価結果を確定する。

(4) 自己点検・評価結果の用途

- ①自己点検・評価結果は、次年度の年度目標作成時の参考とする。
- ②教員の顕彰時の資料とする。
- ③昇任審査時の資料とする。

(5) 自己点検・評価の実施方法

- ①2月15日まで 評価表に成果等を記入 ⇒ 上司に提出 ⇒ 上司と面談
- ②2月末日まで 自己点検・評価結果を確定
- ③3月15日まで 評価表に次年度目標を記入 ⇒ 上司に提出 ⇒ 上司と協議
- ④3月末日まで 次年度目標を確定

(6) 上司とは

看護学科においては、分野の教授を、分野に属する准教授、講師、助教、助手の上司とし、学科長を教授の上司とする。

リハビリテーション学科においては、専攻長を、専攻に属する准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長を教授の上司とする。

診療放射線学科においては、学科長を教授、准教授、講師、助教、助手の上司とする。

臨床検査学科においては、学科長を教授、准教授、講師、助教、助手の上司とする。

学科長の上司は、学部長とする。

学部長の上司は、学長とする。

(7) 職階別各分野重み付けの目安（但し、上司と協議の上、決定する）

職階別各分野重み付けの目安については、表7-2の通りである。

表7-2 教員の自己点検・評価制度（職階別各分野重み付けの目安表）

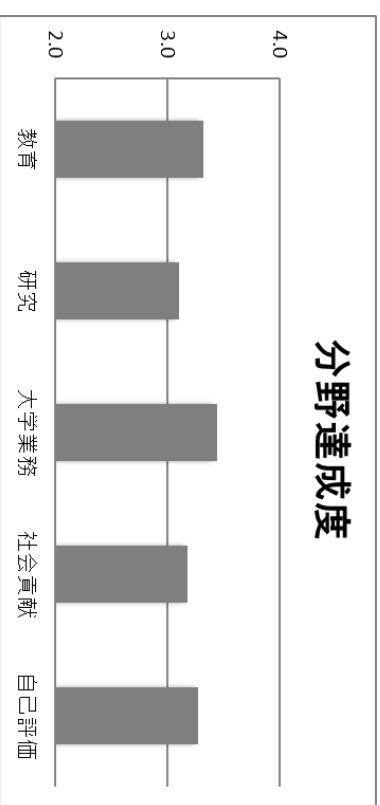
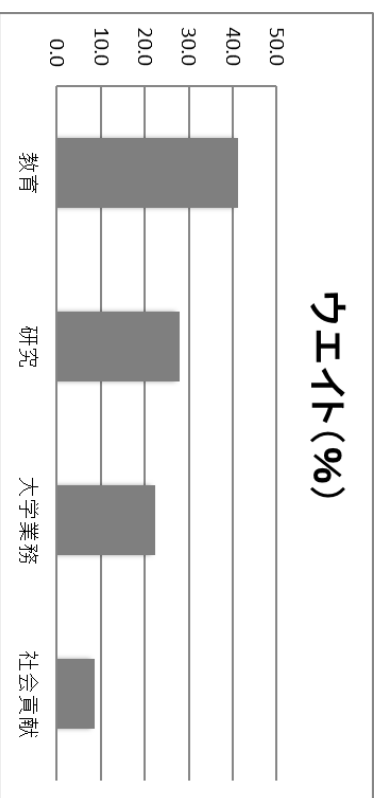
	教育 (%)	研究 (%)	大学業務 (%)	社会貢献 (%)
教授	30～40	20～30	15～40	5～20
准教授	35～50	40～50	10～30	0～15
講師	35～50	40～60	10～30	0～10
助教・助手	30～40	40～60	10～20	0～5

(8) 結果の公表

匿名化した評価表を、分野達成度及び自己評価を統計学的に処理し、結果をホームページ等に公表する。

結果 1 全教員のウエイト設定と分野達成度

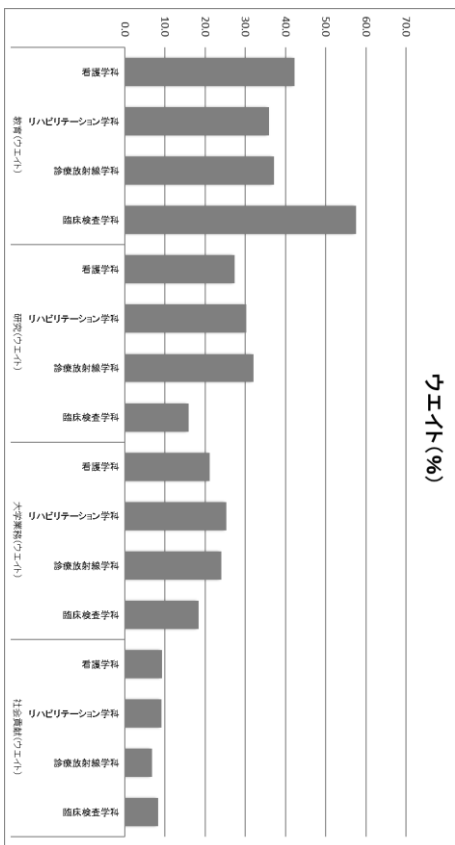
	ウエイト(%)					分野達成度				
	教育	研究	大学業務	社会貢献	中央値	教育	研究	大学業務	社会貢献	自己評価
平均	41.1	27.9	22.4	8.7		3.3	3.1	3.4	3.2	3.3
SD	12.5	10.9	12.3	4.6		0.8	1.0	0.8	1.1	0.7
最大値	80	50	75	20		5	5	5	5	5
最小値	15	0	8	0		1	1	2	1	2
中央値	40	30	20	10		3	3	3	3	3



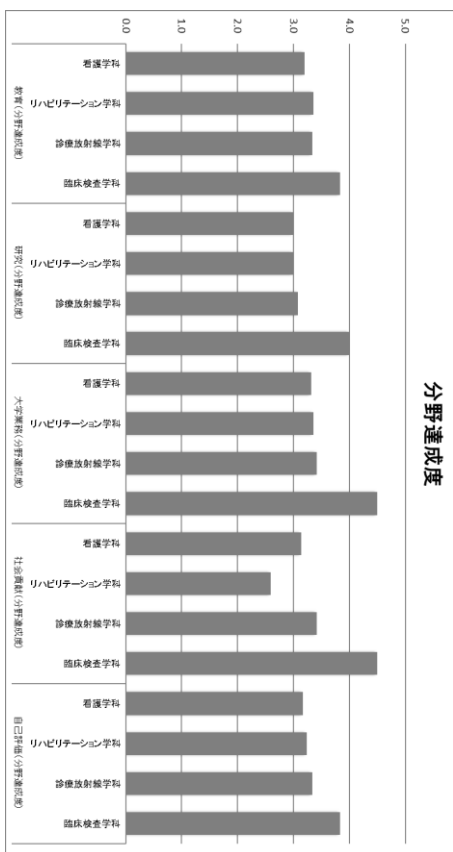
結果2 学科別ウエイト分野達成度

	教育(ウエイト)				研究(ウエイト)				大学業務(ウエイト)				社会貢献(ウエイト)				自己評価(分野達成度)			
	看護学科 UwE(ウエイト)	診療放射線学科 UwE(ウエイト)	臨床検査学科 UwE(ウエイト)	リハビリテーション学科 UwE(ウエイト)	看護学科 UwE(ウエイト)	診療放射線学科 UwE(ウエイト)	臨床検査学科 UwE(ウエイト)	リハビリテーション学科 UwE(ウエイト)	看護学科 UwE(ウエイト)	診療放射線学科 UwE(ウエイト)	臨床検査学科 UwE(ウエイト)	リハビリテーション学科 UwE(ウエイト)	看護学科 UwE(ウエイト)	診療放射線学科 UwE(ウエイト)	臨床検査学科 UwE(ウエイト)	リハビリテーション学科 UwE(ウエイト)	看護学科 UwE(ウエイト)	診療放射線学科 UwE(ウエイト)	臨床検査学科 UwE(ウエイト)	リハビリテーション学科 UwE(ウエイト)
平均	42.3	35.9	37.1	57.5	27.3	30.3	32.1	15.8	21.1	25.3	24.0	18.3	9.3	9.1	6.8	8.3	0.2	0.2	0.2	0.2
SD	12.0	5.9	9.4	19.9	10.8	8.2	12.3	7.4	10.9	9.1	19.3	11.7	4.4	5.1	5.2	2.6	0.7	0.7	0.7	0.7
最大値	80	50	50	80	80	50	40	25	60	40	75	40	40	20	20	10	5	5	5	5
最小値	20	30	15	25	0	20	5	5	10	10	8	10	0	0	0	5	2	2	2	2
中央値	40	35	40	60	30	30	40	18	20	25	18	15	10	10	5	10	3	3	3	4
平均	看護学科 UwE(ウエイト)	診療放射線学科 UwE(ウエイト)	臨床検査学科 UwE(ウエイト)	看護学科 UwE(ウエイト)	看護学科 UwE(ウエイト)	診療放射線学科 UwE(ウエイト)	臨床検査学科 UwE(ウエイト)	看護学科 UwE(ウエイト)	看護学科 UwE(ウエイト)	診療放射線学科 UwE(ウエイト)	臨床検査学科 UwE(ウエイト)	看護学科 UwE(ウエイト)	看護学科 UwE(ウエイト)	診療放射線学科 UwE(ウエイト)	臨床検査学科 UwE(ウエイト)	看護学科 UwE(ウエイト)	看護学科 UwE(ウエイト)	診療放射線学科 UwE(ウエイト)	臨床検査学科 UwE(ウエイト)	看護学科 UwE(ウエイト)
SD	9.2	8.4	8.8	3.8	8.0	3.0	3.1	4.0	3.5	3.4	4.3	3.1	2.6	2.6	4.5	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
最大値	51	42	49	13	50	14	10	8	49	49	49	15	15	14	4	5	5	5	5	5
最小値	1	2	2	2	1	5	1	3	2	2	2	1	1	1	2	2	2	2	2	2
中央値	3	3	3	4	3	3	3	4	3	3	3.5	4.5	3	3	3.5	4.5	3	3	3	4

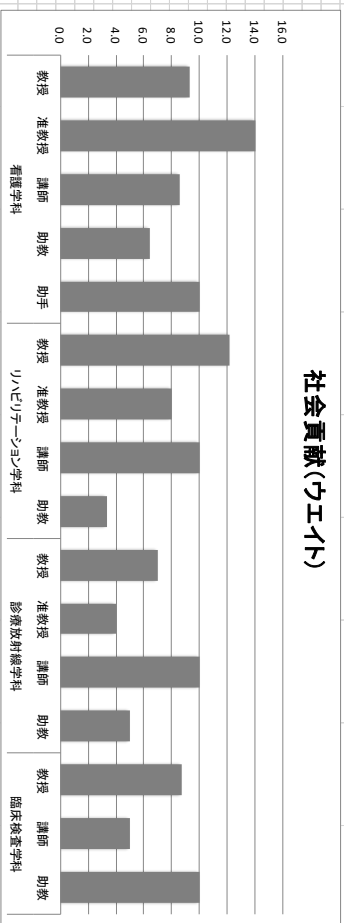
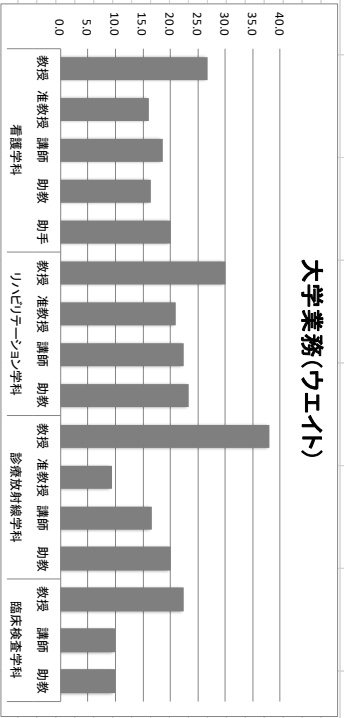
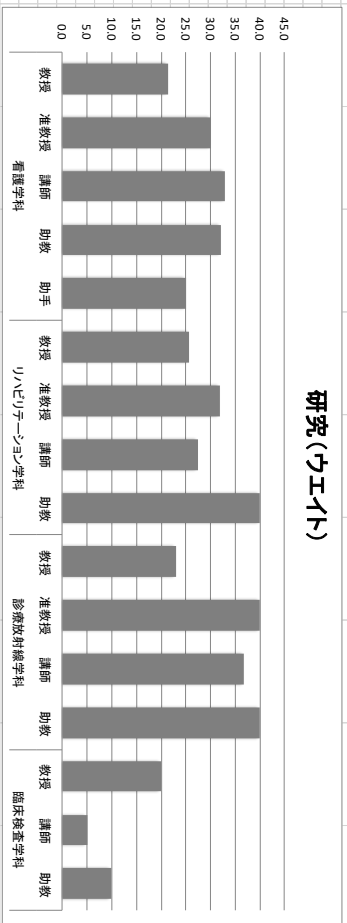
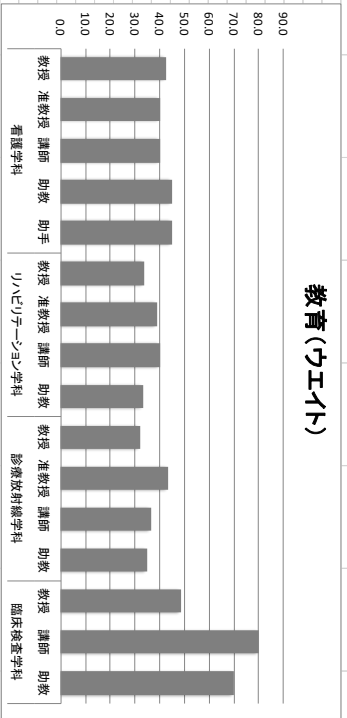
ウエイト(%)



分野達成度



結果4-1 学科・職位別ウエイト設定

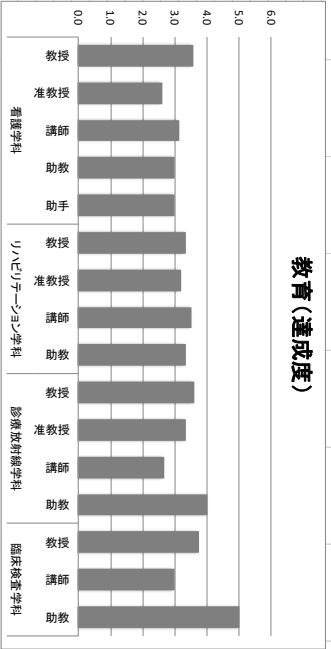


結果5-1 学科・職位別分野達成度

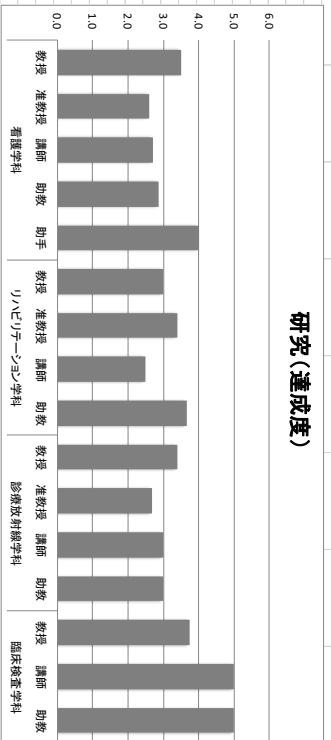
教育(達成度)												
看護学科			リハビリテーション学科			診療放射線学科			臨床検査学科			
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教
平均	3.6	2.6	3.1	3.0	3.3	3.2	3.5	3.3	3.6	3.3	2.7	4.0
SD	0.8	0.9	0.7	0.0	0.5	0.4	0.7	0.6	0.9	0.6	0.6	3.8
最大値	3	3	4	3	4	4	4	4	5	4	2	5
最小値	3	1	2	3	3	3	3	3	3	3	2	3
中央値	3	3	3	3	3	3	3.5	3	3	3	3	4
研究(達成度)												
看護学科			リハビリテーション学科			診療放射線学科			臨床検査学科			
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教
平均	3.5	2.6	2.7	2.9	3.0	3.4	2.5	3.7	3.4	2.7	3.0	3.0
SD	0.9	0.5	1.1	0.4	0.9	0.5	0.7	1.5	0.9	1.5	1.0	1.0
最大値	5	3	4	3	4	4	3	5	4	4	4	3
最小値	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3
中央値	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3	3	3
大学業務(達成度)												
看護学科			リハビリテーション学科			診療放射線学科			臨床検査学科			
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教
平均	3.5	3.2	3.0	3.1	3.5	3.4	2.5	3.3	3.8	3.0	3.0	4.0
SD	0.9	0.8	1.0	0.4	0.5	0.5	0.7	0.6	0.8	1.0	1.0	4.3
最大値	5	4	5	4	4	4	2	4	5	4	4	5
最小値	2	2	2	3	3	3	2	3	3	2	2	4
中央値	3	3	3	3	4	3	3	3	4	3	3	4
社会貢献(達成度)												
看護学科			リハビリテーション学科			診療放射線学科			臨床検査学科			
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教
平均	3.7	2.8	3.0	2.6	2.5	3.2	3.0	1.3	3.4	3.8	3.0	3.0
SD	0.8	1.1	1.0	1.1	0.8	0.8	0.0	0.6	0.5	0.5	0.8	0.5
最大値	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5
最小値	3	1	1	1	1	2	3	1	3	3	2	3
中央値	4	3	3	2	3	3	3	1	3	4	3	4
自己評価												
看護学科			リハビリテーション学科			診療放射線学科			臨床検査学科			
教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	准教授	講師	助教
平均	3.5	2.8	2.9	3.0	3.2	2.5	3.3	3.3	3.4	3.3	3.0	4.0
SD	0.8	0.4	0.9	0.0	0.4	0.7	0.6	0.4	0.5	0.6	1.0	0.6
最大値	5	3	4	3	4	3	4	4	4	4	4	4
最小値	3	2	2	3	3	2	3	3	3	3	2	4
中央値	3	3	3	3	3	2.5	3	3	3	3	3	4

結果5-1 学科・職位別分野達成度

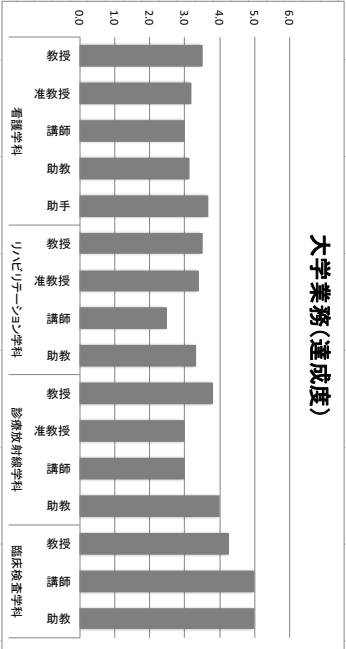
教育(達成度)



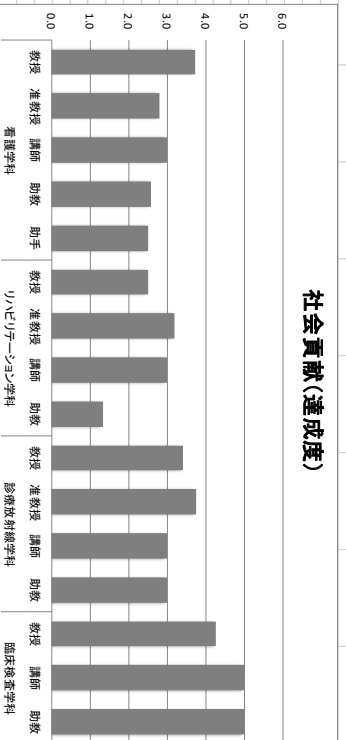
研究(達成度)



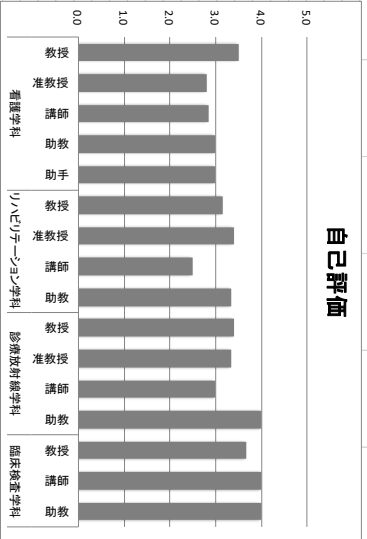
大学業務(達成度)



社会貢献(達成度)



自己評価



教員の自己点検・評価に対する分析

本学では教育、研究、大学業務、社会貢献の各分野に対して職位別に重み付けの目安を設定している。それをもとに各教員はウエイトや具体的な目標を年度当初に設定し、それに対する成果を年度末に報告している。目標に対する達成度*を評価5から評価1までの5段階で自己評価している。その結果を集計し分析したものを公表する。結果は1から5を図表で、分析については特記事項のみを提示している。

全教員のウエイト設定と分野達成度を結果1に示す。教育のウエイトは平均が41.1%で、それに対する分野達成度の平均は3.3の評価であった。研究のウエイトに対する平均は27.9%、それに対する分野達成度の平均は3.1の評価であった。大学業務のウエイトに対する平均は22.4%、それに対する分野達成度の平均は3.4の評価であった。社会貢献のウエイトに対する平均は8.7%、それに対する分野達成度の平均は3.2の評価であった。全項目において自己評価は3.0を上回っており、目標は達成されていた。

学科別のウエイト設定と分野達成度を結果2に示す。4学科とも教育におけるウエイトが最も高く、次いで看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科は研究、臨床検査学科は大学業務のウエイトが高くなっていた。分野達成度は一部社会貢献を除き3.0を上回っており、概ね目標は達成されていた。

職位別のウエイト設定と分野達成度を結果3に示す。教育に対するウエイト設定は助教、助手において高く設定されていた。研究へのウエイト設定は准教授、助教が高く設定されていた。大学業務に対するウエイト設定は教授が最も高く、社会貢献に対するウエイト設定は教授と准教授が高かった。職位別の全体的な分野達成度は3.0から3.5の範囲にあり、概ね目標を達成できていたが、社会貢献の分野では助教及び助手の分野達成度が2.5と低かった。

学科・職位別のウエイト設定を結果4-1、4-2に示す。教育のウエイト設定は、看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科で大きな差が見られなかったが、臨床検査学科の講師と助教において高く設定されていた。研究は、リハビリテーション学科の助教、診療放射線学科の准教授、助教において高く設定されていた。大学業務では、診療放射線学科の教授において高く設定されていた。社会貢献では、看護の准教授において高く設定されていた。

学科・職位別の分野達成度を結果5に示す。全体的な自己評価は、概ね達成できたとされる3.0を示しているが、リハビリテーション学科の講師において研究達成度が低く設定されているほか、社会貢献において3.0に達していない自己評価が見られた。

*達成度

評価5：目標を大きく上回る成果があった

評価4：目標を上回る成果があった

評価3：目標を達成できた

評価2：目標を少し達成できなかった

評価1：目標をほとんど達成できなかった

8. 社会貢献

8-1 学生ボランティア

8-1-① 医療関係者として人間尊重、相互扶助の精神を育む

○課題教育活動の企画・実施

本学では、医療に従事する者として、人間尊重と相互扶助の精神を涵養するための行動を各種行っている。その中でも啓発的な教育活動である「いのちのパネル展」、講演会「命」は今年度も実施した。

8-1-② 学生自らが課題を見つけ、解決のために行動することができる

○課題解決型の行動を自主的に行動

上記のような課題教育を受けるかたちで、学生は個人または学内団体の一員として自ら課題を探し、それを解決すべく様々な場にて行動するようになっている。

学友会においては今年度も募金活動やフードバンク活動、各種イベントへのボランティア参加などが予定されていたが、新型コロナウイルスの影響で全て活動を自粛することとなった。

9. 顕彰

学生の表彰として、日本医療大学年度別学生顕彰を実施している。学科学年別にそれぞれの学科から年間の成績をもとに成績優秀学生の推薦を受けて行う成績優秀賞と、通年全学科の教員の推薦を受けて行う社会貢献賞の2つからなっている。令和3年度は前年度の成績をもとに、看護学科35人・リハビリテーション学科26人・診療放射線学科17人が成績優秀賞に選ばれ、2021年4月20日に実施された顕彰状授与式には代表学生のみが出席した。令和3年度社会貢献賞はリハビリテーション学科から2人が選出された。

10. 委員会等活動報告

教授会および各種委員会の活動について以下に示す。

令和3年度 保健医療学部 教授会

回	議案：報告事項		開催日時
01	報告事項	1. 学生顕彰状授与学生候補者について 2. 国家試験合格者について	令和3年04月14日 15:30～15:45 講義室 1327 構成員 46人 出席者 46人 欠席者 なし 議事録署名人 木村 徹
02	意見を求める事項 報告事項	1. 退学について 2. 遠隔講義の管理について 3. 教員選考結果について 1. 学生委員会からのお知らせについて 2. 後援会からの承認事項について	令和3年04月28日 15:30～16:00 講義室 1327 構成員 46人 出席者 45人 欠席者 1人 議事録署名人 草薙 美穂
03	意見を求める事項 報告事項	1. 休学について 2. 実習指導教員委嘱について 3. 2021年度履修登録一覧について 4. 2021年度前期定期試験の時間割(案)について(放射線4年) 5. 2021年度定期試験実施要領について 6. 2021年度入学と学生生活のアンケート実施(案)について 7. 2021年度安心・安全週間実施(案)について 1. 2021年度履修登録遅延提出について 2. 学生委員会からのお知らせ(2021-3)について	令和3年05月26日 15:30～16:00 講義室 1327・WEB 構成員 47人 出席者 43人 欠席者 4人 議事録署名人 工藤 悦子
04	意見を求める事項 報告事項	1. 退学・休学について 2. 2021年度非常勤講師委嘱について(看護・リハ) 3. 2021年度前期定期試験時間割について(放射4年) 4. 看護学科カリキュラム読み替えについて 5. 学術助成費・教育向上研究費の交付について 6. 看護学科教員の公募における選考委員会の立ち上げについて 1. 土日の校舎の使用について他	令和3年06月09日 15:30～16:00 講義室 1327・WEB 構成員 47人 出席者 42人 欠席者 5人 議事録署名人 小山 和也

05	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<p>1. 休学について</p> <p>2. 2021 年度非常勤講師委嘱について（放射）</p> <p>3. 実習施設の追加について（リハ・放射）</p> <p>4. コロナワクチン接種後の副反応に対する公欠について</p> <p>5. 学生委員会アンケートの刷新案について</p> <p>1. 令和 3 年度遠隔授業・最終報告書について</p> <p>2. 安心・安全週間の実施報告について</p> <p>3. 学生・教職員等を対象とした新型コロナウイルスワクチンの職域接種(任意)について</p> <p>4. 衛生検査所登録の報告について</p> <p>1. 「SNS の発信に関する注意事項とお願い」の発信について</p>	<p>令和 3 年 06 月 23 日</p> <p>15:30～16:20</p> <p>講義室 1327・WEB</p> <p>構成員 47 人</p> <p>出席者 42 人</p> <p>欠席者 5 人</p> <p>議事録署名人 佐々木 由紀子</p>
06	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<p>1. 退学・休学について</p> <p>2. 2021 年度非常勤講師委嘱について（看護）</p> <p>3. 2021 年度前期定期試験時間割について</p> <p>4. コロナワクチン接種後の副反応等に伴う定期試験対応パターンについて</p> <p>5. OT 専攻のカリキュラム改定（実習に関わる科目）の検討について</p> <p>6. 学生の懲戒について</p> <p>1. 2021 年度入学と学生生活に関するアンケートの実施について</p> <p>1. その他の報告事項</p>	<p>令和 3 年 07 月 14 日</p> <p>15:30～16:20</p> <p>講義室 1327・WEB</p> <p>構成員 47 人</p> <p>出席者 43 人</p> <p>欠席者 4 人</p> <p>議事録署名人 小山 満子</p>
07	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<p>1. 定期試験結果について（診療放射線学科 4 年）</p> <p>2. 令和 4 年度臨床実習の日程について（リハビリテーション学科）</p> <p>3. ワクチン接種後の副反応による追試験手数料の減免対応について</p> <p>1. 令和 3 年度日本医療大学研究倫理研修会の開催について（案）</p> <p>2. 学生委員会からのお知らせ 2021-4 について</p> <p>1. 新型コロナウイルス抗体検査のお願い</p> <p>2. 名誉教授称号授与式について</p> <p>3. 施設利用（校舎管理に関する諸事項）について</p>	<p>令和 3 年 07 月 28 日</p> <p>15:30～16:10</p> <p>講義室 1327・WEB</p> <p>構成員 47 人</p> <p>出席者 41 人</p> <p>欠席者 6 人</p> <p>議事録署名人 佐藤 秀紀</p>

08	意見を求める事項 報告事項 その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学・休学について 2. カリキュラムの改定について（看護・放射・臨検） 3. 診療放射線学科3年次前期定期試験時間割について 4. 本学研究倫理委員会で承認された研究課題のホームページ上の公開について <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期試験状況報告について <ol style="list-style-type: none"> 1. 「北海道 FSDS フォーラム 2021」発表に向けたアンケートの協力依頼について 2. 日医祭の中止について 3. 今後について 	<p>令和3年08月25日 15:30～16:00 講義室 1327・WEB 構成員 47人 出席者 42人 欠席者 5人</p> <p>議事録署名人 滋野 和恵</p>
09	意見を求める事項 報告事項 その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学・休学・復学について 2. 2021年度 前期定期試験結果について（看護・リハ・放射・検査） 3. 教員選考結果について（看護学科） <ol style="list-style-type: none"> 1. 新学部・新学科の認可について <ol style="list-style-type: none"> 1. 後期授業に向けての環境の整備状況について 2. ワクチン接種実施状況について 	<p>令和3年09月08日 15:30～16:00 講義室 1327・WEB 構成員 47人 出席者 46人 欠席者 1人</p> <p>議事録署名人 高橋 美和</p>
10	意見を求める事項 報告事項 その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学・休学について 2. 2021年度 前期定期試験結果について（看護学科1・2年生） 3. 臨地実習科目の評価方法について（看護学科） 4. 教員公募における教員選考委員会立ち上げについて（診療放射線学科） <ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度 総合型選抜（前期）の実施計画について 2. 「あずまし」28号の発行案について <ol style="list-style-type: none"> 1. 2月の教授会日程変更について 2. キャリアセンターからの報告について 	<p>令和3年09月22日 15:30～16:00 講義室 1327・WEB 構成員 47人 出席者 41人 欠席者 6人</p> <p>議事録署名人 進藤 ゆかり</p>
11	意見を求める事項 報告事項 その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学・休学について 2. 実習指導教員の委嘱について（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 3. 2021年度前期定期試験結果について（診療放射線学科3年生） 4. 教員公募における教員選考委員会立ち上げについて（看護学科） <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生メール（Office365）のドメイン変更について 2. 次年度 SYLLABUS について <ol style="list-style-type: none"> 1. 2月の教授会日程変更について 2. 北海道医学検査学会の開催について 	<p>令和3年10月13日 15:30～15:55 講義室 1327・WEB 構成員 48人 出席者 46人 欠席者 2人</p> <p>議事録署名人 高橋 光彦</p>

12	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<p>1. 後期履修人数一覧について</p> <p>2. 2021年度 前期 定期試験結果について（看護学科4年・リハビリ4年）</p> <p>3. 実習指導教員（模擬患者）の委嘱及び担当科目について（看護学科）</p> <p>1. 第8回 命を学ぶイベント実施計画(案)について</p> <p>2. 学生委員会からのお知らせ 2021-5 について</p> <p>3. カウンセリングルームだより第7号とカウンセリングルームの利用速報について</p> <p>4. 今年度ハラスメント防止委員会主催の啓発事業について</p> <p>5. 2022年度 総合型選抜（前期）の合否について</p> <p>6. 2022年度 学校推薦型選抜（公募前期・指定校）の実施計画（案）について</p> <p>1. FD委員会からのお知らせ</p>	<p>令和3年10月27日 15:30～16:05 講義室 1327・WEB 構成員 48人 出席者 44人 欠席者 4人</p> <p>議事録署名 高儀 郁美</p>
13	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<p>1. 教員公募における選考委員会の立ち上げについて（診療放射線学科）</p> <p>2. 教員選考結果について（診療放射線学科）</p> <p>1. FDセミナーのお知らせ</p> <p>2. 学生の懲戒等に関する委員会の処分案について</p> <p>1. マークシートの使用方法説明会について</p> <p>2. 年報のホームページ公開について</p>	<p>令和3年11月10日 15:30～15:50 講義室 1327・WEB 構成員 48人 出席者 44人 欠席者 4人</p> <p>議事録署名 俵 紀行</p>
14	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p>	<p>1. 退学・休学について</p> <p>2. 履修規程改正案について</p> <p>3. 後期定期試験時間割(看護4年・放射4年)と早期実施(看護2年・放射2年)について</p> <p>4. 教員公募における教員選考委員会の立ち上げについて</p> <p>1. 令和4年度非常勤講師委嘱予定一覧について</p> <p>2. 教育課程 2022 について（看護・リハ(OT)・放射・臨検）</p> <p>3. 令和4年度キャンパスガイドほか制作について</p> <p>4. 学生の懲戒等に関する委員会の処分案について</p> <p>5. 2022年度 学校推薦型選抜（公募前期・指定校）の合否について</p>	<p>令和3年11月24日 15:30～16:10 講義室 1327・WEB 構成員 48人 出席者 46人 欠席者 2人</p> <p>議事録署名 西山 修輔</p>

15	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<p>1. 休学について</p> <p>2. 老年看護学実習Ⅱ追実習について</p> <p>3. 2022年度 非常勤講師委嘱一覧追加分について（リハビリ学科）</p> <p>4. 教員選考結果について（看護学科・診療放射線学科）</p> <p>1. 後期定期試験の早期実施について（臨床検査学科1年生）</p> <p>2. 後期定期試験の開始時間について（4年生）</p> <p>3. 学内団体継続申請について</p> <p>4. 日本医療大学映画鑑賞会『いのちの停車場』について</p> <p>5. ハラスメント相談員のための相談後の手続きについて</p> <p>6. 2022年度 学校推薦型選抜（公募後期）の実施計画（案）について</p> <p>1. マークシートの説明会について</p>	<p>令和3年12月08日 15:30～15:50 講義室1327・WEB 構成員48人 出席者46人 欠席者2人</p> <p>議事録署名 西山 徹</p>
16	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p>	<p>1. 退学について</p> <p>2. 後期定期試験時間割（案）について</p> <p>3. 2022年度 非常勤講師委嘱一覧追加分について（リハ・放射）</p> <p>4. 実習指導教員の委嘱について（リハ学科・作業療法セミナーⅢ）</p> <p>5. 教員選考結果及び学部長候補における選考委員会の立ち上げについて</p> <p>1. カウンセリング便りについて</p> <p>2. 2022年度 学校推薦型選抜（公募後期）の可否について</p>	<p>令和3年12月22日 15:30～15:50 講義室1327・WEB 構成員48人 出席者36人 欠席者12人</p> <p>議事録署名 林 美枝子</p>
17	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<p>1. 後期定期試験時間割について</p> <p>2. 2022年度 非常勤講師委嘱一覧の追加・変更・取消について（リハ・検査・看護）</p> <p>3. 基礎看護学実習Ⅱ追実習について</p> <p>4. 後期定期試験・追再試験のコロナ対応について</p> <p>5. 教員選考（リハ）及び内部昇任（看護・リハ）に伴う選考委員会の立ち上げについて</p> <p>1. 令和3年度学術助成費及び教育向上研究費の活動報告書の提出について</p> <p>2. 2022年度一般選抜入試（前期）の実施計画について</p> <p>3. 図書館利用のルール変更について</p> <p>4. 教員選考結果について</p> <p>1. リモート授業のカウント依頼について</p> <p>2. 各委員会の今年度報告と次年度計画の提出について</p>	<p>令和4年01月26日 15:30～16:10 講義室1327・WEB 構成員48人 出席者46人 欠席者2人</p> <p>議事録署名 八田 達夫</p>

18	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4年生卒業判定（看護・リハ・放射）について 2. 退学・復学について 3. 非常勤委嘱変更一覧（放射）について 4. 成人看護学実習Ⅰ追実習に伴う追試験願いについて 5. 実習施設変更承認申請について（リハ） 6. 除籍について 7. 教員選考及び昇任結果について 8. 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）の制定等に係る、本学研究倫理委員会規程の改正について 9. 新学部新学科の設置に伴う教授会及び学則の主な改正内容について 10. 通信教育部の認可申請について <ol style="list-style-type: none"> 1. 2021 後期定期試験受験資格者数について 2. 学事行事予定について 3. 後期定期試験の新型コロナウイルス感染症関連の欠席者数について 4. 学生委員会からのおしらせ 2021-6 について 5. 令和3年度卒業式について 6. 2022 年度一般選抜入試（前期）及び大学入学共通テスト（前期）の合否について <ol style="list-style-type: none"> 1. 2022 年度方針説明会の開催について（3/31(木)16 時～） 2. 令和4年度教授会の日程について 	<p>令和4年02月16日 15:30～16:30 講義室 1327・WEB 構成員 48 人 出席者 46 人 欠席者 2 人</p> <p>議事録署名 樋口 健太</p>
19	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学・休学・復学について 2. 定期試験結果後期（看護・リハ・放射・検査）・再試験の成績評価について 3. 非常勤委嘱変更一覧について（看護・リハ） 4. 学生の懲戒について 5. 教員選考結果について 6. 新学部・新学科の設置に伴う各委員会規程等の主な改正内容について <ol style="list-style-type: none"> 1. 新入生オリエンテーション・ガイダンスについて 2. 令和4年度日本医療大学学生顕彰の選考と授与式について 3. あずまし 29 号について 4. 学生相談センター活動報告について 5. 2021 年度FDセミナー報告について 6. 2022 年度大学入学共通テスト（中期）の合否について 7. 2022 年度一般選抜（後期）・総合型選抜（後期）の実施計画について 8. 令和3年度卒業式について 9. 研究報告会の開催中止について <ol style="list-style-type: none"> 1. 2022 年度 保健医療学部教授会の日程について 2. 2022 年度 会議体・委員会等構成員について 3. 自己点検・評価委員会からの報告 	<p>令和4年03月09日 15:30～16:40 講義室 1327・WEB 構成員 48 人 出席者 45 人 欠席者 3 人</p> <p>議事録署名 福山 篤司</p>

20	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <p>その他</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退学・休学・復学について 2. 仮進級の可否について 3. 非常勤委嘱一覧について（臨床検査学科） 4. 履修規程について 5. 規程の改正について <ol style="list-style-type: none"> 1. 新入生オリエンテーション・ガイダンス及び在校生ガイダンスについて 2. 新年度へ向けた教務委員会からのお願いについて 3. 2022年度大学入学共通テスト選抜（後期）・一般選抜（後期） ・総合型選抜（後期）の合否について 4. 令和4年度入学式について 5. 次期学長候補者の選考について <ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度 会議体・委員会等構成員について 2. 2022年度教授会構成委員について 3. 2022年度生涯学習講座のスケジュールについて 4. 自己点検・評価委員会からのお願いについて 5. 令和4年度日本医療大学学生顕彰の選考について 	<p>令和4年03月23日</p> <p>15:00～16:40</p> <p>講義室 1327</p> <p>構成員 48人</p> <p>出席者 42人</p> <p>欠席者 6人</p> <p>議事録署名 松本 真由美</p>
----	--	---	--

委員会・委員長名	図書・学術振興委員会 委員長：保健医療学部看護学科 教授 小山満子
構 成 員	教授：小山満子、草薙美穂、高橋美和、俵紀行、西山修輔、岸上博俊、徳永祐一、梅森祥央 講師：合田央志 事務局：杉原章仁 図書司書：栗本瑞恵、藤ノ木良子
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
1. 令和3年度の図書の購入・受入	令和3年度は、看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科に新設学科の臨床検査学科を加え、和書、洋書、視聴覚、電子和書、和雑誌、洋雑誌の購入・受入状況を把握した上で各学科の新たな購入と受入を行い、教育の充実を図る対応を行うことがほぼできていたことが確認された。 今年度は、各学科の全体予算の削減により、運営予算が不足していた。また、学生の希望図書の予算計上として、各学科から5万円を均等に支出して対応した。その結果、各学科の予算不足となった。 今後は学生用の希望図書費として予算計上できるように全体予算の増額を希望することが確認された。また、教養の領域などの図書費用は、看護学科の予算内で支出されている現状にある。次年度からは各学科で均等に予算を支出する必要があることが確認され、次年度の課題とした。
2. 図書の蔵書等の資産確認と資産整理	雑誌製本と定期的な蔵書点検を行うことができた。また、学術機関リポジトリへの登録準備、不明図書の除却、寄贈図書の受入と資産整理を行うことを継続して進めた。また、新学部・学科の設置に関する認可後には、計画的に図書の受入及び図書館移転準備を行った。
3. 図書館の文献検索等に関するガイダンス	看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科、臨床検査学科の図書の利用を促進するために、感染予防を前提に入学時は資料配布とともにオンラインによる周知を行った。また、文献検索等に関するガイダンスは適切な時期にオンライン中心の周知を実施した。また、新型コロナウイルス感染予防を前提にゼミナールなどの適切な時期に少人数制対応や個人対応を行った。また、随時、最新情報を最大限取り入れたオンライン中心の対応とし、各学科の学習及び研究活動の充実を図った。今後も社会情勢に応じた対応を行う必要がある。
4. 紀要第8巻を発刊	昨年度までは紀要の編集委員として、専門性のある編集委員が不足していたために編集委員以外に協力を依頼して進めてきた。今年度から専門性のある各学科の教員の協力を得て査読者等に依頼する方法に変更して進めた。また、新学部の設置に向けては、紀要の規定の改正を行った。また、日本医療大学紀要執筆要領の見直しを行い、改正（追記）を行った。
5. 第8回保健医療学部研究報告会	4学科共同の研究報告会を3月末（例年、方針説明会頃）に予定していた。新型コロナウイルス感染予防対策として、社会情勢を把握した対応を行う必要があり、2月以降は、学生や教職員の陽性者が増加したため、教職員間のクラスター発生を避けることを優先した対応を必要としたため、再検討して進めた。 その結果、オンラインでの発表会も検討して進めたが、最終的には報告会を中止し、報告要旨集を各教員に配布する方法に変更することが確認された。
6. 新型コロナウイルス感染予防対策に向けた図書館の運営について	図書館の利用を促進するために、感染予防対策としての口腔内乾燥予防と脱水予防対策を含め、知的財産を保護することを前提に条件付きとした飲み物の持ち込み許可を検討し、図書館利用のルール変更を提案した。その結果、教授会で承認された後（12月末）に学生・教職員に周知した。卒業生やグループ職員の入館は不審者を予防する対応で強化した。

7. 退職者の返却図書（個人研究費、各種助成金）について	教員の研究や講義等の妨げにならないことを基本とし、個人研究費等による退職者の返却図書と新任教員等の購入図書に重複する図書があり、個人研究費用による図書購入時においては、期日内（後日指定）に図書司書と相談の上借用か、購入かを決定する。貸出の希望がなかった図書については、図書館に所属する書と廃棄する書（主に雑誌や書き込みが激しいもの）を選別し取り扱った。
8. その他 1) 紀要印刷の印刷方法の検討	上層部より費用削減の目的で学内印刷の提案があり、検討した。その結果、学内の印刷は大学としての品位の低下につながることや、印刷経費の比較をした結果、印刷会社への依頼が妥当であった。今後も印刷会社の印刷方法を継続することとした。
2) ワイナリーのジャーナルコアコレクション形成について	ワイナリーのジャーナルコアコレクション形成についての使用料金について、活用状況や料金の重複負担を考慮して、2つのキャンパス継続の必要性の有無が問題提起された。その結果、新設学部の図書としてワイナリーの電子ジャーナルを申請し、認可されているため、AC 期間の4年間は継続が必要である。また、2つのキャンパス同時継続の使用料金は、1つのキャンパス料金であることが確認された。
3) 外部の査読料金の検討	外部の諸先生に査読を依頼する時に本校の査読の謝礼として図書カードを同封している。図書カード金額が安価であり、謝礼額としての図書カード金額の見直しを提案し、検討した。全国的な査読料の謝礼額について情報収集を行い、平均的な金額を上層部に申請し、承認を得た。
4) 図書・学術振興委員会の規定の改正について	新設の学部（総合福祉学部）の認可に伴い規程の改正を行い、教授会で承認を得た。

委員会・委員長名	キャリアセンター運営委員会 センター長：保健医療学部リハビリテーション学科 教授 大堀具視
構 成 員	教授：草薙美穂、山田敦士、石橋晃仁、梅森祥央 准教授：相馬幸雪、及川直樹 助教：藤田智、阿部匡史、磯辺正道 センター事務員：小岩志保 事務局：杉原章仁
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
センターの方針 ・2021年度は新キャンパス移転、および臨床検査学科が開設される。また、キャリア学修支援センターを「キャリアセンター」に改称し、主な業務は規程第2条に示す、(1)キャリア構築のための情報提供及び発信、(2)キャリア支援等に関するセミナー及びイベントの企画、開催、運営全般、(3)キャリア構築や就労の相談援助、(4)その他センターの目的達成に必要な業務を整備する。本年度からセンター専従の事務員を配置するが、入学定員の増加もあり、各学科の特殊性を踏まえつつ、より効果的、効率的なセンター運営を行う必要がある。本学としてのキャリアセンター事務局機能を強化すべく体制を整える。本学学生が社会人、職業人としての資質を備えるべく本学キャリアセンターのサービスをさらに充実させていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・新キャンパス移転において、本キャリアセンターは本学2Fに資料室と事務室、さらに4F個別相談室兼事務室を設け、本年度から全学科全学年の学生を支援する体制として整えた。 ・従来から各学科で実施していたキャリア講座・就職支援を踏襲し実施した。 ・各学科共通のキャリア教育として、今年度は新入生ガイダンスを通じキャリアセンターの紹介を図るとともに、学生へより身近なセンターとなるよう Teams チャット機能を最大限活用し個々への支援を行った。また、新設された臨床検査学科1年生向けキャリア講座を企画実施し、将来的には学科共通プログラムを系統だて実施していく。 ・就職支援に係る個別相談・指導（履歴書・小論文添削、面接対策など）については学科の採用市場等も踏まえ、窓口や対応手段を事務局と部門員で協働のうえ今後も整えていく。 ・各学科独自のキャリア教育については、学生に必要なサービスが行き届くという観点からも、実施内容や実施学年、回数など継続的に見直し、今後も部門員と連携し事業計画に反映していく。 ・就職率100%を達成するため、各医療機関・施設等と本学の関係強化を図り、学科部門員と情報共有のうえ、学生一人ひとりの資質を活かしながら相談業務や指導を行った。なお、キャリアセンター事務体制は1人体制であったが、さらに増員が必要であり、学生のサービス向上をめざし、事務員のスキルアップも併せて実施のうえ、引き続き本学学生の市場価値を上げていけるよう支援を行っていくことが必須である。
学科共通 ・学生がキャリアアップに対して主体的に行動し、専門職として誇りを持った社会人を育成するために、学部共通及び学科独自のキャリア教育支援のさらなる充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・就職ガイドブック 本年度から紙冊子の印刷を取りやめ、学科共通の内容に一新しキャリアセンターで作成のうえデータ化し学生へ活用を図った。 ・新入生ガイダンス 3学科が同じキャンパスに揃うことを機に、これまで学科別で実施していたガイダンスの内容を見直し、本学共通の新入生ガイダンスとして講話を実施した。 ・求人票管理システム導入 求人票は、センター内にて紙ファイルで閲覧可能であったが、学生の定員増および感染症予防の観点から、学生が自宅に居ながら求人情報を閲覧できるようにシステム化が急務であった。本年度はその運用を6月に開始し、学生へのサービス充実を図るため運用の構築を行った。 ・求人票様式の改訂 本学で使用していた従来の求人票様式を大幅に見直し、学生が希望する職種欄を優先項目とし、また今後就職先の業界拡充を視野に医療系と一般企業で様式を分けた書式とした。また企業側の入力作業がしやすい機能を盛り込み、見やすくわかりやすい書式を基本に改訂のうえ導入した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・履歴書の改訂 従来の本学履歴書様式を、学生が記載しやすく、内容の充実を図るため項目を追加。さらに採用者側が見やすい体裁として運用を図った。なお、初年度はリハビリテーション学科のみ試験運用を行ったが、次年度からは全学科に適應する。また、これまでの販売形式を改め、無料でダウンロードまたはキャリアセンター内や教員から履歴書用紙を渡す運用とする。 ・離職調査 例年行われている離職調査については通常どおり実施した。本学卒業生の6ヶ月以内での早期退職者は計6人（離職率4.5%）。特に看護が6.2%と高い傾向。なお、本年度実施分から調査回答用紙に、本学学生への評価コメント欄を設けたところ、多くのコメントを頂けた。今後も、就労機関との連携のもと、本学の学生が早期離職にならぬようキャリア教育で充実を図っていく。
<p>【看護学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100%の就職率をめざし、各学年に適したキャリアプラン講座を開催するとともに、学生参加率向上のための対策を行う。 	<p>4年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス（4月） ・キャリア講座 「面接基本（ディスコ）・看護師としての心得（佐々木教授）」（4月） ・日本医療大学病院 見学ツアー（4月） ・キャリア講座「面接・履歴書対策」（ナース専科）（4月） ・日本医療大学病院説明・見学会（8月） ・キャリア講座「実習前講座」（マイナビ） <p>3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・就職情報（HR時）-4年生の進捗、就活について ・進路希望調査（2月） ・キャリアプラン講座「実習直前講座」（9月） ・キャリアプラン講座「履歴書・面接」（マイナビ）（12月）オンライン <p>2年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・就職情報（HR時）-4年生の進捗、講座アナウンス ・キャリアプラン講座「基礎実習直前講座」マイナビ（11月） ・キャリア講座「卒業生トーク会 ～私の仕事～」（1月）オンライン <p>1年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・キャリア講座「卒業生トーク会 ～私の仕事～」（1月）
<p>【リハビリテーション学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100%の就職率をめざし、就職支援を行う。キャリア教育は外部講師によって実施する。4年生にはキャリア修学支援センターと学担との連携による就職説明会を実施する。 	<p>4年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職支援業務の構築と調整（4月～） ・就職対策資料配布とオリエンテーション（4月・9月） ・キャリア教育研修（学内） キャリアデザイン（マイナビ）（4月） 履歴書、面接対策、社会人のマナー（エスイージャパン）（9月） ・求人NAVIシステム説明会（7月） ・学内合同就職説明会（9月） ・日本医療大学病院説明会（10月） ・キャリア教育研修：北海道 理学・作業療法士会役員（社会人教育、職能団体の説明）（3月） <p>3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修（向日葵）テーマ：実習前マナー（11月） <p>2年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修（向日葵）テーマ：実習前マナー（12月）

	1 年生 ・キャリア教育研修（向日葵）：初年次教育（7月）
【診療放射線学科】 ・100%の就職率をめざし、就職・進学対策、キャリア教育研修、及び社会人教育を行う。また、4年生を対象とした、就職・進路対策を実施する。3年生に対しては接遇マナー研修およびオスキー講習を計画する。	4 年生 就職ガイドブック公開（4月） キャリア講座「実習前マナー研修」（向日葵） 進路相談（6・10月、希望者は随時） 履歴書の書き方、面接対策 *個別対応 3・4 年生 ・キャリア講座「就職・実習マナー講座」（マイナビ）オンライン ・オスキー講習 ・臨床実習に向けオスキー講習を実施（6月） 2・3・4 年生 ・臨床実習報告会（10月）：臨床実習における学生同士の情報共有および下学年に対する情報提供。プレゼンテーションのスキルアップ。
【臨床検査学科】 ・新入生に対し社会人としての基礎力や学校生活をスタートするうえで挨拶の重要性等を伝える講座を実施。	1 年生 ・新1年生向けガイダンス（4月） 「社会人としての接遇・マナーの基本」 ・キャリア講座「初年次 自己理解・長所／短所」（マイナビ）
日本私立大学協会関連北海道支部関連	・就職指導研究協議会（4月）Zoom 参加 ・就職指導研究協議会（8月）Zoom 参加 ・就職指導実務担当者研修会（9月）Zoom 参加 ・就職指導研究協議会（12月）Zoom 参加
その他の活動報告	・函館西高校「職業講演会」にて大堀センター長講話実施（11月） 対象：1年次生徒 237名 （協力：本学/北海学園大学/東北学院大学） 人文・社会学系、理学・工学系、医療・福祉計の職業、業界、働き方、就職活動等を踏まえ自分が進むべき方向性を知り自らのキャリア形成を考える機会とする。（講演後トークセッション） ・本学後援会総会にて「国試・就職について」講話（11月） 対象：本学後援会会員の皆様 各学科からの国家試験対策の講話ほか、本キャリアセンターから「就職」について採用市場や就職実績を講話した。

委員会・委員長名	教務委員会 委員長：保健医療学部リハビリテーション学科 教授 岸上博俊
構成員	教授：吉野淳一、山崎公美子、進藤ゆかり、山田敦士、向井康詞、石橋晃仁、杉本芳則、木村徹、品川雅明、浅沼広子、徳永祐一 准教授：清本憲太、島勝美 事務局：澤口敏明、水野誠、杉原彰仁、本間詩乃、北宙恵、北川喜音、山形奈穂、渡邊駿
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
1. 教育課程に関する事項	1. 教育課程に関する事項 ①新型コロナウイルスの感染状況に合わせた講義形式の変更と記録 新型コロナウイルス感染の影響で状況に応じ遠隔講義を取り入れて対応した。また、学科ごとに遠隔講義の実施状況を記録し教授会で報告した。 ②カリキュラム変更の申請を行った。 ③既修得単位の認定（該当学科）を行った。 ④履修登録一覧の確認（各学科）を行った。 ⑤前期・後期成績審議（各学科）を行った。履修規程の見直しとして、仮進級制度の見直しを行った。2022年度より前期試験終了時に仮進級者試験を実施することとした。 ⑥実習施設変更承認申請（各学科）を行った。 ⑦追実習の審査（看護学科）を行った。 ⑧追試験の審査（各学科）を行った。 ⑨2022年度新入生オリエンテーションの日程と内容を作成した。 ⑩2022年度在校生ガイダンスの日程と内容を作成した。
2. 定期試験及びその他の試験に関する事項	2. 定期試験及びその他の試験に関する事項 ①ワクチンの集団接種及び感染状況に合わせた試験期間の検討 ワクチンの集団接種、感染状況に合わせて定期試験期間の柔軟な対応を協議し教授会にて報告し承認を得た。 ②試験実施要領の確認・見直し ③定期試験受験者一覧作成（学科別）した。 ④定期試験時間割作成（学科別）した。 ⑤待機担当教員調整（学科別）を行った。 ⑥定期試験の科目のバランス調整を行った。 ⑦試験監督者、追・再試験監督者の調整（学科別）を行った。 ⑧試験配布教室の設置を行った。
3. 授業計画及び実施、授業担当者に関する事項	3. 授業計画及び実施、授業担当者に関する事項 ①新型コロナウイルス感染予防対策として、遠隔授業と対面授業を組み合わせた時間割を作成した。 ②非常勤講師委嘱等の再確認を行った。 ③年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等の取りまとめを行った。
4. 成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項	4. 成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項 ①学生の出席・成績状況を教務委員会で最終確認し、教授会に報告した。 ②進級及び卒業に関しては、進級及び卒業要件に沿い、教務委員会で最終確認し、教授会に報告した。

5. 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項	5. 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項 ①各学科における休学・退学、復学などは、規程に沿って対応した。
6. 学生便覧、講義要綱に関する事項	6. 学生便覧、講義要綱に関する事項 ①キャンパスハンドブックの見直しを実施した。 ②SYLLABUSの見直しを実施した。 ③学年暦（各学科・学年別）を作成した。 ④履修の手引きを制作した。
その他教務に関する事項	その他教務に関する事項 ①オフィスアワーの調査（前期・後期）と学生周知を行った。 ②2021年度教務委員会事業計画（案）を作成した。 ③マークシート利用法講習を実施した。

委員会・委員長名	カリキュラム委員会 委員長：看護学科 教授 吉野淳一
構 成 員	教授：小山満子、岸上博俊、山田敦士、大堀具視、木村徹、西山修輔、梅森祥央 准教授：西山徹 講師：澁谷齊 事務局：澤口参事、水野参事、本間係長、北宙恵
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
1. 教育課程（カリキュラム）の検討	1. 教育課程（カリキュラム）の検討 2021年度は、看護学科と診療放射線学科、加えて臨床検査学科において2022年度からの指定規則改正に基づくカリキュラム変更申請が必須となる年であった。また、リハビリテーション学科作業療法学専攻では、実習時間を変更するための申請手続きを行った。指定規則改正に伴う申請では、締め切り時期の変更があるなどしたが、各学科での作業は滞りなく進み、申請作業は順調に行われた。
2. 学生、教員、卒業生のカリキュラム評価に関するアンケート調査の実施	2. カリキュラム評価のアンケート調査については、看護学科及びリハビリテーション学科に加えて診療放射線学科でも実施されている。看護学科では、コロナ禍でも学生の反応が得られやすいように、昨年度から紙面調査を Web での調査に切り替えて実施している。
3. 教育研修会の実施	3. 令和3年度の研修については、コロナ禍のなかで安全に研修を実施できるか情勢を見極めながら検討していくこととしていた。新学科の増設が見込まれる時期にありアセスメントポリシー策定の時期を見定めたいこともあって、研修会は見送ることとなった。
4. その他	4. 令和3年度は、新型コロナウイルス感染対策として7回中4回の会議を遠隔で行った。

委員会・委員長名	自己点検・評価委員会 委員長：保健医療学部リハビリテーション学科 教授 岸上博俊
構成員	教授：吉野淳一、向井康詞、杉本芳則、品川雅明、佐々木由紀子、山田敦士、徳永祐一 准教授：西山徹、福山篤司 講師：白石祐太 助教：磯辺正道 事務局：片桐裕一 事務局員：松平貴、中川勝義
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
1. 日本医療大学年報第6号の発行	令和3（2021）年秋に発行することが出来た。当初の予定より遅れた。また、今年度より HP 上での公表をベースとし完成を教授会にて報告した。
2. 令和2（2020）年度の教員評価・各委員会報告の点検実施	日本医療大学年報第6号の発行後、各教員評価状況・委員会活動報告を確認し、必要に応じて記録報告を行った。 年報で報告された内容を大学評価機構の評価基準に照らし合わせて現状の大学の自己評価を行った。自己評価結果は学長に報告した。
3. データの収集	大学評価機構で求められるエビデンスを集積していくために各種委員会の議案書、議事録、報告書の提出を求め、大学として公表に必要なデータ収集を行った。
4. 事務局機能の確認	自己点検・評価委員会は、大学の自浄作用を機能させていくことが事業であり業務である。したがって、教務を中心とする教員組織と運営を行っていく大学事務局との連携が必要である。現在は教員組織が中心だが、点検することが困難な経営状況などの自己評価が重要である。そこで、大学事務局に積極的に関与していくことを依頼し、次年度から、より強化された委員会となる予定である。

委員会・委員長名	学生委員会 委員長：保健医療学部看護学科 教授 林美枝子
構 成 員	教授：石橋晃仁、樋口健太、浅沼広子、梅森祥央 准教授：滋野和恵、小山和也、福山篤司 講師：川崎文、新開谷深、村上元 助教：磯辺正道 事務局：澤口敏明、杉原章仁、松原玲奈
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
学生委員会の通常業務(学生委員会活動の説明とキャンパスの環境整備と学生生活の情報提供、情報発信、学内交流事業、学生のメンタル・ヘルスの保全、学生の学外活動への支援)	学生委員会を毎月第2水曜日、教授会後に11回開催、8月、12月、1月は第4水曜日に開催した。コロナ禍のために第9回と10回は遠隔で実施した。また適宜議題が発生すると持ち回りで決議を行った。 新入生オリエンテーション、ガイダンスは時短で、保護者会は中止となり、学生委員会の役割は各学科で対応。 環境整備と学生の居場所作り(自由文庫の管理、イス・テーブル等の設置改善)に関しては、コロナの感染防止による授業以外での学生の校舎利用や活動自粛で、取り組まなかった。自由文庫は学友会が保管し、本の募集も今年度は行っていない。リハの自由文庫は、留学生別科長の希望を受けて別科の管理に移行した。 ・ニュースレター「あずまし」の発刊(27・28合併号～29号・号を発刊) ・「学生委員会からのお知らせ」6回発行 ・学生相談センターのカウンセリングルームが本委員会の管轄に今年度もなっているため、「カウンセリングルームだより」を4回発行 ・日ごろの生活指導、および長期休暇前の過ごし方に関する注意喚起、学生の犯罪の被害や加害、事故等に対応 ・第8回学生アンケートの実施、今年度から集計、分析はアウトソーシングとなったが、予算措置との関連でまだ業者の選択に至っていないため、未集計。報告書も未提出 ・新入生オリエンテーション、ガイダンスで「日本医療大学 SNS に関するガイドライン」の注意喚起と啓発 ・2022年のCAMPUS HAND BOOKの加筆・修正 ・SNS関係の学内外からの告発を受けて、2021年度には6月に1回、学生への「注意喚起」を、即時ユニパを通じて発信
学生委員会主催事業(学生の生活指導や人間力の向上)	・4月20日 学生顕彰の成績優秀者顕彰対象学生78名、社会貢献賞2名 学長室で代表者による授与式を挙行 ・6月14日から18日 安心・安全週間を遠隔で実施 「今年20歳になる学生のための年金講座」参加者61人 「SNS関連の犯罪被害者にも加害者(行為者)にもならないために」参加者227人 「キャンパス・ハラスメント防止講座」参加者88人 「学生相談センター カウンセリングルームと保健室の利用について」参加者45人 ・7月20日～30日 令和3年度「入学と学生生活に関するアンケート調査」の実施 ・命を学ぶイベントの実施 ・11月29日～12月8日第8回「いのちのパネル展」 閲覧者の感想文投稿数 69人 ・12月6日、7日 第8回講演会「命」 大講堂 6日の参加者92人 7火の参加者206人 講師 本学看護学科長 吉野淳一教授
学友会支援事業	コロナ感染予防対策の中で、学友会定例総会、新入生歓迎会、日医祭、臨時総会が中止となる。 大学施設内での学内団体活動も自粛。活動が停止となっていたため、支援活動費の配布は年度末に実施。

<p>学内団体関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新キャンパスへの学友会関連の引っ越し作業、及び新キャンパスの学友会室(1153多目的室)の整備、手狭ということで11月より学友会室を移転。 ・夏休みに真栄キャンパスの学友会室、学内団体で使用していた2棟のスーパーハウスの荷物整理と掃除 ・遠隔での定例総会の実施。その後の予算案の改訂、臨時総会にかかる議案は全てWebによるFormsの投票で異議を確認する。 ・新入生歓迎会、日医祭の中止を受けて、学外活動費支援として会員一人に2000円のクオカードの配布を12月に実施。 ・選挙管理委員会を遠隔で実施。第9代学友会会長の立候補を受けて、令和4年2月11日～13日にWebでの承認の可否を全学に問い、第9代学友会会長が決定 ・臨時総会も決算の中間報告と来年度事業計画の承認のみをWebでFormsを利用して諮る。 ・12月20日、23日 大学と学友会共催による日本医療大学映画会とキッチンカー村の開催支援 映画会参加者20日は92人、23日は206人 <p>キッチンカーの無料利用券を全学学生、日ごろの感謝を込めて全教職員に1人500円分配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回卒業を祝う会は中止 <p>前年度の各学内団体の未回収活動報告書の回収と継続願の提出を依頼し、次年度活動継続団体の確認と設置申請の受付 継続申請の承認 5団体 学内団体設置申請7月末 0件、1月末 2件</p>
<p>学生の賞罰に関する事項 奨学金に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に顕彰学生の選抜、例年通りの日程では顕彰状授与式は延期となり、3密を避けて代表者にのみ学長室で授与、3月に次年度対象学生の選考を実施。 ・年間を通しての各種奨学金の募集情報の提供と対象学生の選抜をしていたが、昨年度から新たな制度である「就学支援新制度」がスタート、コロナ禍による経済的な困窮支援のための「学生支援緊急給付金」の推薦学生の選考を各学科に諮り実施。
<p>国際交流、海外研修に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も日医祭は中止、例年のフードバンクフェア、ユニセフ募金活度もなし。

委員会・委員長名	入学試験委員会 委員長：学長 太田 誠
構 成 員	委員：吉野淳一、向井康詞、杉本芳則、品川雅明、小山満子、林美枝子、大堀具視 (学生募集対策委員会委員長) 対馬徳昭、(事務局長) 青手木良光 事務局：本庄勝巳、山田武俊
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
1. 2022年度入学試験の合 否判定	<p>入学者選抜委員会から上程された合格者案について協議し、以下の通り合格者を決定した。</p> <p>【総合型選抜（前期）】</p> <p>《保健医療学部》</p> <p>看護学科：82人受験 40人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：47人受験 40人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：11人受験 11人合格 診療放射線学科：20人受験 16人合格 臨床検査学科：18人受験 15人合格 臨床工学科：3人受験 3人合格 保健医療学部5学科合計：181人受験 125人合格</p> <p>《総合福祉学部》</p> <p>介護マネジメント学科：1人受験 1人合格 ソーシャルワーク学科：志願者なし 総合福祉学部2学科合計：1人受験 1人合格</p> <p>【総合型選抜（後期）】</p> <p>《保健医療学部》</p> <p>看護学科：4人受験 3人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：1人受験 1人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：志願者なし 診療放射線学科：志願者なし 臨床検査学科：2人受験 0人合格 臨床工学科：志願者なし 保健医療学部5学科合計：7人受験 4人合格</p> <p>《総合福祉学部》</p> <p>介護マネジメント学科：志願者なし ソーシャルワーク学科：志願者なし 総合福祉学部2学科合計：志願者なし</p> <p>【学校推薦型選抜（指定校）】</p> <p>《保健医療学部》</p> <p>看護学科：15人受験 15人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：22人受験 22人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：11人受験 11人合格 診療放射線学科：13人受験 13人合格 臨床検査学科：9人受験 9人合格 臨床工学科：5人受験 5人合格 保健医療学部5学科合計：75人受験 75人合格</p> <p>《総合福祉学部》</p> <p>介護マネジメント学科：2人受験 2人合格 ソーシャルワーク学科：1人受験 1人合格 総合福祉学部2学科合計：3人受験 3人合格</p>

【学校推薦型選抜（公募前期）】

≪保健医療学部≫

看護学科：44人受験 39人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻：11人受験 11人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻：志願者なし

診療放射線学科：25人受験 25人合格

臨床検査学科：8人受験 8人合格

臨床工学科：1人受験 1人合格

保健医療学部5学科合計：89人受験 84人合格

≪総合福祉学部≫

介護マネジメント学科：志願者なし

ソーシャルワーク学科：志願者なし

総合福祉学部2学科合計：志願者なし

【学校推薦型選抜（公募後期）】

≪保健医療学部≫

看護学科：8人受験 7人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻：1人受験 1人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻：志願者なし

診療放射線学科：4人受験 3人合格

臨床検査学科：1人受験 1人合格

臨床工学科：志願者なし

保健医療学部5学科合計：14人受験 12人合格

≪総合福祉学部≫

介護マネジメント学科：志願者なし

ソーシャルワーク学科：志願者なし

総合福祉学部2学科合計：志願者なし

【一般選抜（前期）】

≪保健医療学部≫

看護学科：228人受験 138人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻：107人受験 81人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻：79人受験 73人合格

診療放射線学科：123人受験 104人合格

臨床検査学科：132人受験 80人合格

臨床工学科：76人受験 70人合格

保健医療学部5学科合計：745人受験 546人合格

≪総合福祉学部≫

介護マネジメント学科：30人受験 28人合格

ソーシャルワーク学科：29人受験 27人合格

総合福祉学部2学科合計：59人受験 55人合格

【一般選抜（後期）】

≪保健医療学部≫

看護学科：26人受験 3人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻：10人受験 7人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻：7人受験 6人合格

診療放射線学科：14人受験 3人合格

臨床検査学科：12人受験 2人合格
臨床工学科：10人受験 10人合格
保健医療学部5学科合計：79人受験 31人合格
《総合福祉学部》
介護マネジメント学科：2人受験 2人合格
ソーシャルワーク学科：4人受験 2人合格
総合福祉学部2学科合計：6人受験 4人合格

【大学入学共通テスト利用選抜（前期）】

《保健医療学部》
看護学科：176人受験 71人合格
リハビリテーション学科理学療法学専攻：121人受験 92人合格
リハビリテーション学科作業療法学専攻：90人受験 83人合格
診療放射線学科：146人受験 63人合格
臨床検査学科：124人受験 45人合格
臨床工学科：75人受験 43人合格
保健医療学部5学科合計：732人受験 397人合格
《総合福祉学部》
介護マネジメント学科：35人受験 23人合格
ソーシャルワーク学科：34人受験 25人合格
総合福祉学部2学科合計：69人受験 48人合格

【大学入学共通テスト利用選抜（中期）】

《保健医療学部》
看護学科：7人受験 2人合格
リハビリテーション学科理学療法学専攻：8人受験 3人合格
リハビリテーション学科作業療法学専攻：8人受験 7人合格
診療放射線学科：10人受験 2人合格
臨床検査学科：8人受験 3人合格
臨床工学科：4人受験 4人合格
保健医療学部5学科合計：45人受験 21人合格
《総合福祉学部》
介護マネジメント学科：2人受験 2人合格
ソーシャルワーク学科：2人受験 2人合格
総合福祉学部2学科合計：4人受験 4人合格

【大学入学共通テスト利用選抜（後期）】

《保健医療学部》
看護学科：12人受験 1人合格
リハビリテーション学科理学療法学専攻：8人受験 1人合格
リハビリテーション学科作業療法学専攻：6人受験 1人合格
診療放射線学科：14人受験 3人合格
臨床検査学科：11人受験 1人合格
臨床工学科：7人受験 3人合格
保健医療学部5学科合計：58人受験 10人合格
《総合福祉学部》
介護マネジメント学科：3人受験 2人合格
ソーシャルワーク学科：3人受験 2人合格
総合福祉学部2学科合計：6人受験 4人合格

	<p>【総合型選抜（自己アピール型）】</p> <p>≪保健医療学部≫</p> <p>臨床工学科：</p> <p>新学科（1学科）合計：3人受験 3人合格</p> <p>≪総合福祉学部≫</p> <p>介護マネジメント学科：志願者なし</p> <p>ソーシャルワーク学科：志願者なし</p> <p>新学部（総合福祉学部）2学科合計：志願者なし</p> <p>※新学部（総合福祉学部2学科）・新学科（臨床工学科）のみで実施</p> <p>保健医療学部合計：2028人受験 1308人合格</p> <p>総合福祉学部合計：148人受験 119人合格</p> <p>総合計：2176人受験 1427人合格（前年 1468人受験 726人合格）</p>
--	---

委員会・委員長名	入学者選抜委員会 委員長：保健医療学部看護学科 教授 吉野淳一
構 成 員	看護学科：浅井さおり、松本真由美、 リハビリテーション学科：向井康詞、石橋晃仁、大堀具視 診療放射線学科：杉本芳則、俵紀行、阿部匡史 臨床検査学科：品川雅明、徳永祐一、澁谷斉 事務局：本庄勝巳、山田武俊、三雲康平
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
1. 2022年度入学試験の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通り、総合型選抜（前期・後期・自己アピール）、学校推薦型選抜（指定校、公募前期、公募後期）、一般選抜（前期、後期）、大学入学共通テスト利用選抜（前期、中期、後期）を実施した。 ・大学入学共通テスト利用選抜を除く各選抜において「実施要領」、「学科試験監督要領」「面接試験実施要領」を作成し、説明会を開催し周知した。 ・大学入学共通テスト利用選抜にあたり共同実施大学である北星学園大学と連携し実施した。 ・毎回の入試において、新型コロナウイルス対策を講じながら各選抜を実施した。一部の入試において、体調不良者が発生したが、文科省方針に基づき、無事2022年度の選抜試験を実施することができた。 ・一般選抜（前期）において、函館試験会場設置3年目となり、17人が出願した受験した。
2. 2022年度入学試験合格者案の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の通り合格者案を作成し入試委員会に上程した。 <p>総合型選抜（前期）：</p> <p>看護学科 82人受験 40人合格</p> <p>リハビリテーション学科理学療法学専攻 47人受験 40人合格</p> <p>リハビリテーション学科作業療法学専攻 11人受験 11人合格</p> <p>診療放射線学科 20人受験 16人合格</p> <p>臨床検査学科 18人受験 15人合格</p> <p>臨床工学科 3人受験 3人合格</p> <p>介護福祉マネジメント学科 1人受験 1人合格</p> <p>ソーシャルワーク学科 0人受験 0人合格</p> <p>計：182人受験 126人合格</p> <p>総合型選抜（後期）：</p> <p>看護学科 4人受験 3人合格</p> <p>リハビリテーション学科理学療法学専攻 1人受験 0人合格</p> <p>リハビリテーション学科作業療法学専攻 0人受験 1人合格</p>

診療放射線学科
0人受験 0人合格
臨床検査学科
2人受験 0人合格
臨床工学科
3人受験 3人合格【自己アピール】
介護福祉マネジメント学科
0人受験 0人合格
ソーシャルワーク学科
0人受験 0人合格
計：10人受験 7人合格

学校推薦型選抜（指定校）：

看護学科
15人受験 15人合格
リハビリテーション学科理学療法学専攻
22人受験 22人合格
リハビリテーション学科作業療法学専攻
11人受験 11人合格
診療放射線学科
13人受験 13人合格
臨床検査学科
9人受験 9人合格
臨床工学科
5人受験 5人合格
介護福祉マネジメント学科
2人受験 2人合格
ソーシャルワーク学科
1人受験 1人合格
計：78人受験 78人合格

学校推薦型選抜（公募前期）：

看護学科
44人受験 39人合格
リハビリテーション学科理学療法学専攻
11人受験 11人合格
リハビリテーション学科作業療法学専攻
0人受験 0人合格
診療放射線学科
25人受験 25人合格
臨床検査学科
8人受験 8人合格
臨床工学科
1人受験 1人合格
介護福祉マネジメント学科
0人受験 0人合格
ソーシャルワーク学科
0人受験 0人合格
計：89人受験 84人合格

学校推薦型選抜（公募後期）：

看護学科

8人受験 7人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

1人受験 1人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

0人受験 0人合格

診療放射線学科

4人受験 3人合格

臨床検査学科

1人受験 1人合格

臨床工学科

0人受験 0人合格

介護福祉マネジメント学科

0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科

0人受験 0人合格

計：14人受験 12人合格

一般選抜（前期）：

看護学科

193人受験 121人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

45人受験 36人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

14人受験 12人合格

診療放射線学科

73人受験 60人合格

臨床検査学科

55人受験 38人合格

臨床工学科

13人受験 12人合格

介護福祉マネジメント学科

1人受験 1人合格

ソーシャルワーク学科

1人受験 1人合格

計：395人受験 281人合格

一般選抜（後期）：

看護学科

22人受験 3人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

0人受験 0人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

0人受験 0人合格

診療放射線学科

9人受験 2人合格

臨床検査学科

3人受験 1人合格

臨床工学科

2人受験 2人合格
介護福祉マネジメント学科

0人受験 0人合格
ソーシャルワーク学科

0人受験 0人合格

計：36人受験 8人合格

大学入学共通テスト利用選抜（前期）：
看護学科

133人受験 61人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

47人受験 37人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

18人受験 14人合格

診療放射線学科

93人受験 37人合格

臨床検査学科

49人受験 19人合格

臨床工学科

14人受験 7人合格

介護福祉マネジメント学科

3人受験 2人合格

ソーシャルワーク学科

0人受験 0人合格

計：357人受験 177人合格

大学入学共通テスト利用選抜（中期）：
看護学科

6人受験 2人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

3人受験 1人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻

0人受験 0人合格

診療放射線学科

6人受験 1人合格

臨床検査学科

5人受験 2人合格

臨床工学科

0人受験 0人合格

介護福祉マネジメント学科

0人受験 0人合格

ソーシャルワーク学科

0人受験 0人合格

計：20人受験 6人合格

大学入学共通テスト利用選抜（後期）：
看護学科

7人受験 1人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻

0人受験 0人合格

<p>3. 入学前学習課題の実施</p>	<p>リハビリテーション学科作業療法学専攻 0人受験 0人合格 診療放射線学科 9人受験 3人合格 臨床検査学科 5人受験 1人合格 臨床工学科 1人受験 0人合格 介護福祉マネジメント学科 0人受験 0人合格 ソーシャルワーク学科 0人受験 0人合格 計：22人受験 5人合格 合計：1203人受験 784人合格（前年1468人受験 726人合格）</p> <p>・総合型選抜（前期）および学校推薦型選抜（指定校、公募前期、公募後期）合格者に対し実施した。 ・2022年度入学試験では学科共通の課題を課し実施した</p>
----------------------	---

委員会・委員長名	研究倫理委員会 委員長：保健医療学部リハビリテーション学科 教授 大堀具視
構 成 員	教 授：小山満子、進藤ゆかり、森口眞衣、山崎公美子、大堀具視、浅沼広子、梅森祥央 准教授：及川直樹、近藤和夫、小山和也 講 師：阿部匡史、白石裕太、澁谷齐 学 外：東海林哲郎、松永隆裕 事務局：杉原章仁、木場保洋、葛西若菜、梅津愛
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
委員会の開催	毎月一回開催される研究倫理委員会において、審査申請のあった研究計画書について審議し、研究実施の適否を判断する。令和3（2021）年度は24件の通常審査、2件の迅速審査を行った。
研究倫理教育の推進等を目的とした研究倫理研修会の開催	8月に森口委員（看護学科）を講師として「新しく制定された研究倫理指針と本学の研究倫理審査申請について」をテーマに、Teamsにより、研究倫理教育の推進に向けたオンライン研修会を実施。計84名の教職員が受講した。（オンデマンド受講含む） また、本研修会を通じて、新たに制定された「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）（R3.3.23）に係る諒解促進を図るとともに、研究倫理審査申請書等改定様式の入力方法や留意事項等についても理解を深める機会とした。
「日本医療大学研究倫理委員会規程」の改正について	前記倫理指針及び関連規程の廃止並びに新学部・新学科開設に伴う規程の改正を行った。

委員会・委員長名	不正調査委員会 委員長：保健医療学部リハビリテーション学科 教授 大堀具視
構 成 員	教授：吉野淳一、向井康詞、杉本芳則、品川雅明、林美枝子、木村徹 准教授：近藤和夫 講師：渋谷齐 事務局：青手木良光、杉原章仁、松岡裕子
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
1. 研究費不正行為の調査	不正対象はなく調査の実施はなかった。
2. 研究不正の調査	不正対象はなく調査の実施はなかった。

委員会・委員長名	研究費審査委員会 委員長：学長 太田 誠
構 成 員	教授：小山満子、佐々木由紀子、高橋美和、大堀具視、西山修輔、徳永祐一 准教授：福山篤司 講師：合田央志、澁谷齊 事務局：杉原章仁、葛西若菜
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
1. 令和3年度学術助成費、 教育向上研究費の配当額の 算定	公募要領に従った計画調書により審査され交付額を決定
2. 令和3年度研究費申請状 況	(1) 看護学科 学術助成費 (6 件)、教育向上研究費 (1 件) 代表・共同研究者総数 (13 名) (2) リハビリテーション学科 学術助成費 (4 件)、教育向上研究費 (1 件) 代表・共同研究者総数 (19 名) (3) 診療放射線学科 学術助成費 (1 件)、教育向上研究費 (4 件) 代表・共同研究者総数 (13 名) (4) 臨床検査学科 学術助成費 (4 件)、教育向上研究費 (2 件) 代表・共同研究者総数 (18 名)
3. 令和3年度研究活動報告	新型コロナウイルス感染防止のため3月末日開催予定であった報告会を中止とし、報告要旨集を全教員に配布した。 報告数：看護学科(7件)、リハビリテーション学科(5件)、 診療放射線学科(5件)、臨床検査学科(6件)

委員会・委員長名	人権擁護委員会 委員長：保健医療学部看護学科 教授 林美枝子
構 成 員	教授：吉野淳一、向井康詞、杉本芳則、品川雅明、浅沼広子 准教授：高儀郁美、西山徹、小山和也 講師：村上元、黒藤邦夫 助教：磯辺正道 事務局：青手木良光、(日本医療大学顧問弁護士)
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
関連規程の改定に関する話し合い	・規定修正案の再検討を行うとともに、人権擁護調査委員会の設置に関する事項について、本年度は事案が発生しなかったため審議はしていない。
人権侵害の申し立てが発生した場合の対応	・人権侵害は発生しなかったため、調査委員会の設置と調査の支援は行われていない。そのため、事実認定に関する調査報告を受けることも、解決策を審議し学長に提出することもなかった。 ・定期試験の可否、成績に関する疑義の申し立ては3月3日現在、前期1件、後期1件を事務局担当者が受理した。 ・申し立てが発生した場合、科目担当教員からの回答の伝達の場に臨席し、人権侵害が起らないように支援することになっていたが、これが徹底されていなかったため、改めて2021年度版の「成績評価に関する疑義申し立てについて」を作成し、学内での周知を図った(エビデンス1)。
ハラスメントが発生し、ハラスメント防止委員会から学長に提出された解決案、およびその対応に関して、被申立人あるいは申し立て人からの再調査の申し出があった場合の対応	・2月末までのハラスメントに関する再調査の申し立てはなかった。そのため、調査委員会よりの再調査報告も受けず、解決策の提言を学長に提出することもなかった。 ・学内でハラスメントの申し立てがあり、その小委員会の調査7件全てに本委員会委員長が立ち会った。 ・他の事業所や他学の教職員や学生との間でハラスメントは発生せず、事実確認の場等への臨席を求められることもなかった。
人権侵害に関する防止のための啓発事業の実施と情報提供	・「障害者差別解消法」の施行による、身体障害や発達障害等の診断書を持つ教職員や学生に対しての合理的な配慮のあり方を探ることになっていたが、本年度は、制度改革を大学が取り組んでおり、この件に関しては、別の委員会が立ち上がる予定となっていたため、人権擁護委員会としての取り組みはなかった。 ・性的マイノリティやLGBTの学生、多民族に対するヘイトスピーチ、その他人権侵害を防止するため、国や文科省、その他行政からの啓発に関する拡材を学内に貼付し、最新の情報提供に努めた。 ・何らかの犯罪被害やデートDV等、SNSにおける被害や行為に関して、北海道警察豊平署の担当官に適宜相談を行った。 ・SNSに関する人権侵害の案件が発生したため、ユニパを利用して6月25日委員長名で全学に「人権擁護への留意のお願い」(エビデンス2)を発信し、セカンドハラスメントが起らないよう注意喚起を行った。 ・学内に置かれている人権擁護関連団体関連のパンフレット類を補充、最新のものに更新した。

委員会・委員長名	FD委員会 委員長：保健医療学部診療放射線学科 教授 樋口健太
構 成 員	教授：大堀具視、森口眞衣、徳永祐一、梅森祥央 准教授：西山徹、滋野和恵、島勝美 講師：合田央志、福島眞里、黒蕨邦夫、澁谷斉 事務局：澤口敏明、本間詩乃、新納あい
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
教育効果の評価計画について *授業アンケートの実施	授業評価アンケートは昨年の2020年度より導入された新システムのユニバに移行した。しかし、キャンパス移転やコロナの影響でいろいろな混乱が生じた。授業アンケート実施方法については、昨年度からユニバーサルパスポートに変更したばかりなので、今年度は昨年度を踏襲してユニバーサルパスポートで実施することを確認した。ただし、昨年度は学生への周知が不足していたため、今年度は積極的にアンケート回答の協力について学生に周知徹底した。
教育効果の評価計画について *フィードバックの実施	新教務システムの導入により、うまく周知できていなかったため、教員からのフィードバックが課題であった。教員コメントの入力開始日や終了日、学生への公開開始日と終了日を明確にし、教育効果の向上を図った。
教育力向上についての計画 *教員研修会の実施	2021（令和3）年12月3日（金）16時30分～17時30分に「SYLLABUS作成、授業デザインの基本」に関する研修会を対面式とオンデマンド方式で行った。教員はすべて参加（100%）し、教職員を含めて89名の参加があった。研修会に関するアンケート調査の結果は、5段階評価で、“とても良い”と“良い”を合わせた割合は以下の通りであった。「研修内容：90%」「研修時期：67%」「研修方法：73%」「研修所要時間：66%」の評価を受けた。“普通”以上の評価を含めると、すべての項目について87%以上の評価であった。
教育力向上についての計画 *授業方法の開発	2021（令和3）年9月3日（金）に開催された「北海道FDSDフォーラム2021」に本校のFD委員が出席した。 「本学におけるオンライン授業実施状況と課題」について森口先生、「コロナ禍における学生支援」について澤口参事が発表を行った。また、フォーラムに関する情報をFD委員会のメンバーに紹介し、議論を行った。
その他	北海道大学等の主催でFDに関するセミナーをアルファオフィスなどで本学の教員に周知し教育力の向上を図った。

委員会・委員長名	教員選考委員会 委員長：学長 太田 誠
構 成 員	教授：吉野淳一、向井康詞、杉本芳則、品川雅明 審査委員
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
1. 本学専任教員の採用又は昇任について、候補者の審査を行う。審査は、日本医療大学教員選考委員会規程に定められている資料の収集と調査によって総合的に行う。	①採用について 22 件の公募を行い、計 11 回の委員会を開催し、24 名の候補者について審査を行った。 ②昇任について 計 1 回の委員会を開催し、2 名の候補者について審査を行った。

委員会・委員長名	留学生別科教員選考委員会 委員長：学長 太田 誠
構 成 員	日本医療大学留学生別科 別科長：山田敦士 審査委員
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
1. 本学留学生別科専任教員の採用又は昇任について、候補者の審査を行う。審査は、日本医療大学留学生別科教員選考委員会規程に定められている資料の収集と調査によって総合的に行う。	・採用について 1 件の公募を行い、計 3 回の委員会を開催し、8 名の候補者について審査を行った。

委員会・委員長名	ハラスメント防止委員会 委員長：保健医療学部看護学科 教授 林美枝子
構 成 員	教授：吉野淳一、杉本芳則、向井康詞、品川雅明 事務局：青手木良光、(片桐裕一)、山下未希
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
1 ハラスメントの排除及び防止に係る指導及び改善に関すること	1-1 日本医療大学ハラスメントの防止等に関する規程に定められている通り、ハラスメントの排除及び防止に関する啓発のため、来年度学生に周知される CAMPUS GUIDE の関連部分の修正・加筆を実施した。 1-2 厚生労働省、文科省、学生支援機構等が発信するハラスメントに関する最新の情報の通達や警告を学内の教職員や学生と共有化した。
2 ハラスメントの排除及び防止のための啓発活動及び研修に関すること	2-1 12月13日、ハラスメント相談員に対して「ハラスメント相談員のための相談後の手続きについて」をリモートで実施、相談業務の流れ、ガイドラインの内容を確認した。ガイダンスは録音し、いつでも閲覧できるようにした。 2-2 11月4日に、教職員を対象とするハラスメント関連の研修「行為者も、その被害者も出さないためのハラスメント防止啓発研修 2021」を法人本部と共催で初めて実施したが、今年度は特にセクシュアル・ハラスメントに関しての内容とした。(エビデンス1 研修のパワーポイント) 2-3 学生委員会と協力し、ハラスメント等に関するリモート講演会を6月15日と16日の2回開催した。合計で88人の学生が視聴した。
3 苦情の申立てに関する事実関係の調査、審議等に関すること	3-1 苦情申立てに対しては、すみやかに受理の可否を審議することになっていたが、本年12月16日の申し立てに関しては、12月22日に委員会を開催して受理することとなった。(エビデンス2 議事録) 3-2 上記の件に関する小調査委員会が設置され、向井リハビリテーション学科長が委員長として指名された。12月27日に第一回の委員会を開催したが、年末年始をさみ、コロナ関連で学生の登校が1月からは抑制されるなどの事情が重なり、調査に時間を要してしまった。結果的に7人に対する対面調査を実施し、2月末に調査報告がなされ、3月3日の委員会で決議され、学長に報告がなされた。(エビデンス3 議事録) 3-3 調査の過程で調査の在り方に関する留意事項の検討や必要な承諾書等が未整備であることが認識された。規定の改訂にもかかわらず重要な課題であるため、来年度の計画案にその検討を盛り込むこととした。 3-3 今年度から、被申立人が他の事業所の雇用者や他学の学生で、申し立て内容が事実であると確認された場合は、その対応、再発防止を要請することになっていたが、そうした案件は発生しなかった。また本学の教職員や学生が行為者で、その調査や対処を他の事業所や他学から求められることもなかった。 3-4 申し立てには至らないハラスメントの相談は、26件発生しているが、把握が困難なものや軽微のため、単発での相談で済んでしまうものも多く、数の把握は困難である。今年度はアルファオフィスを通じて、ハラスメント相談員に報告の依頼を行った。2月末の時点では軽微なハラスメントの報告は寄せられていない。
4 総括と報告	4-1 今年度のハラスメント発生は苦情申し立ての受理1件、苦情申し立てには至らないが申し立て書を委員長から手渡した件が看護4件、診療放射1件となっている。 4-2 年度末に報告書をIR室に提出する。

委員会・委員長名	日本医療大学留学生別科 別科長：山田敦士
構成員	講師：唐煒 助教：須藤むつ子 助手：千葉直子
令和3年度 事業計画	実施内容・結果
1. 留学生関連事項 1-1 組織運営 1) 別科委員会の開催	1) 別科委員会の開催：別科規程に基づき、別科委員会を月例で開催した。コロナ状況にかんがみ、回議形式も活用した。
2) 技能実習留学センターとの連絡会議の実施	2) 国際交流センター（技能実習留学センターからの改称）との連絡会議の実施：必要に応じて、月例の別科委員会への参加を求め、連絡調整をおこなった。
3) 学長に対する月例活動報告の実施	3) 学長に対する月例活動報告の実施：月単位での活動報告をおこなった。別科委員会の状況などを鑑みて、2カ月分とすることもあった。
4) 恵み野キャンパスの教学および学習環境の整備	4) 恵み野キャンパスの教学および学習環境の整備：恵み野キャンパスの改修見通しが立たず、環境整備の本格化は次年度に持ち越しとなった。
5) 規程の整備	5) 規程の整備：「留学生別科規程」の見直し、および「留学生別科教員選考委員会規程」「留学生別科教員任用規程」の整備をおこなった。
6) 教員組織の整備	6) 教員組織の整備：専任教員（講師）の退職を受け、教員選考委員会を立ち上げ、選考を実施した。
1-2 教務事務 1) 恵み野キャンパス移転にともなうハンドブックおよび手続き書類の見直し	1) 恵み野キャンパス移転に伴うハンドブックおよび手続き書類の見直し：恵み野キャンパス用への見直しをすすめた。キャンパスおよび別科留学生に対する事務機能が不明であったため、事務局内での分掌を求めた。
2) レディネスの異なる別科生による混成クラスの教学シミュレーションおよび実践	2) レディネスの異なる別科生による混成クラスの教学シミュレーションおよび実践：担当教員の退職により、実施できなかった。
2. 協力事業 2-1 介護技能実習生への日本語教育 1) 技能実習生に対する40日間の入国後日本語教育の実施	1) 技能実習生に対する2か月の入国後日本語教育の実施：コロナ禍で入国不可となったため未実施。
2) 企業イン後の技能実習生に対する日本語講習の実施	2) 企業イン後の技能実習生に対する日本語講習の実施：受け入れ団体と議論を重ね、協力可能な範囲でフォローアップ教育に努めた。

<p>2-2 特務事項</p> <p>1) 理事長からの特務事項への対応（唐講師）</p> <p>2) 国際交流センター（技能実習留学センターからの改称）の業務支援</p>	<p>1) 理事長からの特務事項として、唐講師が中国人留学生の仲介団体の新規開拓をおこなった。</p> <p>2) 国際交流センター（技能実習留学センターからの改称）の業務支援：学生募集要項および大学案内（新学部新学科を含む）の校正、および中国語版への翻訳をおこなった。</p>
--	---

委員会・委員長名	日本医療大学認知症研究所 所長：対馬輝美
構 成 員	対馬輝美研究員、高橋光彦研究員、林美枝子研究員、八田達夫研究員、浅井さおり研究員、岸上博俊研究員、東海林哲郎研究員、田村素子研究員、小林孝広研究員、荒木めぐみ研究員、新岡美樹研究員、銭本隆行研究員
令和3年度事業計画	実施内容・結果
<p>1. 研究事業</p> <p>1-1 「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」株式会社クオリからの「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」に関する受託研究</p> <p>1-2 「アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証Ⅱ」</p> <p>1-3 スヌーズレン研究</p>	<p>認知症高齢者のための「理想的ないす」の開発・実用化を目指す株式会社クオリからの受託研究の3年目にあたり、量産モデルの完成をめざし、一層の研究を進めている。</p> <p>株式会社アミノアップからの受託研究として、ノテ福祉会の介護事業所の入居者、利用者を対象に、アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の臨床効果を図るための試験を2018年10月から開始し、2020年2月で終了した。研究成果を2022年3月にJournal「Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine」に論文として投稿し、現在査読中。</p> <p>ノテ福祉会と共同し、八田研究員と新岡研究員を中心に、「スヌーズレン」に関する研究を継続している。</p>
<p>2. 普及事業：</p> <p>2-1 認知症サポーター養成講座</p> <p>2-2 その他</p>	<p>本学部の各学科において認知症サポーター養成講座を実施。</p> <p>つしま医療福祉グループのネットワークを通じ、さまざまな研究者や実践者を招き、認知症に関する講演会などを開催し、認知症の研究活動を推進する。</p>
<p>3. 外部連携</p> <p>3-1 「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」</p> <p>3-2 「アスパラガス茎抽出物(ETAS®50)の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証Ⅱ」</p>	<p>1-1 と同じ。</p> <p>1-2 と同じ。</p>

1 1. 教員の自己点検・評価

1 1-1 教員の教育・研究・社会活動

1 1-1-① 総長、学長、参事

氏名 島本 和明 学科 看護学科 職階 総長・教授

専門分野：高血圧、生活習慣病、メタボリックシンドローム

教育活動：

責任科目：

形態機能学Ⅱ（1年次、1単位、30時間）、形態機能学Ⅳ（1年次、1単位、30時間）、
疾病論Ⅰ（2年次、1単位、30時間）、内科学（2年次、1単位、30時間）、
臨床検査医学総論Ⅰ（1年次、1単位、15時間）

担当科目：

形態機能学Ⅱ（30時間）、形態機能学Ⅳ（30時間）、疾病論Ⅰ（30時間）、
内科学（30時間）、臨床検査医学総論Ⅰ（15時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、国際高血圧学会、日本循環器学会、
日本老年医学会、日本循環器病予防学会、日本心臓病学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

日本高血圧協会（理事長）、社会福祉法人 恩賜財団済生会 北海道済生会支部（会長）、
札幌産学官医療連携協議会（座長）、北海道心臓協会（副理事長）、
公益財団法人伊藤医薬学術交流財団（副理事長）、日本臨床研究フォーラム J-ARF（副理事長）、
公益財産法人先進医薬研究振興財団（理事）、一般財団法人つしま医療福祉研究財団（理事）、
一般財団法人 つくし奨学・研究基金（評議員）、一般財団法人禎心会記念財団（評議員）、
一般財団法人代謝異常治療研究基金（評議員）、国土交通省 社会資本整備審議会（専門委員）、
士別市健康づくりアドバイザー

顕彰：なし

氏名 太田 誠 職階 学長・教授

専門分野：理学療法概論・原論、健康政策、神経筋促通治療学

教育活動：

責任科目：

理学療法概論（1年次、1単位、30時間）、理学療法概論演習（1年次、1単位、30時間）、
健康政策論（4年次、1単位、15時間）、

リハビリテーション概論（看護3年次、1単位、15時間）

担当科目：理学療法概論（30時間）、理学療法概論演習（30時間）、

リハビリテーション概論（看護3年次、15時間）

非常勤講師：北海道医療大学（修士課程「リハビリテーション管理学特論」4時間）、

北海道医療大学（リハビリテーション科学部4年「臨床実習Ⅴ」2時間）

学内委員会・学科内業務等：

運営会議、教授会、入学試験委員会（委員長）、研究費審査委員会（委員長）、
教員選考委員会（委員長）、国際交流委員会（委員長）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本予防理学療法学会、北海道リハビリテーション学会（理事・学術委員）、
北海道神経リハビリテーション治療フォーラム（世話人）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

一般社団法人北海道リハビリテーション専門職協会（会長）、
公益社団法人日本理学療法士協会（監事）、
公益社団法人北海道理学療法士会（政策提言委員会委員長）、
特定非営利活動法人HP T（監事）、
札幌市理学療法赤十字奉仕団（委員長）、
一般社団法人リハビリテーション教育評価機構（評価員）、
一般社団法人北海道ヘルスケア・ロボット協会（理事）、北海道マラソン（大会役員）、
札幌国際スキーマラソン（実行委員会役員）、
北海道地域医療介護総合確保基金（介護分）検討協議会及び北海道高齢者保健福祉計画・
介護保険事業支援計画検討協議会（委員）

顕彰：なし

氏名 錢本 隆行 職階 参事

専門分野： 高齢者福祉、地域福祉、国際医療福祉

教育活動：

責任科目：保険医療福祉行政論（2年次、1単位、15時間）、
保険医療福祉行政論（1年次、1単位、15時間）、
関係法規（3年次、1単位、15時間）、関係法規（2年次、1単位、15時間）

担当科目：保険医療福祉行政論（30時間）、関係法規（30時間）

非常勤講師：北星学園大学（国際比較福祉論6時間、海外の福祉制度4時間）

学内委員会・学科内業務等：認知症研究所

学術活動：

所属学会・研究会等：日本地域福祉学会、日本社会福祉学会、日本認知症ケア学会、
北海道地域福祉学会、北海道社会福祉学会、社会政策学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科学研究費基盤研究（C）「ハラスメント問題に対応するソーシャルワーカー養成のため
の集学的研究」研究分担者（平成30年度～令和3年度）

社会活動：なし

顕彰：なし

11-1-② 看護学科教員

氏名 吉野 淳一 学科 看護学科 職階 教授・学科長

専門分野：精神看護学

教育活動：

責任科目：

精神看護学概論（2年次、2単位、30時間）、基礎看護学（2年次、1単位、15時間）

担当科目：精神看護援助論（3年次、1単位、30時間）、

精神看護学実習（3年次、2単位、90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

カリキュラム委員会（委員長）、入学者選抜委員会（委員長）、教務委員会、

学生担当教員（4年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本集団精神療法学会、日本家族療法研究会、日本精神保健看護学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

日本精神保健看護学会（査読委員）、北海道家庭生活総合カウンセリングセンター（代表理事）、

NPO法人きなはれ（理事）

顕彰：なし

氏名：宮本 篤 学科：看護学科 職階：特任教授

専門分野：医療薬学

教育活動：

責任科目：

看護学科：総合医療論（1年、1単位、15時間）、チーム医療論（2年、1単位、15時間）、

臨床薬理学（2年、1単位、30時間（新カリ））、

臨床薬理学（3年、1単位、30時間（旧カリ））

リハビリテーション学科：薬理学（1年、1単位、30時間）、

保健医療論（2年、1単位、15時間）、

チーム医療論（3年、1単位、15時間）

診療放射線学科：医学概論（1年、1単位、15時間）、薬理学（2年、1単位、15時間）、

臨床薬理学（2年、1単位、15時間）、

チーム医療論（2年、1単位、15時間）

担当科目：看護学科（形態機能学Ⅳ（1年、1単位、30時間））

非常勤講師：北海道文教大学看護学科（臨床薬理学、30時間）

吉田学園医療歯科専門学校臨床工学技師科（臨床薬理学、30時間遠隔）

浦河赤十字看護専門学校（薬理学、30時間遠隔）

北海道消防学校（救急救命士処置拡大二行為講習、10時間）

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：（公社）日本薬剤師会会員、（一社）日本緩和医療薬学会名誉会員

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

（一社）日本医療安全調査機構北海道ブロック地域推薦窓口担当者（日本医療薬学会代表）、
（一社）北海道薬剤師会相談役、（一社）北海道病院薬剤師会顧問

顕彰：なし

氏名 浅井 さおり 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：

教育活動：

責任科目：

老年看護学概論（2年次、2単位、30時間）、
老年看護援助論Ⅰ（2年次、1単位、30時間）、
老年看護援助論Ⅱ（3年次、1単位、30時間）、
老年看護学実習Ⅰ（3年次、2単位、90時間）、
老年看護学実習Ⅱ（4年次、2単位、90時間）

担当科目：

老年看護学概論（30時間）、老年看護援助論Ⅰ（24時間）、老年看護援助論Ⅱ（30時間）、
老年看護学実習Ⅰ（90時間）、老年看護学実習Ⅱ（90時間）、看護ゼミナールⅠ（26時間）、
看護研究演習Ⅰ（24時間）、看護研究演習Ⅱ（30時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：

教授会、入学者選抜委員会、カリキュラム検討会（学科）、学年担任（3年）

学術活動：

所属学会・研究会等：

研究会等：日本保健医療行動科学会、日本看護科学学会、日本老年看護学会、
日本看護学教育学会、日本認知症ケア学会（代議員、査読委員）、日本健康科学学会、
聖路加看護学会、死の臨床研究会、日本看護倫理学会（臨床倫理ガイドライン検討委員会委員）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 草薙 美穂 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：小児看護学概論（3年前期・2単位30時間）、
小児看護援助論Ⅰ（3年後期・1単位15時間）、小児看護学実習（4年前期・2単位90時間）

担当科目：小児看護援助論Ⅱ（3年後期・1単位30時間）、
看護ゼミナールⅠ（2年前通年・1単位90時間）、
看護研究演習Ⅰ（3年通年・1単位30時間）、
看護研究演習Ⅱ（4年通年・1単位30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：キャリア支援センター一部門員、図書・学術振興委員会、
カリキュラム検討会、1年生担任

学術活動：

所属学会・研究会等：日本小児看護学会、日本小児保健協会、乳幼児保健学会（評議員）、
乳幼児医学・心理学研究、北海道成育看護研究会（理事）

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費 基盤研究（C）「ファミリーパートナーシップモデルに基づく育児支援
一支援者の人材育成への方略」平成30年～令和3年、研究代表者

科研費 基盤研究（B）「親子の相互作用を重視した観察法に基づく虐待予防・育児支援
システムの開発研究」令和2～5年、研究分担者

科研費 基盤研究（C）「親による乳幼児への体罰を防ぐための支援ガイドラインの開発」
令和2～5年、研究分担者

社会活動：こども医療電話相談事業（＃8000）相談員

顕彰：なし

氏名 小山 満子 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：母性看護学、助産学、看護教育学

教育活動：

専任科目：「看護を知る」（1年次前期開講、1単位、15時間）、
「母性看護学概論」（2年次後期開講、2単位、30時間）、
「女性の健康障害」（3年次前期開講、1単位、オムニバス、30時間）、
「母性看護学実習」（4年次前期開講、2単位、90時間）、
「看護ゼミナールⅢ」（3年次通年開講、1単位、30時間）、
「看護ゼミナールⅣ」（4年次通年開講、1単位、30時間）、
「看護教育」（4年次後期開講 1単位、15時間）、
「看護研究演習」（4年次通年開講、2単位、90時間）

担当科目：「看護を知る」（1年次前期開講、1単位、15時間）、
「母性看護学概論」（2年次後期開講、2単位、30時間）、
「母性看護学実習」（4年次前期開講、2看護単位、90時間）、
「看護ゼミナールⅢ」（3年次通年開講、1単位、30時間）、
「看護ゼミナールⅣ」（4年次通年開講、1単位、30時間）、
「看護研究演習」（4年次通年開講、2単位、90時間）、
「看護教育」（4年次後期開講、1単位、15時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

〈学内委員会〉

教授会、研究倫理審査委員会（委員）、図書学術振興委員会（委員長）、紀要編集委員長、
カリキュラム委員会（委員）、教員選考委員会（委員）

〈学科内業務等〉

カリキュラム検討会、実習施設の継続活動、実習施設新規開拓の活動業務

学術活動：

日本母性衛生学会、日本助産師学会、日本看護学教育学会、日本フォレンジック看護学会、
日本思春期学会、日本看護科学学会、北海道母性衛生学会、北海道思春期学会等

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：日本看護教育協議会会員、北海道看護教育協議会委員
顕彰：なし

氏名：佐々木 由紀子 学科：看護学科 職階：教授
専門分野：成人看護学（急性期・慢性期）、がん看護学、看護管理学
教育活動：

責任科目：成人看護学概論（2年次、2単位、30時間）、
成人看護援助論Ⅱ（3年次、1単位、30時間）、
成人看護援助論Ⅲ（3年次、1単位、30時間）、
成人看護学特論（2年次、1単位、30時間）、
成人看護学実習Ⅰ（3年次、4単位、180時間）、
看護ゼミナールⅠ（2年次、1単位、30時間）

担当科目：成人看護学概論（30時間）、成人看護援助論Ⅱ（24時間）、
成人看護援助論Ⅲ（30時間）、成人看護学特論（22時間）、
成人看護援助論Ⅰ（14時間）、成人看護学実習Ⅰ（180時間）、
看護ゼミナールⅠ（30時間）、看護研究演習Ⅰ（22時間）、
看護研究演習（30時間）、看護を知る（15時間）、チーム医療論（4時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

<学内委員会>

教授会、自己点検評価委員会（委員）、研究費審査委員会（委員）、教員選考委員会（委員）

<学科内業務>

実収検討会（リーダー）、3年生Aクラス学担（主担任）、看護学実習病院開拓

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護学教育学会、
日本看護歴史学会、医療事故・紛争対応研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道看護研究学会座長

顕彰：なし

氏名：進藤 ゆかり 学科：看護学科 職階：教授
専門分野：地域・在宅看護学、老年看護学、家族看護学、慢性看護学
教育活動：

責任科目：在宅看護学概論（2年次、2単位、30時間）、
在宅看護援助論Ⅰ（3年次、1単位、30時間）
在宅看護援助論Ⅱ（3年次、1単位、30時間）、
在宅看護論実習（4年次、2単位、90時間）

担当科目：在宅看護学概論（30時間）、在宅看護援助論Ⅰ（30時間）、
在宅看護援助論Ⅱ（26時間）、在宅看護論実習（90時間）、
看護を知る（15時間）、看護ゼミナールⅡ（30時間）、
看護研究演習Ⅰ（60時間）、看護研究演習Ⅱ（60時間）、
臨床看護技術演習（15時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教授会、教務委員会委員、倫理委員会委員、4年次学生担任、
看護学科カリキュラム検討会代表、国師対策小委員会委員

学術活動：

所属学会・研究会等：

ホスピスケア研究会、看護総合科学研究会（評議員）、日本家族看護学会、
日本精神保健看護学会、日本老年看護学会、日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、
日本看護学教育学会、北海道ペインクリニック学会、北海道公衆衛生学会（評議員）、
日本公衆衛生看護学会、日本地域看護学会、日本在宅看護学会（学科運営委員、査読委員）、
日本看護研究学会、Public Health Nursing(査読委員)、
Clinical Nursing Research(査読委員)、Journal of Advance Nursing（査読委員）、
看護科学研究(査読委員)

科学研究費（研究資金）の取得：

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「非がん性慢性痛を抱えたがん患者に
対するオピオイド鎮痛薬治療の現状と課題」代表
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「終末期がん患者の望む生き方を支え
る看護師の対話力獲得モデルと尺度の開発」分担
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「2視線分析を活用した看護教員の臨
床推論を可視化する教育メソッド開発」分担

社会活動：科研製薬株式会社 社外プロトコール等アドバイザー、

札幌市立大学茶部サークルボランティア講師、日本医療大学市民公開講座講師、
札幌医科大学市民公開講座講師

顕彰：なし

氏名 高橋 美和 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：看護管理学、統合看護学、基礎看護学

教育活動：

責任科目：看護ヘルスアセスメント論（2年次、2単位、30時間）、
診療過程の援助技術（2年次、1単位、30時間）、
医療情報（4年次、1単位、15時間）、統合実習（4年次、2単位、90時間）

担当科目：看護ヘルスアセスメント論（8時間）、診療過程の援助技術（12時間）、
看護研究演習Ⅰ（30時間）、医療情報（15時間）、現代の看護と課題（2時間）、
統合実習（90時間）、看護研究演習Ⅱ（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、衛生委員、研究費審査委員会、図書学術振興委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本看護管理学会、
日本国際保健医療学会、日本混合方法学会

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：東北大学看護管理学研究会運営委員

顕彰：なし

氏名 松本 真由美 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：精神保健学 社会福祉学 発達心理学

教育活動：

責任科目：

社会福祉学（看護学科1年次・リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、
心理学（看護学科1年次、1単位、15時間）、
人間関係の科学（看護学科1年次、1単位、15時間）、
発達心理学（看護学科1年次・リハビリテーション学科、1単位、15時間）、
ボランティア活動（看護学科2年次・リハビリテーション学科2年次・
診療放射線学科 2年次、1単位、30時間）、
心の健康科学Ⅰ（看護学科2年次・リハビリテーション学科 2年次、1単位、15時間）、
心の健康科学Ⅱ（看護学科2年次・リハビリテーション学科 2年次、1単位、15時間）、
カウンセリング論（看護学科3年次、1単位、15時間）、
看護研究演習（看護学科4年次、2単位、60時間）、
心理学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、
人間関係の科学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、
心理学（診療放射線学科1年次・臨床検査学科1年次、1単位、15時間）、
人間関係の科学（診療放射線学科・臨床検査学科1年次、1単位、15時間）、
心の健康科学Ⅰ（診療放射線学科2年次、1単位、15時間）

担当科目：

社会福祉学（15時間）、ボランティア活動（15時間）、心理学（45時間）、
人間関係の科学（45時間）、発達心理学（15時間）、心の健康科学Ⅰ（2時間）、
心の健康科学Ⅱ（2時間）、カウンセリング論（15時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：北星学園大学（精神保健の課題と支援）

学内委員会・学科内業務等：

教授会、学生相談センター（室長）、入学者選抜委員会、入学前学習課題担当（責任者）、
ハラスメント相談員、学生担当教員（1年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本精神障害者リハビリテーション学会、日本精神保健福祉学会（学術誌査読委員）、
日本社会福祉学会、日本地域福祉学会（地域委員）、日本学生相談学会、
日本精神保健福祉士学会 北海道地域福祉学会（理事・学術誌編集委員長）、
北海道社会福祉学会（学術誌編集委員）

科学研究費(研究資金)の取得：

平成30年度～33年度科学研究費基盤研究(C)18K02113「政策決定過程における精神障害
当事者委員参画と当事者活動との関連」研究代表者

社会活動：

精神障害者回復者クラブすみれ会理事、
北海道庁総務部法務・法人局北海道史編さん委員会社会・文化小部会委員、
精神医療国家賠償請求訴訟研究会専門部会担当、
2020年度「第23回精神保健福祉士全国統一模擬試験」問題作成者(株式会社テコム)、
大阪精神医療人権センター権利擁護システム研究会精神医療審査会班担当

顕彰：なし

氏名 森口 眞衣 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：アジアの医療思想史

教育活動：

責任科目：倫理学（看護学科1年次、1単位、15時間）、
医療と論理学（看護学科1年次、1単位、15時間）、
生命倫理（看護学科1年次、1単位、15時間）、
医療と宗教（看護学科1年次、1単位、15時間）、
医療と哲学（看護学科1年次、1単位、15時間）、
倫理学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、
医療と論理学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、
生命倫理（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、
医療と宗教（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、
医療と哲学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、
倫理学（診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、
生命倫理（診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、
医療と宗教（診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、
倫理学（臨床検査学科1年次、1単位、15時間）、
生命倫理（臨床検査学科1年次、1単位、15時間）、
医療と哲学（臨床検査学科1年次、1単位、15時間）

担当科目：倫理学（30時間）、医療と論理学（30時間）、医療と宗教（15時間）、
医療と哲学（30時間）、生命倫理（45時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：札幌保健医療大学（生命倫理）、北海道教育大学（日本社会の特質）、
北翔大学（生命倫理）、北星学園大学（仏教の思想と文化）、
札幌リハビリテーション専門学校（生命倫理学）

学内委員会・学科内業務等：

教授会、研究倫理委員会（有識者委員）、FD委員会、
留学生別科教員選考委員会（審査委員）、ハラスメント防止委員会（オブザーバー）、
兼担教員（リハビリテーション学科、診療放射線学科、臨床検査学科）、
入学前学習課題担当、2021年度日本医療大学生涯学習講座第1回講師（4月、月寒公民館）、
2021年度日本医療大学研究倫理研修講師（8月）、
北海道FDSDフォーラム2021話題提供討論指定大学担当：分科会A（9月、北海道大学）、
オープンキャンパス面接特別講座担当（10月、月寒本キャンパス）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本医学哲学・倫理学会、日本生命倫理学会、日本宗教学会、日本印度学仏教学会、
日本精神病理学会、日本精神医学史学会（評議員）、日本森田療法学会、インド思想史学会、
九州医学哲学・倫理学会（監事）、北海道生命倫理研究会（コアメンバー）、
北海道大学文学研究科宗教学研究会

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（基盤研究C）「精神療法の成立と展開における宗教動態との接点および影響関係の研究」研究代表者（平成31年度～令和5年度）、科研費（基盤研究A）「アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及びその思想史的研究」研究分担者（平成31年度～令和4年度）

社会活動：日本精神医学史学会第24回大会大会長（11月6～7日）、
北海道生命倫理研究会第18回セミナー（2021年度冬季）「講演2」座長（2月11日）
顕彰：なし

氏名 山崎 公美子 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：基礎看護学、看護教育学、看護歴史・占領史

教育活動：

責任科目：看護学概論（1年次、2単位、30時間）、
看護過程論（2年次、1単位、30時間）、
臨床看護技術演習（4年次、1単位、30時間）、
基礎看護学実習Ⅰ（2年次、1単位、45時間）、
基礎看護学実習Ⅱ（2年次、2単位、90時間）

担当科目：看護学概論（30時間）、看護の基本技術論（4時間）、
生活援助技術Ⅰ（8時間）、生活援助技術Ⅲ（4時間）、
看護ヘルスアセスメント論（24時間）、診療過程の援助技術（18時間）、
看護過程論（30時間）、臨床看護技術演習（30時間）、
看護研究演習Ⅰ（24時間）、看護研究演習Ⅱ（30時間）、
基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）、
診療放射線学科・基礎看護学（4時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教務委員会、研究倫理委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

American Association for the History of Nursing、日本看護歴史学会、日本看護科学学会、
日本看護教育学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、看護人間工学会、日本医史学会
科学研究費（研究資金）の取得：

基盤研究（C）「視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発」
研究代表者

社会活動：日本医療大学 生涯学習講座 11月：「看護師の目配り気配り」講師

北海道看護協会 令和3年度北海道専任教員養成講習会：「看護教育方法論Ⅱ」講師

顕彰：なし

氏名 山田 敦士 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：言語人類学、言語教育、東南アジア地域研究

教育活動：

責任科目：日本語表現（看護学科1年、1単位、60時間）、
日本語表現（リハビリテーション学科1年、1単位、60時間）、
日本語表現（診療放射線学科1年、1単位、30時間）、
日本語表現（臨床検査学科1年、1単位、30時間）、
中国語（看護学科1年、1単位、60時間）、
中国語（リハビリテーション学科1年、1単位、60時間）、
中国語（診療放射線学科2年、1単位、30時間）、
中国語（臨床検査学科1年、1単位、30時間）

担当科目：日本語表現（看護学科、60 時間）、
日本語表現（リハビリテーション学科、60 時間）、
日本語表現（診療放射線学科、30 時間）、日本語表現（臨床検査学科、14 時間）、
中国語（看護学科、60 時間）、中国語（リハビリテーション学科、60 時間）、
中国語（診療放射線学科、30 時間）、中国語（臨床検査学科、30 時間）、
看護研究演習（看護学科、60 時間）

非常勤講師：北星学園大学（中国語）

学内委員会・学科内業務等：

教授会、留学生別科（別科長）、教務委員会、キャリアセンター、カリキュラム委員会、
自己点検評価委員会、入学前課題担当、看護学科カリキュラム検討会、
オープンキャンパス入試対策講座、バトミントン部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本言語学会、日本中国語学会（評議員）、北海道民族学会（運営委員）、社会言語科学会、
中国人文学会、家畜資源研究会

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費(基盤B)「タイ文化圏に関する言語事典の編纂に向けて」分担者
(平成30年度～令和4年度)

社会活動：

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題
「東南アジア大陸部地域語彙の類型論的研究」共同研究員（平成30年度～令和3年度）、
北海道民族学会査読委員、社会言語科学会査読委員

顕彰：なし

氏名 伊津美 孝子 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：基礎看護学、看護管理学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：生活援助技術、診療援助技術の演習(54 時間)、基礎看護学実習Ⅱ引率、教育、指導
非常勤講師：なし

学内委員会 なし

学科内業務等：看護学科3年生副担任（後期）

学術活動：

所属学会・研究会等：教育システム情報学会、日本看護研究学会、日本看護教育学会、
日本看護技術学会、日本看護管理学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科研基盤C 研究代表者

医療ビッグデータ時代における看護の見える化」推進 e ラーニングシステムの開発

社会活動：

日本医療大学病院看護記録研修支援（1回/月）10/1～

全国済生会看護部長会主催近畿ブロック看護師研修会2回(2021.11.20, 11.27)

講師「中堅看護師教育研修」

顕彰：なし

氏名 志渡 晃一 学科 看護学科 職階 教授

専門分野： 公衆衛生学 疫学 保健統計学

教育活動：

責任科目：保健医療統計(2021年看護学科、1単位、12時間)、
公衆衛生学(2021年看護学科、1単位、12時間)、
公衆衛生学(2021年診療放射線学科、1単位、12時間)、
衛生学(2021年診療放射線学科、1単位、12時間)、
統計学(2021年看護学科、1単位、12時間)、
統計学(2021年理学療法学科、1単位、12時間)

担当科目：保健医療統計(12時間)、公衆衛生学(24時間)、衛生学(12時間)、統計学(24時間)

非常勤講師：北海道医療大学(公衆衛生学)、美唄聖華高等学校(公衆衛生学)

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本社会医学会(評議員)、日本疫学会、日本社会福祉学会、北海道公衆衛生学会(理事)

科学研究費(研究資金)の取得：

文部科学省基盤研究(C)「社会福祉士養成教育における客観的臨床能力試験(OSCE)

普及モデルの開発」分担者

学内学術助成費「高等教育機関に所属する学生のインターネット依存の現状とその健康影響」代表者

社会活動：放送大学客員教授業務、北海道家庭生活カウンセリングセンター研修

顕彰：なし

氏名 工藤 悦子 学科 看護学科 職階 准教授

専門分野： 小児看護学

教育活動：

責任科目：小児看護援助論(3年次、2単位、30時間)、看護ゼミナールⅡ(4年次、1単位、30時間)

担当科目：小児看護援助論(30時間)、小児看護学実習(90時間)、看護ゼミナールⅡ(30時間)、
臨床看護技術演習(30時間)、看護研究演習Ⅰ(30時間)、看護研究演習Ⅱ(30時間)、
看護を知る(15時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：国家試験対策小委員会、4年次学担、1日体験入学担当、実習検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本小児保健協会、日本小児看護学会、日本思春期学会、日本看護科学学会、
日本看護技術学会、日本教育工学会

科学研究費(研究資金)の取得：

●基盤研究(C)「小児看護学実習に携わる看護師のための循環型現任教育プログラムの開発と評価」・
研究代表者

●基盤研究(C)「子どもと家族へのグリーフサポートにおけるコミュニティケアの検証と
再構築の試み」・研究分担者

●基盤研究(C)「視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発」・
研究分担者

社会活動：北海道看護協会保健師助産師看護師実習指導者講習会演習助言

顕彰：なし

氏名 滋野 和恵 学科 看護学科 職階 准教授

専門分野：精神看護学

教育活動：

責任科目：

精神看護学援助論（3年次前期、1単位30時間）、

精神看護学実習（3年次後期、2単位、90時間）、

看護研究（3年次前期、1単位30時間）、

看護研究演習Ⅱ（4年次通年、1単位30時間）

担当科目：

精神看護学援助論（30時間）、精神看護学実習（450時間）、看護研究（30時間）、

看護研究演習Ⅱ（30時間）、看護を知る（15時間）、看護ゼミナールⅠ（26時間）、

看護研究演習Ⅰ（22時間）、臨床看護技術演習（6時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

学生委員会、FD委員会、実習検討会、カリキュラム検討会、体験入学

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本応用心理学会、

SST普及協会、日本精神科看護協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：保健師助産師看護師実習指導者講習会演習助言者、北海道看護協会学会委員会委員

顕彰：なし

氏名 鶴木 恭子 学科 看護学科 職階 准教授

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：

看護の基本技術論（1年次、2単位、30時間）、生活援助技術Ⅱ（1年生、1単位、30時間）

担当科目：

看護の基本技術論（18時間）、生活援助技術Ⅰ（16時間）、生活援助技術Ⅱ（26時間）、

生活援助技術Ⅲ（12時間）、看護ヘルスアセスメント論（8時間）、看護過程論（15時間）、

基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）、看護研究（30時間）、

看護ゼミナールⅠ（30時間）、看護研究演習Ⅰ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護技術学会、日本看護科学学会、高齢者ケアリング学研究会

科学研究費（研究資金）の取得：

挑戦的研究(萌芽)「ひとり暮らし高齢者に対するナラティブ睡眠ケアプログラムの効果評価」

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 相馬 幸恵 学科 看護学科 職階 准教授

専門分野：看護管理学 経営学

教育活動：

責任科目：医療安全（2年次、1単位、15時間）

医療安全（3年次、1単位、15時間）

看護管理（3年次、1単位、15時間）

担当科目：看護の基本技術論Ⅰ（30時間）、生活援助技術論Ⅱ（30時間）、

生活援助技術論Ⅲ（30時間）、看護過程論（30時間）、

看護ヘルスアセスメント論（30時間）、診療過程の援助技術（30時間）、

医療安全（2年次、15時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）、看護管理（15時間）、

医療安全（3年次、15時間）、看護倫理（15時間）、看護研究演習Ⅰ（30時間）、

看護研究演習Ⅱ（30時間）、看護ゼミナールⅡ（30時間）、

臨床看護技術演習（30時間）

非常勤講師：札幌保健医療大学（医療安全論：15時間、看護管理論：15時間）

学内委員会・学科内業務等：キャリアセンター運営委員、国家試験対策委員、4年次担任

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護管理学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、

しごと能力研究学会（推薦理事）、日本労務学会、日本情報経営学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本医療大学病院 記録委員会 研修会講師（1時間、3回）

顕彰：なし

氏名 合田 恵理香 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：成人看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

成人看護援助論Ⅰ（2年次、2単位、20時間）、成人看護学特論（2年次、1単位、16時間）、

成人看護学実習Ⅰ（3年次、4単位、180時間）、成人看護学実習Ⅱ（4年次、2単位、90時間）、

看護研究演習Ⅰ（3年次、1単位、24時間）、看護研究演習Ⅱ（4年次、2単位、60時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：

実習検討会、看護研究演習Ⅰ担当グループ、学生担当教員（2年生副担任）、

ハラスメント相談員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本クリティカルケア看護学会、

日本看護学教育学会、日本看護管理学会、日本ヒューマンケア心理学会、

日本看護歴史学会、日本音楽療法学会、日本統合医療学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 メディカルスタッフ

顕彰：なし

氏名 吉田 香 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：基礎看護学、看護教育

教育活動：

責任科目：生活援助技術Ⅰ（1年次、1単位、30時間）

担当科目：看護学概論（1年次、2単位、30時間）、
看護の基本技術論（1年次、2単位、30時間）、
生活援助技術Ⅰ（1年次、1単位、30時間）、
生活援助技術Ⅱ（1年次、1単位、30時間）、
生活援助技術Ⅲ（1年次、1単位、30時間）、
診療過程の援助技術（2年次、1単位、30時間）、
看護過程論（2年次、1単位、30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（2年次、1単位、45時間）、
基礎看護学実習Ⅱ（2年次、2単位、90時間）、
看護研究演習Ⅰ（3年次、1単位、30時間）、
臨床看護技術演習（4年次、1単位、30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：学生募集必達プロジェクト、オープンキャンパス、一日体験入学
学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護歴史学会、
北海道医療大学看護福祉学部学会、看護科学研究学会、日本看護技術学会、日本看護協会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 中澤 洋子 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：成人看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：看護を知る（14）、成人看護援助論Ⅰ（24）、成人看護援助論Ⅱ（14）、
成人看護援助論Ⅲ（12）、成人看護学特論（18）、成人看護学実習Ⅰ（180）、
成人看護学実習Ⅱ（90）、看護研究演習Ⅰ（30）、看護研究演習Ⅱ（30）、
看護ゼミナールⅠ（26）、

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：学内委員なし
学科内：カリキュラム検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：

がん看護学会 会員、日本看護科学学会 会員、日本看護教育学会 会員、
日本看護研究学会 会員、北日本看護学会 会員

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：ホスピタルアート学生の集い運営委員、千歳市ボランティア清掃

顕彰：なし

氏名 原田 圭子 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：基礎看護学領域、地域在住高齢者の閉じこもり予防

教育活動：

責任科目：生活援助技術Ⅲ（後期、1単位、30時間）

担当科目：看護の基本技術論(16時間)、生活援助技術Ⅰ(24時間)、
生活援助技術Ⅱ(10時間)、生活援助技術Ⅲ(30時間)、
看護過程論(15時間)、看護研究演習Ⅰ(22時間)、
看護研究演習Ⅱ(30時間)、基礎看護学実習Ⅰ(45時間)、
基礎看護学実習Ⅱ(90時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：1年生学年担当、実習検討会、看護学科庶務係

学術活動：

所属学会・研究会等：日本老年看護学会、北海道公衆衛生学会、高知女子大学看護学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：新型コロナワクチン職域接種

顕彰：なし

氏名 松村 寛子 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：地域看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：在宅看護援助論Ⅰ(26時間)、在宅看護援助論Ⅱ(21時間)、
看護ゼミナールⅠ(24時間)、臨床看護技術演習(4時間)、
看護研究演習Ⅰ(22時間)、看護研究演習Ⅱ(30時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：3年生担任（前期のみ）、実習室ワーキング会議

学術活動：

所属学会・研究会等：北海道公衆衛生学会、日本看護教育学会

科学研究費（研究資金）の取得：令和3年度 日本医療大学学術助成費

社会活動：日本ハンギングバスケット協会 札幌支部広報係

日本医療大学 コロナウイルスワクチン接種に従事

顕彰：なし

氏名 佐藤 恵 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：介護過程の展開、認知症ケア、脳死と臓器移植、ターミナルケア

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：老年看護学概論（30時間中6時間）、看護ゼミナールⅠ（30時間）、
看護を知る（15時間）、看護研究演Ⅰ（30時間）、看護研究演習Ⅱ（30時間）

非常勤講師：藤女子大学（医学概論 30時間）

学内委員会・学科内業務等：

学生募集対策委員会（必達プロジェクトメンバー）、老年領域業務

学術活動：

所属学会・研究会等：

老年看護学学会、日本エンドオブライフケア学会、日本死の臨床研究会、
日本リスクマネジメント学会、日本介護支援専門員協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道介護福祉士会釧根支部研修会講師（介護過程を3回実施）、
介護技能実習評価試験（「初級」・「専門級」）実施

顕彰：なし

氏名 川崎 文 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：母性看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：看護を知る（1年次・1単位・15時間）、
母性看護援助論（3年次・1単位・30時間）、
母性看護学実習（4年次・2単位・90時間）、
看護ゼミナールⅠ（2年次・1単位・30時間）、
看護研究演習Ⅰ（3年次・1単位・30時間）、
看護研究演習Ⅱ（4年次・1単位・30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

学生委員会、8月開催1日体験入学サポート、
10月開催オープンキャンパス母性看護学担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本助産学会・日本助産師会・北海道助産師会・日本母性衛生学会・
全国助産師教育協議会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：健康管理士一般指導員（日本成人病予防協会）・グリーンケア・東洋哲学・
メディカルアロマ・みらい育ティーチャー・たいわ士・音響セラピスト・
カラーセラピー

顕彰：なし

氏名 大久保 未央 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：老年看護学実習Ⅰ（3年次、2単位、90時間）、
老年看護学実習Ⅱ（4年次、2単位、90時間）、老年看護援助論Ⅰ（2時間）、
看護を知る（15時間）、看護研究演習Ⅰ（30時間）、看護研究演習Ⅱ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：実習検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本老年看護学会、日本口腔ケア学会、
日本認知療法・認知行動療法学会、集団認知療法研究会、北海道公衆衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 服部 かおる 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：精神看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：精神看護学援助論、精神看護学概論、精神看護学実習、統合実習、看護を知る、
看護ゼミナールⅠ、看護研究、看護研究演習Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学(放射線学科2年)

非常勤講師：学校法人大原学園大原医療福祉専門学校(基礎医学・内科学)

学内委員会・学科内業務等：実習検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本精神保健看護学会、(一社)日本精神科看護協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：ローランド(株)ピアノ科・オルガン科審査員

顕彰：なし

氏名 和田 ゆい 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：基礎看護学、認知症看護

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：看護学概論(1年次、2単位、2時間)、
看護の基本技術論(1年次、1単位、10時間)、
生活援助技術Ⅰ(1年次、1単位、22時間)、
生活援助技術Ⅱ(1年次、1単位、24時間)、
生活援助技術Ⅲ(1年次、1単位、16時間)、
看護過程論(2年次、2単位、16時間)、
臨床看護技術演習(4年次、2単位、10時間)、
基礎看護学実習Ⅰ(2年次、2単位、45時間)、
基礎看護学実習Ⅱ(2年次、2単位、90時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本老年看護学会、
日本認知症ケア学会、北海道公衆衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 柏民 圭太 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：基礎看護学分野

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：生活援助技術Ⅱ(10時間)、生活援助技術Ⅲ(12時間)、
看護過程論(14時間)、診療過程の援助技術(2時間)、
基礎看護学実習Ⅱ(90時間)、看護研究演習Ⅰ(30時間)、
看護ゼミナールⅠ(30時間)、臨床看護技術演習(2時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：1学年担任、1日体験入学係、庶務係

学術活動：

所属学会・研究会等：日本脳神経看護研究学会

科学研究費(研究資金)の取得：なし

社会活動：日本脳神経看護研究学会 北海道地方部会 総会 選挙管理委員

顕彰：なし

氏名 中村 江衣 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：基礎看護学、がん看護

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：看護ヘルスアセスメント論(22時間)、看護の基本技術論(18時間)、
生活援助技術Ⅰ(20時間)、生活援助技術Ⅱ(22時間)、生活援助技術Ⅲ(13時間)、
看護過程論(15時間)、看護研究演習Ⅰ(24時間)、看護研究演習Ⅱ(30時間)、
臨床技術演習(3時間)、基礎看護学実習Ⅰ(45時間)、基礎看護学実習Ⅱ(90時間)

学内委員会・学科内業務等：オープンキャンパス、入試

学術活動：

所属学会・研究会等：日本がん看護学会、日本緩和医療学会、日本専門看護師協議会、
日本創傷・オストミー・失禁管理学会

科学研究費(研究資金)の取得：なし

社会活動：がん看護専門看護師としての活動

顕彰：なし

氏名 佐藤 みゆき 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：在宅看護

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：在宅看護援助論Ⅰ(19.5時間)90分13回、在宅看護援助論Ⅱ(担当9.3時間)、
在宅看護論実習(担当90時間)、看護ゼミナールⅠ(担当30時間)、
看護研究演習Ⅰ(担当30時間)、看護研究演習Ⅱ(担当30時間)、
臨床技術演習(担当10時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：オープンキャンパス、1日体験入学

学術活動：

所属学会・研究会等：公益社団法人 日本看護科学学会、
一般社団法人 日本看護学教育学会、
一般社団法人 日本在宅ケア学会、
一般社団法人 日本在宅看護学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 渡邊 美樹 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：老年看護学概論Ⅰ(看護2年次 3時間)、
老年看護学援助論Ⅰ(看護2年次 6時間)
老年看護学援助論Ⅱ(看護3年次 12時間)、
老年看護学実習Ⅰ(看護3年次 2単位 90時間)
老年看護学実習Ⅱ(看護4年次 2単位 90時間)
看護研究演習Ⅰ(看護3年次 1単位 30時間)
看護研究演習Ⅱ(看護4年次 1単位 30時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：シミュレーション委員 オープンキャンパス

所属学術活動・学会・研究会等：

老年看護学学会 日本看護管理学会 日本看護科学学会 認知症とその家族の会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：認知症とその家族の会（新潟）広報

顕彰：なし

氏名 難波 亨 学科 看護学科 職階 助手

専門分野：精神看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：精神看護学概論(30時間)、精神看護学実習(90×5時間)、
看護研究演習Ⅰ(15時間)、看護ゼミナールⅠ(30時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：実習検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：看護総合科学研究会、日本看護技術学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 久保田 麻理子 学科 看護学科 職階 助手

専門分野：成人看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：成人看護学援助論Ⅰ（8時間）、成人看護学特論（9時間）、
成人看護学援助論Ⅱ（4時間）、成人看護学援助論Ⅲ（8時間）、
成人看護学実習Ⅰ（180時間）、成人看護学実習Ⅱ（90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：親睦会委員

学術活動：

所属学会・研究会等：なし

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 本間 公 学科 看護学科 職階 助手

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

1年生科目：看護学概論（2時間）、看護の基本技術論（演習：26時間）、
生活援助技術Ⅰ（演習：38時間）、生活援助技術Ⅱ（演習：28時間）、
生活援助技術Ⅲ（演習：40時間）

2年生科目：看護過程論（演習16）、基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）

3年生科目：看護研究演習Ⅰ（30時間）

4年生科目：看護研究演習Ⅱ（30時間）、臨床看護技術演習（演習：6時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：日本循環器看護学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

11-1-③ リハビリテーション学科教員

氏名 向井 康詞 学科 リハビリテーション学科 職階 教授・学科長

専門分野：解剖学、運動器障害、運動生理学

教育活動：

責任科目：解剖学Ⅰ（1年次前期、2単位30時間）、
解剖学Ⅱ（1年次後期、2単位、30時間）
解剖学演習（1年次前期、2単位60時間）、
臨床判断学（基礎編）（2年次後期、1単位30時間）、
臨床判断学（応用編）（3年次後期、1単位30時間）、
卒業研究Ⅰ（3年次通年、2単位60時間）、
卒業研究Ⅱ（4年次前期、1単位30時間）

担当科目：解剖学Ⅰ（30時間）、解剖学Ⅱ（30時間）、解剖学演習（60時間）、
臨床判断学（基礎編）（30時間）、臨床判断学（応用編）（30時間）、
臨床実習Ⅰ（理学療法）（90時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（180時間）、
臨床実習Ⅲ（理学療法）（720時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

運営委員会、教務委員会、自己点検評価委員会、入試委員会、入学者選抜委員会、
人権擁護委員会、不正調査委員会、ハラスメント防止委員会、解剖学見学実習担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法士協会、北海道理学療法士会、日本義肢装具学会、日本運動生理学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 大堀 具視 学科 リハビリテーション学科 職階 教授

専門分野：作業療法（身体障害）

教育活動：

責任科目：

作業療法概論（1年次、1単位、30時間）、
発達障害作業治療学（3年次、2単位、60時間）、
身体障害作業治療学（3年次、2単位、60時間）、
日常生活適応学（3年次、1単位、30時間）、
作業療法治療学特論（3年次、1単位、30時間）、
チーム医療論（3年次、1単位、15時間）、
リハビリテーション管理学（4年次、1単位、15時間）

非常勤講師：

IMS 札幌内科リハビリテーション病院臨床指導、
特別養護老人ホーム芦別慈恵園介護指導、
特別養護老人ホーム和寒芳生苑介護指導

学内委員会・学科内業務等：

作業療法学専攻長、キャリアセンター、研究倫理委員会、不正調査委員会、
FD委員会、カリキュラム委員会、入学者選抜委員会、入試委員会、研究費審査委員会、
国際交流委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：(社)日本作業療法士協会、(公社)北海道作業療法士会、
作業療法研究学会、日本生態心理学会、
地域リハビリテーション研究会、日本ボバース研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道作業療法士連盟代表、北海道リハビリテーション専門職協会事業局員、
学術誌「作業療法」編集委員、学術誌「作業療法の実践と科学」査読委員、
札幌市介護認定審査会委員

- ・北海道老人保健施設協議会 研修講師（2021年6月、2022年1月：オンライン）
- ・奈良県介護労働安定センター 研修会講師（2021年8月：オンライン）
- ・芦別市みんなで介護考える会 講演会講師（2021年9月：オンライン）
- ・千歳市絆の会 研修講師（2021年11月、2022年1月：オンライン）
- ・静岡県社会福祉協議会 研修会講師（2021年9月、2022年1月：オンライン）
- ・空知老人福祉施設協議会 介護職員研修会（2021年9月、11月：芦別慈恵園）
- ・手稲区通所サービス協議会 研修会講師（2021年10月：手稲区民センター、オンライン）
- ・東京海上ベターライフサービス 研修会講師（2022年1月：オンライン）
- ・千葉県社会福祉協議会 研修会講師（2022年2月：オンライン）

顕彰：なし

氏名 八田 達夫 学科 リハビリテーション学科 職階 特任教授

専門分野：作業療法学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：発達障害作業治療学（30時間）、就労支援作業療法学（12時間）、
作業療法特論（シーティング）（10時間）、作業療法評価学（2時間）

非常勤講師：

北海道大学医学部保健学科（職業関連作業療法学）、
北星学園大学社会福祉学部（リハビリテーション論Ⅰ）、
北海道医療大学リハビリテーション科学部（発達障害作業療法学演習）

学内委員会・学科内業務等：認知症研究所研究員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、日本職業リハビリテーション学会、
日本リハビリテーション工学協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

ノテ福祉会特別養護老人ホームふるさとにて実施しているスヌーズレンの支援（週2回）

顕彰：なし

氏名 佐藤 秀紀 学科 リハビリテーション学科 職階 特任教授

専門分野：保健福祉学、老年社会科学、リハビリテーション学

教育活動：

責任科目：リハビリテーション論(1年次、2単位、30時間)、
生活環境学(3年次、1単位、15時間)、
高齢期障害理学療法学(3年次、1単位、30時間)

担当科目：リハビリテーション論(30時間)、地域理学療法学(8時間)、
生活環境学(15時間)、高齢期障害理学療法学(30時間)、
代謝免疫高齢者理学療法学(4時間)、臨床実習

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：日本保健福祉学会(査読委員)、日本社会福祉学会(査読委員)、
日本老年社会科学学会(査読委員)

科学研究費(研究資金)の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 岸上 博俊 学科 リハビリテーション学科 職階 教授

専門分野：高齢期作業療法 地域作業療法

教育活動：

責任科目：地域リハビリテーション論 2年次(前期)30時間、
地域リハビリテーション演習 2年次(後期)8時間、
高齢期障害作業治療学 3年次(通年)60時間、
日常生活適応学(ADL) 3年次(前期)40時間、
作業療法治療学特論(治療理論) 3年次(後期)30時間、
作業療法治療学特論(シーティング) 3年次(後期)20時間

担当科目：作業療法概論、身体障害作業治療学(中枢神経系) 3年次(後期)20時間、
卒業研究Ⅱ 4年次(通年)60時間、臨床実習Ⅰ 2年次(後期)、
臨床実習Ⅱ 3年次(後期)、臨床実習Ⅲ 4年次(前期)

学内委員会・学科内業務等：

教授会、自己点検評価委員会(委員長) 教務委員会(委員長)、図書・学術振興委員会、
カリキュラム委員会、リハビリテーション学科カリキュラム委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本作業療法士協会、北海道作業療法士会(理事)、障害学会、日本作業科学研究会、
作業療法を社会学・障害学する研究会

科学研究費(研究資金)の取得：受託研究 株式会社クオリ

社会活動：札幌市内における訪問作業療法実施

顕彰：なし

氏名 石橋 晃仁 学科 リハビリテーション学科 職階 教授

専門分野：神経障害理学療法学

教育活動：

責任科目：

理学療法セミナーⅠ（1年次後期、1単位、30時間）、
理学療法セミナーⅡ（2年次後期、1単位、30時間）、
理学療法セミナーⅢ（3年次前期、1単位、30時間）、
神経障害理学療法学（3年次前期、1単位、30時間）、
神経障害理学療法学演習（3年次前期、1単位、30時間）、
日常生活活動基礎学（3年次前期、1単位、30時間）、
臨床実習Ⅰ（2年次後期、2単位、90時間）、
臨床実習Ⅱ（3年次後期、4単位、180時間）、
臨床実習Ⅲ（4年次前期、16単位、720時間）

担当科目：

理学療法セミナーⅠ（1年次後期、30時間）、
理学療法セミナーⅡ（2年次後期、30時間）、
理学療法セミナーⅢ（3年次前期、14時間）、
神経障害理学療法学（3年次前期、30時間）
神経障害理学療法学演習（3年次前期、30時間）、
日常生活活動基礎学（3年次前期、30時間）、
チーム医療論（3年次前期、2時間）、
卒業研究Ⅰ（3年次通期、60時間）、
卒業研究Ⅱ（4年次通期、60時間）、
リハビリテーション管理学（4年次後期、8時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

キャリア学修支援センター運営委員、学生委員会委員、教務委員会委員、
入学者選抜委員会委員、教員選考委員、ハラスメント相談員、
理学療法学専攻3年生学生担当教員、
理学療法学専攻ワーキング（臨床実習、就職支援、国試対策）、CBRサークル顧問代行

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法士協会、北海道理学療法士会（社会局介護予防・健康増進支援部長）、
認知神経リハビリテーション学会、北海道リハビリテーション学会、
日本リハビリテーションスポーツ学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

札幌市理学療法赤十字奉仕団 副委員長
札幌刑務所高齢・障害受刑者用社会復帰支援プログラム「基本的生活動作訓練」 講師
北海道理学療法士会 介護予防推進リーダー導入研修会 講師
STV ラジオ「工藤じゅんきの十人十色」ツルハ千年カメは万年健康一口メモゲスト出演

顕彰：なし

氏名 及川 直樹 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

専門分野：運動器障害、上肢機能障害、ハンドセラピー

教育活動：

責任科目：

作業療法評価学演習（骨・関節系）（2年次，1単位，30時間）、
身体障害作業治療学（運動器・内部障害系）（3年次，1単位，30時間）、
義肢装具作業療法学（3年次，1単位，15時間）、
義肢装具作業療法学演習（3年次，1単位，15時間）、
福祉用具学（3年次，1単位，15時間）

担当科目：

作業療法評価学演習（骨・関節系）（30時間）、
身体障害作業治療学（運動器・内部障害系）（22時間）、
義肢装具作業療法学（15時間）、義肢装具作業療法学演習（11時間）、福祉用具学（8時間）、
体表解剖学（45時間）、作業療法セミナーⅠ（15時間）、作業療法セミナーⅡ（15時間）、
作業療法治療学特論（ハンドセラピー）（4時間）、作業療法学概論（1時間）

非常勤講師：札幌リハビリテーション専門学校（作業療法各論）

学内委員会・学科内業務等：

教授会、研究倫理委員会、キャリアセンター運営委員会、作業療法学専攻4学年担任、
国家試験対策担当教員、就職活動支援担当教員、障害学生対応委員会、
必達募集プロジェクト、解剖見学実習担当教員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本肩関節学会、日本整形外科超音波学会、日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、
北海道ハンドセラピー研究会（幹事）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

Asian Journal of Occupational Therapy reviewer、学術誌「作業療法」査読者、
学術誌「作業療法の実践と科学」査読者、北海道作業療法士会学術部編集委員、
厚生労働省指定臨床実習指導者講習会講師、
メディカルスタッフのための運動器解剖セミナーインストラクター、
羊ヶ丘病院臨床・研究指導、
道都大学男女バスケットボール部メディカルスタッフ・トレーナー、
北海道ハンドセラピー研究会教育講演、羊ヶ丘病院杯女子軟式野球大会メディカルブース

顕彰：

「臨床整形外科」最優秀論文賞 2021

及川直樹，清本憲太，泉水朝貴，明本聡，榊善成，鈴木雄貴，大堀具視：

肘痛の経験の有する野球選手における尺側手根屈筋および浅指屈筋筋力と最大握力発揮時の手関節背屈角度の関係．臨床整形外科．56(11)：1367-1372, 2021

2021年 作業療法の実践と科学最優秀論文賞

清本憲太，小川尚平，小椋伸一，有澤沙織，及川直樹，村上元，大堀具視：

痛みの破局的思考の重症度が，痛みの強度や感情，生活障害に与える影響-地域在住高齢者による検討．作業療法の実践と科学．3(3) 65-73, 2021

氏名 西山 徹 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

専門分野： 義肢装具学、身体運動学

教育活動：

責任科目：義肢装具学(3年次、1単位、30時間)、
義肢装具学演習(3年次、1単位、30時間)、
理学療法評価学(運動器系)(2年次、1単位、30時間)、
理学療法評価学演習(運動器系)(2年次、2単位、60時間)

担当科目：義肢装具学(3年次、1単位、30時間)、
義肢装具学演習(3年次、1単位、30時間)、
理学療法評価学(運動器系)(2年次、1単位、30時間)、
理学療法評価学(神経系)(2年次、1単位、30時間)、
理学療法評価学演習(運動器系)(2年次、2単位、60時間)、
理学療法評価学演習(運動器系)(2年次、2単位、60時間)、
運動学演習(2年次、1単位、30時間)、
義肢装具作業療法学(3年次、1単位、4時間)、
災害リハビリテーション(3年次、1単位、2時間)、
臨床実習Ⅰ(理学療法)(2年次、1単位、6時間)、
臨床実習Ⅱ(理学療法)(3年次、3単位、12時間)、
臨床実習Ⅲ(理学療法)(4年次、16単位、12時間)、
卒業研究Ⅰ(3年次、1単位、30時間)、
卒業研究Ⅱ(4年次、2単位、60時間)

非常勤講師：

北海道医療大学(義肢装具学Ⅱ)、札幌リハビリテーション専門学校(義肢関連理学療法)

学内委員会・学科内業務等：

教授会、カリキュラム委員会、人権擁護委員会、FD委員会、学生担当教員(1年生)、
理学療法学専攻臨床実習担当、理学療法学専攻カリキュラム担当、
理学療法学専攻1年次学生担当、バレーボールサークル顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本支援工学理学療法学会(編集委員)、日本理学療法士協会、日本義肢装具学会、
日本理学療法科学学会、臨床歩行分析研究会

科学研究費(研究資金)の取得：

科研費(基盤研究C(一般))「模擬義足を用いた新しい歩行練習に関する基礎的研究」
研究代表者(2019年度～2022年度)

社会活動：

北海道理学療法士協会主催 第1回災害リハビリテーション研修会講師、

介護職員初任者研修講師 日本医療大学生涯学習センター、

STVラジオ「工藤じゅんきの十人十色」ゲスト出演、

「北海道理学療法」「Journal of Physical Therapy Science」査読者

顕彰：なし

氏名 矢口 智恵 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

専門分野：神経生理学、運動生理学、姿勢制御

教育活動：

責任科目：運動学 I（1 年次、2 単位、30 時間）、
生理学演習（2 年次、1 単位、30 時間）、
研究法（3 年次、1 単位、30 時間）、
発達障害理学療法学（3 年次、1 単位、30 時間）

担当科目：運動学 I（1 年次、2 単位、30 時間）、
生理学演習（2 年次、1 単位、30 時間）、
研究法（3 年次、1 単位、30 時間）、
発達障害理学療法学（3 年次、1 単位、30 時間）、
臨床実習 I（理学療法）（6 時間）、臨床実習 II（理学療法）（12 時間）、
臨床実習 III（理学療法）（24 時間）、
卒業研究 I（60 時間）、卒業研究 II（60 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：学生担当教員（理学療法学専攻 3 年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本健康行動科学会（編集委員、理事）、
日本理学療法士協会、Society for Neuroscience、
日本臨床神経生理学会、日本生理人類学会（評議員）

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（基盤研究（C）（一般））

「高齢者における体性感覚と視覚への注意分散と姿勢制御の関連」研究代表者

科研費（基盤研究（C）（一般））

「随意的な前・後傾姿勢運動時の位置感覚情報への注意と脳の活性化」研究分担者

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 清本 憲太 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

専門分野：疼痛、知覚、整形外科学、作業療法学

教育活動：

責任科目：作業療法評価学（2 年次、1 単位、30 時間）、
作業療法評価学演習（基礎評価）（2 年次、1 単位、30 時間）、
作業療法評価学演習（中枢神経系）（2 年次、1 単位、30 時間）、
作業療法評価学演習（神経・筋力系）（2 年次、1 単位、30 時間）、
作業療法治療学特論（ハンドセラピー）（3 年次、1 単位、30 時間）

担当科目：基礎作業学演習（30 時間）、作業療法治療学（内部障害・運動器障害）（30 時間）、
作業療法治療学（中枢神経系）（60 時間）、日常生活適応学（ADL）（60 時間）、
生理学演習（30 時間）、作業療法セミナー II（30 時間）

非常勤講師：埼玉県立大学（身体機能作業療法学演習（基礎））、
札幌リハビリテーション専門学校（作業療法特論 ハンドセラピー）、
藤女子大学（日常生活活動）、我汝会えにわ病院（非常勤作業療法士）

学内委員会・学科内業務等：

教務委員会委員、カリキュラム委員会委員、学科内カリキュラム検討委員会、
臨床実習担当（専攻内）、学生担当教員（3年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本作業療法士協会、日本ハンドセラピー学会、日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、
日本作業療法研究学会、北海道整形災害外科学会、北海道骨粗鬆症研究会、
北海道作業療法士会（教育部員）、北海道ハンドセラピー研究会（理事）

科学研究費（研究資金）の取得：

日本医療大学学術助成費

（一側で生じた触覚情報を共有すると反対側の触覚の学習が生じるか？

-触覚フィードバック装置ゆびレコーダー[®]を用いた検討-：代表者）

社会活動：

学術誌 作業療法 論文査読委員、作業療法ジャーナル 論文査読委員、
作業療法の実践と科学 論文査読委員、日本作業療法士協会学会演題審査委員、
北海道作業療法士会学会演題審査委員、北海道作業療法士会教育部員

顕彰：なし

氏名 近藤 和夫 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

専門分野：内部障害理学療法学（特に、循環器理学療法）

教育活動：

責任科目：

運動療法学（2021、1、30）、運動療法学演習（2021、1、30）、

代謝・免疫系障害理学療法学（2021、1、30）、

呼吸リハビリテーション特論（2021、1、15）

担当科目：

生理学演習（30）、運動療法学（2021、1、30）、運動療法学演習（30）、

代謝・免疫系障害理学療法学（26）、運動学演習（30）、

呼吸・循環器障害理学療法学（14）、呼吸リハビリテーション特論（15）、

地域リハビリテーション学演習（4）、卒業研究Ⅰ（60）、卒業研究Ⅱ（30）

非常勤講師：

千歳リハビリテーション大学(内部障害理学療法学)、

東北文化学園大学(内部障害理学療法学)、

札幌医学技術歯科専門学校(内部障害理学療法)、

北都保健福祉専門学校(内部障害系の理学療法)

学内委員会・学科内業務等：

研究倫理委員会、全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック会（幹事）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本循環器理学療法学会（理事）、日本心臓リハビリテーション学会（評議員）、

日本臨床運動療法学会（評議員）、日本心不全学会、

日本心臓リハビリテーション学会北海道支部（庶務幹事）、

北海道内部障害リハビリテーション研究会（代表幹事）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道理学療法士会（常任理事）、

北海道総合保険医療協議会地域保健専門委員会循環器疾患対策小委員会（委員）、

北海道災害福祉支援ネットワーク会議（委員、北海道災害派遣福祉チーム員）、

北海道災害リハビリテーション推進協議会（理事）

顕彰：なし

氏名 泉水 朝貴 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

専門分野：バイオメカニクス、運動器障害理学療法、徒手理学療法、スポーツ理学療法
教育活動：

責任科目：運動器障害理学療法学（3年次、1単位、30時間）、

運動器障害理学療法学演習（3年次、1単位、30時間）、

スポーツ理学療法学（3年次、1単位、30時間）

担当科目：運動器障害理学療法学（3年次、1単位、30時間）、

運動器障害理学療法学演習（3年次、1単位、30時間）、

スポーツ理学療法学（3年次、1単位、30時間）、解剖学演習（60時間）、

運動学演習（30時間）

非常勤講師：北海道ハイテクノロジー専門学校（運動学）

学内委員会・学科内業務等：

自己点検評価委員会、入学者選抜委員会、健康管理等運営委員会、臨床実習担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法士協会、日本整形外科スポーツ医学会、日本運動器徒手理学療法学会

科学研究費（研究資金）の取得：

日本医療大学学術助成費「胸椎後弯角度の変化が肩甲骨の運動へ及ぼす影響について」代表者

社会活動：大麻高校「1年次大学出前講義」

顕彰：臨床整形外科 最優秀論文賞 2021：「肘痛の経験を有する野球選手における尺側手根屈筋
および浅指屈筋筋力と最大握力発揮時の手関節背屈角度の関係」

氏名 合田 央志 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

専門分野：福祉用具学、福祉住環境論

教育活動：

責任科目：

情報科学演習（1年前期、1単位、15時間）、

基礎作業学演習（1年前期、1単位、15時間）、

作業療法評価学演習（基礎評価）（2年前期、1単位、15時間）、

作業療法セミナーⅢ（3年後期、1単位、30時間）

担当科目：

作業療法評価学演習（基礎）（2年前期、1単位、15時間）、

基礎作業学演習（1年後期、1単位、15時間）、

作業療法評価学演習（神経・筋力系）（1年後期、1単位、15時間）、

作業療法評価学演習（骨・関節系）（1年前期、1単位、15時間）、

作業療法セミナーⅡ（2年後期、1単位、15単位）、

生理学演習（2年前期、1単位、30時間）、
運動学演習（2年後期、1単位、15時間）、
卒業研究Ⅰ（3年後期、1単位、15時間）
非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：
FD委員会、図書学術振興委員会、研究費審査委員会、相互授業参観
学術活動：
所属学会・研究会等：
日本作業療法学会、北海道作業療法士会、北海道作業療法学会（演題査読委員）、
日本リハビリテーション工学カンファレンス
科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学教育向上費取得
社会活動：全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック 幹事
顕彰：なし

氏名 松崎（木原）由里子 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

専門分野：地域理学療法学、高齢者理学療法学、公衆衛生学

教育活動：

責任科目：地域リハビリテーション学演習（2年次、1単位、2時間）、
理学療法評価学演習（運動器系）（2年次、2単位、60時間）

担当科目：地域理学療法学（3年次、1単位、12時間）、
理学療法評価学（運動器系）（2年次、1単位、30時間）、
生理学演習（2年次、1単位、30時間）、運動学演習（2年次、1単位、6時間）、
災害リハビリテーション（3年次、1単位、15時間）、
卒業研究Ⅰ（3年次、1単位、30時間）、卒業研究Ⅱ（3年次、1単位、30時間）

非常勤講師：札幌医科大学（地域理学療法学）

学内委員会・学科内業務等：PT専攻実習担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法士協会、日本公衆衛生学会、日本国際保健医療学会、応用老年学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

理学療法学（査読委員）、北海道理学療法士会 社会局介護予防・健康増進支援部（部員）、

日本理学療法士協会 新人教育プログラム（講師）、独立行政法人国際協力機構（JICA）

国際緊急援助隊（登録者）、平成リウマチ委員会研修（講師）

顕彰：なし

氏名 村上 元 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

専門分野：精神障害作業療法

教育活動：

責任科目：精神障害作業治療学（3年次、2単位、58時間）、
就労支援作業療法学（3年次、1単位、10時間）、
作業療法セミナーⅡ（2年次、1単位、30時間）、
作業療法セミナーⅠ（1年時、1単位、26時間）

担当科目：

生理学演習(2年次、1単位、30時間)、作業療法概論(1年次、1単位、2時間)、
作業療法評価学演習(基礎)(2年次、1単位、8時間)、
地域リハビリテーション学演習(2年次、1単位、6時間)、
発達障害作業治療学(3年次、2単位、20時間)、卒業研究Ⅰ(3年次、1単位、60時間)、
卒業研究Ⅱ(4年次、2単位、30時間)

非常勤講師：

北星学園大学(社会的スキル実習、8時間)、
札幌医科大学(精神障害作業療法治療学、2時間)、
北海道医療大学(障がい者当事者論、2時間)

学内委員会・学科内業務等：学生委員会、人権擁護委員会、作業療法学専攻4年生学担
学術活動：

所属学会・研究会等：北海道作業療法士会(論文審査委員)、日本作業療法士協会、
SST普及協会(北海道支部副支部長、学術委員)、
日本認知療法・認知行動療法学会、日本認知・行動療法学会、
日本パーソナリティ心理学会

科学研究費(研究資金)の取得：

学内 令和3年度学術助成費。「大学生における自閉スペクトラム傾向、感覚、
セルフモニタリング能力及び把持能力の関係」。代表者。

社会活動：作業療法ジャーナル 査読者

R3年7月7日：公益社団法人 北海道作業療法士会 主催。新人研修
(精神領域・10回シリーズ) 発達障害の評価と治療。

R3年12月13日：令和3年度 恵庭市農福連携研修会 障害者の就労支援について
～農福連携からみえること～。

顕彰：なし

氏名：村上 正和 学科：リハビリテーション学科 職階：講師

専門分野：脳血管疾患のリハビリテーション

教育活動：

責任科目：高次脳機能障害作業療法治療学(3年次前期、1単位、30時間)、
福祉住環境論(3年次後期、1単位、30時間)、
高次脳機能障害学(3年次後期、1単位、30時間)

担当科目：地域リハビリテーション学(30時間)、日常生活適応学(ADL)(30時間)、
作業療法概論(30時間)、作業療法評価学(中枢神経系)(30時間)、
作業療法評価学演習(基礎評価)(30時間)、高齢期障害作業療法治療学(60時間)、
地域リハビリテーション学演習(30時間)、作業療法セミナーⅢ(30時間)、
卒業研究Ⅱ(30時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

実習担当(リハビリテーション学科 OT)、国家試験担当(リハビリテーション学科 OT)、
学年担任(リハビリテーション学科 OT)

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、日本肩関節学会、
認知神経リハビリテーション学会、日本訪問リハビリテーション学会、
神経難病リハビリテーション研究会、日本作業行動学会、
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本心臓リハビリテーション学会、
日本嚥下リハビリテーション学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（2022年度若手研究）

「360°カメラとVR技術を併用した視覚誘導性自己運動錯覚の効果」代表者
令和3年度学術助成費（日本医療大学）

「VRを利用した視覚誘導性自己運動錯覚は脳卒中片麻痺の治療として利用可能か」

社会活動：NPO法人 iCare ほっかいどうボランティアスタッフ

顕彰：なし

備考：学術誌「作業療法」査読者、学術誌「JPTS」査読者

氏名 坂口 友康 学科 リハビリテーション学科 職階 助教

専門分野：小児理学療法、地域理学療法、高齢者、理学療法評価、痛み、認知症

教育活動：

責任科目：

理学療法評価学（神経系）（2年次、1単位、30時間）※2クラスのため、15×2時間

理学療法評価学演習（神経系）（2年次、2単位、60時間）※2クラスのため、30×2時間

担当科目：

理学療法評価学（運動器）（2年次、1単位、14時間）※2クラスのため、7×2時間

理学療法評価学演習（運動器）（2年次、1単位、30時間）※2クラスのため、15×2時間

理学療法評価学（神経系）（2年次、1単位、16時間）※2クラスのため、8×2時間

理学療法評価学演習（神経系）（2年次、2単位、30時間）※2クラスのため、15×2時間

臨床判断学（基礎編）（2年次、1単位、15時間）、

臨床判断学（応用編）（3年時、1単位、15時間）、

解剖学演習（1年次、2単位、30時間）※1クラスのみ、

地域理学療法学（3年次、1単位、2時間）、卒業研究Ⅰ（3年次、1単位、30時間）、

卒業研究Ⅱ（4年次、2単位、60時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（3年次、3単位、8時間）、

臨床実習Ⅲ（理学療法）（4年時、16単位、32時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

募集必達プロジェクト（学内）、学生就職サポート教員（学科内業務）、

学科会議議事録係（学会内業務）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本公衆衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 渋川 佳彦 学科 リハビリテーション学科 職階 助教

専門分野：バイオメカニクス、車いすシーティング

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：理学療法評価学（運動器系）（2年、1単位、30時間）、
理学療法評価学演習（運動器系）（2年、2単位、60時間）、
理学療法評価学（神経系）（2年、1単位、30時間）、
理学療法評価学演習（神経系）（2年、2単位、60時間）、
運動療法学演習（2年、1単位、30時間）、
臨床実習Ⅰ（2年、2単位、90時間）、
臨床実習Ⅱ（3年、3単位、135時間）、
臨床実習Ⅲ（4年、16単位、720時間）、
卒業研究Ⅰ（3年、2単位、60時間）、
地域リハビリテーション学演習（2年、1単位、30時間）、
義肢装具学演習（3年、1単位、30時間）、
理学療法セミナーⅢ（3年、1単位、30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

理学療法学専攻第2学年担任、国家試験対策係（学科内）、臨床実習係（学科内）

学術活動：

所属学会・研究会等：

社団法人（現公益社団法人）日本理学療法士協会および北海道理学療法士会会員、
特定非営利活動法人日本シーティング・コンサルタント協会会員、
一般社団法人理学療法科学学会会員

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 新開谷 深 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

専門分野：運動器理学療法、徒手理学療法

教育活動：

責任科目：体表解剖学（1年次、1単位、30時間）、
徒手関節治療学（3年次、1単位、30時間）、
軟部組織治療学（3年次、1単位、30時間）

担当科目：体表解剖学（1年次、30時間）、理学療法セミナーⅠ（1年次、30時間）、
徒手関節治療学（3年次、30時間）、軟部組織治療学（3年次、30時間）、
卒業研究Ⅰ（3年次、60時間）、卒業研究Ⅱ（4年次、30時間）

非常勤講師：北翔大学（健康運動実践論）

学内委員会・学科内業務等：学生委員会、国家試験・実習担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

公益（社）日本理学療法協会、公益（社）北海道理学療法士会、
日本整形徒手療法協会 日本運動器徒手療法学会、マニュアルセラピー研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：北海道理学療法士会 学会研修部および総務部
顕彰：なし

氏名 三浦 紗世 学科 リハビリテーション学科 職階 助教

専門分野：公衆衛生、予防医学、理学療法学

教育活動：

責任科目：

ウィメンズヘルスケア論（3年前期、1単位、15時間）、
予防医学（1年後期、1単位、15時間）

担当科目：

ウィメンズヘルスケア論（3年前期、1単位、15時間）、
予防医学（1年後期、1単位、15時間）、
理学療法評価学（運動器系）（2年前期、1単位、30時間）、
理学療法評価学演習（運動器系）（2年前期、2単位、60時間）、
理学療法評価学（神経系）（2年後期、1単位、30時間）、
理学療法評価学演習（神経系）（2年後期、2単位、60時間）、
運動学演習（2年後期、1単位、30時間）、
臨床判断学（基礎編）（2年後期、1単位、30時間）、
臨床判断学（応用編）（3年後期、1単位、30時間）、
卒業研究Ⅰ（3年通年、2単位、60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

理学療法学専攻1年生学担、障害学生対応委員会、学科内教員親睦会、
ハラスメント相談員、学科内募集必達係

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、理学療法科学学会

科学研究費（研究資金）の取得：

「高齢者における足趾把持力が降雪期の転倒発生に及ぼす影響」
（研究活動スタート支援）代表者

社会活動：公益社団法人北海道理学療法士会 学術局 学術誌部部員

顕彰：なし

11-1-④ 診療放射線学科教員

氏名 杉本 芳則 学科 診療放射線学科 職階 学科長・教授

専門分野：放射線技術学、胃X線画像読影技術

教育活動：

責任科目：

情報科学（1年次、1単位、15時間）、情報科学演習（1年次、1単位、30時間）、
診療画像技術学概論（2年次、1単位、15時間）、
診療画像技術学Ⅰ（一般撮影）（2年次、2単位、30時間）、
画像解剖学Ⅰ（X線画像）（2年次、2単位、30時間）、
応急処置法（演習）（4年次、1単位、30時間）、臨床実習Ⅰ（3年次、4単位、180時間）、
臨床実習Ⅱ（4年次、6単位、270時間）、
放射線技術学特別講義（4年次、1単位、30時間）、
卒業研究（4年次、4単位、120時間）

担当科目：

情報科学（15時間）、情報科学演習（30時間）、診療画像技術学概論（14時間）、
診療画像技術学Ⅰ（一般撮影）（28時間）、診療画像技術学Ⅱ（一般撮影）（2時間）、
画像解剖学Ⅰ（X線画像）（28時間）、放射線技術学特別講義（2時間）、
総合演習Ⅱ（2時間）、臨床実習Ⅰ（54時間）、臨床実習Ⅱ（12時間）、
卒業研究（120時間）、国家試験対策補講（2時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

運営委員会、教務委員会、自己点検・評価委員会、入学試験委員会、入学者選抜委員会、
不正調査委員会、人権擁護委員会、ハラスメント防止委員会、国際交流委員会、
学生募集対策委員会、国家試験対策委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本放射線技術学会、日本CT検診学会、
日本消化器がん検診学会（北海道支部放射線研修委員）、
日本放射線技師会、日本消化器画像診断情報研究会（常任世話人）、
日本医用画像管理学会、札幌ニューテクノロジー研究会（相談役）、
日本消化器がん検診精度管理評価機構、大阪消化管撮影技術研究会

科学研究費（研究資金）の取得：

日本医療大学令和3年度教育向上研究費「3Dプリンタを活用した診療放射線学科における
教育プログラムの構築」共同研究者

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 俵 紀行 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野： 磁気共鳴医工学、スポーツ医科学、骨成熟評価

教育活動：

責任科目：

放射線科学概論（1年次、1単位、15時間）、
画像解剖学Ⅱ（MRI・超音波・造影画像）（3年次、2単位、30時間）、
MRI 検査学（3年次、2単位、30時間）、
医療安全管理学（4年次、1単位、15時間）

担当科目：

放射線科学概論（1年次、1単位、15時間）、
画像解剖学Ⅱ（MRI・超音波・造影画像）（3年次、2単位、30時間）、
MRI 検査学（3年次、2単位、30時間）、
医療安全管理学（4年次、1単位、15時間）、
総合演習Ⅰ（専門基礎領域）（4年次、1単位、30時間）、
総合演習Ⅱ（臨床領域）（4年次、1単位、30時間）、
卒業研究（4年次、4単位、120時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等： 図書・学術振興委員会、入学者選抜委員会、国際交流委員会
学術活動：

所属学会・研究会等：

日本放射線技術学会、日本放射線技術学会 撮影分科会、医用画像情報学会、
日本磁気共鳴医学会、日本医学物理学会、日本骨形態計測学会、日本放射線技師会、
北海道放射線技師会、ESR(European Society of Radiology)、
SMRT(Section for Magnetic Resonance Technologists)

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：一般社団法人日本磁気共鳴医学会代議員

顕彰：なし

氏名 西山 修輔 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野： プラズマ計測学

教育活動：

責任科目：

放射線物理学（1年次、2単位、30時間）、
放射線物理学演習（2年次、1単位、30時間）、
電気・電子工学（2年次、2単位、30時間）、
医用工学（2年次、2単位、30時間）、
医用工学実験（2年次、1単位、45時間）

担当科目：

放射線物理学（30時間）、放射線物理学演習（30時間）、電気・電子工学（30時間）、
医用工学（30時間）、医用工学実験（15時間）、放射線物理学実験（24時間）、
診療画像機器学（6時間）、総合演習Ⅰ（専門基礎領域）（4時間）、卒業研究（120時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

図書・学術振興委員会、カリキュラム委員会、研究費審査委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：応用物理学会、プラズマ・核融合学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（基盤研究(C)）「半導体レーザーを用いた二段励起レーザー誘起蛍光法による高感度電界計測法の開発」（2020～2022年度）代表者、

核融合科学研究所一般共同研究

「LHDにおける長光路に適した飽和吸収分光法の開発」代表者、

核融合科学研究所一般共同研究

「水素原子における2段階励起ドップラーフリーレーザー誘起蛍光法の開発」分担者

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 樋口 健太 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野：放射化学、環境放射線、放射線公衆安全学、保健物理学、放射線教育
教育活動：

責任科目：化学（1年次後期、1単位15時間、15時間）、
医療コミュニケーション学（1年次後期、1単位15時間、15時間）、
放射化学演習（2年次後期、1単位30時間、30時間）、
臨床解剖学演習（3年次前期、1単位30時間、30時間）、
画像診断学Ⅱ（胸部・心大血管・消火器他）（4年次前期、2単位30時間、30時間）、
画像診断学Ⅲ（演習）（4年次後期、1単位30時間、30時間）、
総合演習（臨床領域）（4年次後期、1単位30時間、30時間）、
卒業研究（4年次通年、4単位120時間、120時間）

担当科目：化学（1年次後期、1単位15時間、15時間）、
医療コミュニケーション学（1年次後期、1単位15時間、15時間）、
放射線物理学実験（2年次前期、1単位45時間、45時間）、
放射化学演習（2年次後期、1単位30時間、30時間）、
診療画像技術学実験Ⅰ（X線検査）（2年次後期、1単位45時間、45時間）、
臨床解剖学演習（3年次前期、1単位30時間、30時間）、
画像診断学Ⅱ（胸部・心大血管・消火器他）（4年次前期、2単位30時間、30時間）、
画像診断学Ⅲ（演習）（4年次後期、1単位30時間、30時間）、
総合演習（臨床領域）（4年次後期、1単位30時間、30時間）、
卒業研究（4年次通年、4単位120時間、120時間）、
チーム医療（看護学科2年次後期、1単位15時間、2時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教授会、FD委員会（委員長）、学生委員会、ハラスメント相談員、

日本医療大学後援会（役員）、学年担当教員（1年担当B）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、放射線安全取扱部会、

日本放射線公衆安全学会、診療放射線学教育学会、日本放射線技師教育学会、
北海道放射線技師会、札幌放射線技師会、日本放射線技術学会北海道支部会、
日本放射線技術学会学術推進員、

日本放射線技術学会 北海道支部 放射線計測防護専門委員

科学研究費（研究資金）の取得：

日本医療大学学術助成費（代表者）、放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点

社会活動：北海道 FSDS 協議会委員

顕彰：なし

氏名 木村 徹 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野：医療画像情報学、医療画像工学、医療画像処理学

教育活動：

責任科目：

医療画像処理学、医療画像工学、医療画像情報学、医療画像情報学演習、
診療画像技術学実験Ⅱ

担当科目：

医療画像処理学（2年次後期、1単位 15時間、15時間）、
医用工学実験（2年次前期、1単位 45時間、45時間）、
診療画像技術学実験Ⅱ（3年次前期、1単位 45時間、45時間）、
医療画像工学（3年次前期、2単位 30時間、30時間）、
医療画像情報学（3年次後期、2単位 30時間、30時間）、
医療画像情報学演習（4年次後期、1単位 30時間、30時間）、
総合演習Ⅰ（4年次後期、1単位 30時間、4時間）、
総合演習Ⅱ（4年次後期、1単位 30時間、4時間）
臨床実習Ⅰ（3年次、4単位 180時間、24時間）、
臨床実習Ⅱ（4年次、6単位 270時間、36時間）

補講：国家試験対策（第1種放射線取扱主任者試験対策講義）（2、3年生対象前期）

学内委員会・学科内業務等：

教授会、教務委員会、カリキュラム委員会、国家試験対策委員会、2学年担任、
臨床実習編成統括

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本アイソトープ協会、日本放射線技術学会、日本教育工学会、診療放射線学教育学会、
日本放射線技師教育学会、生体医工学会、精密工学会、日本保健科学学会

科学研究費（研究資金）の取得：

日本医療大学教育向上研究費

「学生のキャリアアップのための支援プログラム構築について」

社会活動：

診療放射線学教育学機関誌 2021 Vol. 9 「日本医療大学 新キャンパス紹介」（施設報告）

顕彰：なし

氏名：福山 篤司 学科：診療放射線学科 職階：准教授
専門分野：診療画像機器学、磁気共鳴医学、医療技術評価学、放射線科学
教育活動：

責任科目：

診療画像機器学（2年次、2単位、30時間）、
診療画像技術学Ⅱ（造影検査）（3年次、2単位、30時間）、
診療画像機器学演習（3年次、1単位、30時間）、
画像診断学Ⅰ（頭部・頸部・脊髄）（3年次、2単位、30時間）、
診療画像機器学実験（3年次、1単位、45時間）

担当科目：

診療画像機器学（20時間）、診療画像技術学Ⅱ（造影検査）（26時間）、
診療画像機器学演習（26時間）、画像診断学Ⅰ（頭部・頸部・脊髄）（30時間）、
診療画像技術学概論（2時間）、診療画像機器学実験（45時間）、
臨床実習Ⅰ（180時間）、臨床実習Ⅱ（225時間）、総合演習Ⅱ（4時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教授会、自己点検・評価委員会、学生委員会、研究費審査委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本磁気共鳴医学会、日本放射線技術学会、4F FLOW研究会、
医用画像情報学会、十勝放射線技師会

科学研究費（研究資金）の取得：

科学研究費 基盤研究（C）「撮像時間短縮技術を使用したMR画像による血流動態解析の
精度検証に関する研究」代表者

日本医療大学令和3年度教育向上研究費

「3Dプリンタを活用した診療放射線学科における教育プログラムの構築」代表者

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 島 勝美 学科 診療放射線学科 職階 准教授

専門分野：放射線治療学、放射線計測学、医学物理学

教育活動：

責任科目：

放射線計測学（2021年度、2単位、30時間）、
放射線計測学演習（2021年度、1単位、30時間）、
放射線治療機器学（2021年度、1単位、15時間）、
放射線安全管理学（2021年度、2単位、30時間）、
関係法規（2021年度、1単位、15時間）

担当科目：

医用工学演習（2021年度、1単位、9時間）、
総合演習Ⅰ（2021年度、1単位、6時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教務委員、FD委員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本放射線技師会、北海道放射線技師会、札幌市放射線技師会、日本医学物理士会、
日本放射線技術学会、日本医学物理学会、日本放射線腫瘍学会、日本アイソトープ協会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 藤田 智 学科 診療放射線学科 職階 助教

専門分野：放射線生物学、核医学検査技術学、超音波検査技術学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

診療画像技術学Ⅱ（3年次、2単位、30時間）、
診療画像機器学演習（3年次、1単位、30時間）、
診療画像機器学（2年次、1単位、30時間）、
障害学特論（リハビリテーション学科2年次、1単位、30時間）、
診療画像技術学実験Ⅰ（2年次、1単位、45時間）、
診療画像技術学実験Ⅱ（3年次、1単位、45時間）、
診療画像機器学実験（3年次、1単位、45時間）、
放射線物理実験（2年次、1単位、45時間）、
総合演習Ⅱ（4年次、1単位、30時間）、卒業研究（4年次、4単位、60時間）、
臨床実習Ⅰ（3年次、4単位、180時間）、臨床実習Ⅱ（4年次、6単位、270時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：キャリアセンター運営委員会、募集必達プロジェクト、
4学年担任、国家試験対策小委員会、就職活動

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本診療放射線技師会、札幌放射線技師会、日本放射線技術学会、日本保健物理学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 黒蔵 邦夫 学科 診療放射線学科 職階 講師

専門分野：放射線技術学 予防医学

教育活動：

責任科目：

医療職としての責任と役割（4年 1単位 15時間）、
放射線カウンセリング学（4年 1単位 15時間）
医療機器安全管理学（4年 1単位 15時間）、
診療画像技術学実験Ⅰ（2年 1単位 45時間）

担当科目：

医療職としての責任と役割（15時間）、放射線カウンセリング学（15時間）、

医療機器安全管理学(15 時間)、診療画像技術学実験 I (25 時間)、
診療画像技術学 I (2 時間)、画像解剖学 I (2 時間)
総合演習 I : 専門基礎領域(2 時間)、総合演習 II : 臨床領域(6 時間)、
臨床実習 I : 学内(18 時間)、卒業研究(120 時間)

非常勤講師：北海道大学 医学部保健学科(臨床超音波検査学)

学内委員会・学科内業務等：人権擁護委員会 FD委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本放射線技術学会(撮影部会委員会 乳房撮影ガイドライン普及班委員)、
日本放射線技術学会北海道支部(監事)、日本乳癌検診学会(代議員)、
日本乳癌検診精度管理中央委員会(技術委員)、日本乳癌学会、日本超音波検査学会、
日本消化器がん検診学会、北海道公衆衛生学会、日本診療放射線技師会

科学研究費(研究資金)の取得：

社会活動：北海道がん対策推進委員会特別委員、札幌市がん対策部会 乳癌部会 委員、
札幌市健康づくり推進協議会 臨時委員、ピンクリボン in Sapporo 理事

顕彰：なし

氏名 白石 祐太 学科 診療放射線学科 職階 講師

専門分野：放射線治療生物学、エックス線・CT

教育活動：

責任科目：

X線CT検査学(3年次前期、2単位、30時間)、
医療情報管理学(4年次前期、1単位、15時間)、
画像解剖学Ⅲ(3年次後期、1単位、30時間)、
診療放射線学概論(1年次後期、1単位、15時間)、
放射線物理学実験(2年次前期、1単位、45時間)

担当科目：

X線CT検査学(30時間)、医療情報管理学(15時間)、画像解剖学Ⅲ(30時間)、
総合演習 I (30時間)、総合演習 II (30時間)、診療画像技術学実験 II (45時間)、
医用工学実験(45時間)、放射線物理学実験(45時間)、卒業研究(120時間)、
臨床実習 I (180時間)、臨床実習 II (270時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

自己点検・評価委員会、研究倫理委員会、3学年担任、臨床実習担当

学術活動：

所属学会・研究会等：日本医学物理学会、Radiological Society of North America

科学研究費(研究資金)の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 阿部 匡史 学科 診療放射線学科 職階 講師

専門分野：放射線治療技術学

教育活動：

責任科目：

情報科学演習（1単位，30時間）、放射線治療技術学概論（2単位，30時間）、
放射線治療技術学（2単位，30時間）、放射線治療計測学（1単位，15時間）、
放射線治療技術学演習（1単位，30時間）、総合演習Ⅰ（1単位，30時間）

担当科目：

情報科学演習(30時間)、放射線治療技術学概論(30時間)、放射線治療技術学(30時間)、
放射線治療計測学(15時間)、放射線治療技術学演習(30時間)、総合演習Ⅱ(2時間)、
放射線物理学実験(16時間)、診療画像技術学実験Ⅱ(48時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

研究倫理委員会、入学者選抜委員会、キャリアセンター運営委員会、国家試験対策小委員会
学術活動：

所属学会・研究会等：

日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、
日本放射線技術学会北海道支部（理事，放射線治療専門委員会 委員長）、
日本放射線腫瘍学会、日本医学物理学会、
日本医学物理士会北海道放射線治療研究会（世話人代表）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

日本放射線治療品質管理機構（北海道地区相談員）、
日本放射線治療専門放射線技師認定機構（北海道地区指導者）、
北海道放射線治療を語る部屋（幹事）

顕彰：なし

11-1-⑤ 臨床検査学科教員

氏名 品川 雅明 学科 臨床検査学科 職階 学科長・教授

専門分野：臨床微生物検査学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

臨床検査入門(2時間)、臨床検査機器総論演習Ⅰ(14時間)、
臨床検査機器総論演習Ⅱ(6時間)、チーム医療論(看護学科2年 2時間)、
チーム医療論(リハビリテーション学科3年 2時間)

非常勤講師：札幌医学技術福祉歯科専門学校(臨床微生物学)

学内委員会・学科内業務等：

運営会議、教授会、IR運営会議、教務委員会、自己点検・評価委員会、入試委員会、
入学者選抜委員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、教員選考委員会、
ハラスメント委員会、国際交流委員会、学生募集対策委員会、
日本医療大学生涯学習講座、日本医療大学認知症研究所、
日本医療大学PCR検査センター事業(管理責任者)、オープンキャンパス、
一日体験入学、入試相談会

学術活動：

所属学会・研究会等：

北海道臨床衛生検査技師会(副会長)、日本臨床微生物学会(理事)、
日本臨床衛生検査技師会、日本感染症学会、日本化学療法学会、
MALDI マルディノミクスの会(世話人)、札幌感染症談話会(代表世話人)、
北海道微生物検査研究会(世話人)

科学研究費(研究資金)の取得：

日本医療大学学術助成費、受託研究費(関東化学株式会社)

社会活動：

日本臨床微生物学会【認定技師制度(委員長)・認定医制度委員・地区制度委員・
認定臨床微生物検査技師制度審議会あり方委員・研修施設認定委員(委員長)・認定試験作成委員】、
日本臨床検査学教育協議会評議員、医学検査査読委員、
大学説明ガイダンス講師(札幌月寒高校)、進路別集会講師(札幌藻岩高校)、
志望群別集会講師(北広島高校)、札幌市PCR検査センター事業(協力員)

顕彰：なし

氏名 浅沼 広子 学科 臨床検査学科 職階 教授

専門分野：病理組織・細胞学、解剖学、

教育活動：

責任科目：

解剖学(1年次、1単位、15時間)、解剖学演習(1年次、1単位、30時間)

担当科目：

解剖学(15時間)、解剖学演習(30時間)、組織細胞学実習(45時間)、
臨床検査入門(2時間)、検査機器総論演習Ⅱ(4時間)、生涯特論(2時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教務委員、学生委員、研究倫理委委員、人権擁護委員、国際交流委委員、
ハラスメント相談委員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本癌学会、日本病理学会、日本臨床免疫学会、日本臨床衛生検査技師会、
日本臨床細胞学会

科学研究費（研究資金）の取得：

学内学術助成

「ホルモン受容体陽性乳がんの最適治療選択に向けた免疫病理学的解析」（代表者）

学内教育向上研究費「動物臓器を用いた病理検査学実習に向けての検討」（分担者）

社会活動：

札幌市 PCR 検査センター事業（協力員）、日本医療大学 PCR 検査センター事業（検査員）、
第 94 回北海道医学検査学会実務委委員、生涯学習講座講演（12 月）

顕彰：なし

氏名 徳永 祐一 学科 臨床検査学科 職階 教授

専門分野：病理学、病理検査学、組織細胞学、細胞診検査学

教育活動：

責任科目：組織細胞学（1 年次、1 単位、15 時間）、
組織細胞学実習（1 年次、1 単位、45 時間）、
病理学（1 年次、1 単位、15 時間）

担当科目：組織細胞学（15 時間）、組織細胞学実習（45 時間）、病理学（15 時間）、
解剖学演習（30 時間）、検査機器総論演習 I（14 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

日本医療大学 PCR 検査センター事業（検査員）、教務委員会、図書・学術振興委員会、
自己点検・評価委員会、入学者選抜委員会、研究費審査委員会、FD 委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会、細胞検査士会、
北海道細胞検査士会（副会長）、The International Academy of Cytology

科学研究費（研究資金）の取得：

教育向上研究費「動物臓器を用いた病理検査学実習に向けての検討」代表者、
学術助成費

「ホルモン受容体陽性乳がんの最適治療選択に向けた免疫病理学的解析」分担者

社会活動：

札幌市 PCR 検査センター事業（協力員）、
医療関連サービスマーク振興会 北海道地区委員長、
医療関連サービスマーク振興会 衛生検査所専門部会調査指導中央委員会委員、
医療関連サービスマーク振興会 医療関連サービスマーク制度（衛生検査所業務）調査指導員

顕彰：なし

氏名：梅森 祥央 学科：臨床検査学科 職階：教授

専門分野：臨床化学

教育活動：

責任科目：化学（1年次、1単位、15時間）、生化学Ⅱ（1年次、1単位、15時間）、
検査機器総論演習Ⅱ（1年次、1単位、8時間）、
障害学特論（2年次、1単位、4時間）

担当科目：化学（15時間）、生化学Ⅱ（15時間）、臨床検査入門（2時間）、
検査機器総論演習Ⅰ（8時間）、検査機器総論演習Ⅱ（8時間）、
障害学特論（4時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

図書・学術振興委員会、キャリアセンター運営委員会、カリキュラム委員会、
学生委員会、研究倫理委員会、FD委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本臨床化学会（評議員、酵素・試薬専門委員会委員）、
北海道臨床衛生検査技師会（常務理事、精度管理委員長）、
日本臨床衛生検査技師会（北日本支部生物化学分析部門長）、
日本臨床検査医学会、日本医療検査科学会、日本静脈経腸栄養学会

科学研究費（研究資金）の取得：

令和3年度学術助成（学内）「光散乱分析を利用したラテックス試薬によるPCT測定試薬
の基本性能に関する検討」梅森祥央

社会活動：札幌市PCR検査センター事業（協力員）、

日本医療大学PCR検査センター事業（検査員）、
北海道衛生検査所精度管理専門委員、
医療関連サービスマーク制度調査指導員

顕彰：なし

氏名澁谷 斉 学科臨床検査学科 職階講師

専門分野：臨床化学、一般検査学

教育活動：

責任科目：

臨床検査入門（2021年度、1単位、15時間）、
生化学Ⅰ（2021年度、1単位、15時間）、
検査機器総論演習Ⅰ（2021年度、1単位、30時間）、
臨床化学Ⅰ（2021年度、1単位、15時間）、
一般検査学Ⅰ（2021年度、1単位、15時間）

担当科目：

臨床検査入門（2021年度、1単位、2時間）、
生化学Ⅰ（2021年度、1単位、15時間）、
検査機器総論演習Ⅰ（2021年度、1単位、8時間）、
臨床化学Ⅰ（2021年度、1単位、15時間）、
一般検査学Ⅰ（2021年度、1単位、15時間）

非常勤講師：吉田学園医療歯科専門学校（臨床化学）

学内委員会・学科内業務等：

カリキュラム委員会委員、入学者選抜委員会委員、研究倫理委員会委員、
不正調査委員会委員、研究費審査委員会委員、FD 委員会委員

学術活動：

所属学会・研究会等：日本臨床衛生検査技師会、日本検査医学会、日本臨床化学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：札幌市 PCR 検査センター事業（協力員）

顕彰：なし

氏名 磯辺 正道 学科 臨床検査学科 職階 助教

専門分野：管理マネジメント チーム医療（多職種連携）

教育活動：

責任科目：

医療安全管理学、関係法規、臨床検査マネジメント論、臨床検査管理学 I、
保健医療福祉概論

担当科目：保健医療福祉概論（720 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

キャリアセンター運営委員会、自己点検・評価委員会学生委員会、人権委員会、
募集必達プロジェクト、1 年生学年担任

学術活動：

所属学会・研究会等：日本医学検査学会、日本環境感染学会、日本医療検査科学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

三笠市社会協議会 講演 ボランティア活動とコミュニケーション、

三笠市健康寿命を延ばし隊(代表)

多世代交流で介護予防を楽しく体験しよう！講演と体験会、

三笠市立三笠中学校 3 年生へ講演 医療について（チーム医療）、

高校での出前講義 5 回 医療ガイダンス講演(患者中心の多職種連携とコミュニケーション)

高校名：北海道平岡高校・岩見沢西高校・札幌北斗高校・札幌西陵高校・札幌真栄高校、

札幌市 PCR 検査センター事業（検査員）、

北海道臨床衛生検査技師会 副会長（学会・事業等の運営および企画調整）、

北海道検査研究部門 総合管理部門長、日本臨床衛生検査技師会 北海道災害対策責任者、

会立衛生検査所運営委員（エキノコックス検査）、日本臨床検査連盟 執行役員、

北海道臨床衛生検査技師会タスク・シフト/シェア WG 委員長、三笠サッカー協会 会長、

空知サッカー協会 副会長/理事長、三笠市スポーツ協会 理事長、

三笠市スポーツ推進委員、三笠市コミュニティースクール推進委員、

三笠市立三笠中学校 同窓会長、三笠市若松町東町内会 会長、三笠市社会教育委員

顕彰：なし

11-1-⑥ 留学生別科教員

氏名 唐 焯 学科 留学生別科 職階 講師

専門分野：日本語学・中国語学・敦煌学

教育活動：なし（留学生がいらないため）

責任科目：なし

担当科目：なし

非常勤講師：

北海道大学（春期）（中国語 I、30 時間、中国語演習、30 時間）、東海大学（秋期）、中国語（30 時間）

学内委員会・学科内業務等：

総合福祉学部中国語版資料の翻訳、日本医療大学総合留学項目中国語版、留学生別科募集要項中国語版の制作。年間で 15 回の留学生説明会リモート会議の参加。中国、日本など 14 か所のエージェントの開拓。留学生に宣伝用の計画書の作成。中国大学との連携のために中国語版の大学の紹介等の書類の翻訳。

日本医療大学の中国教育部に認可の担当。留学生別科秋期授業、教材の準備等。

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本訓点語学会、東方学会、北海道大学国語国文研究会、漢日言語学会、中国古文字学会、日本漢字学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：財団法人北海道華僑会館副理事長、札幌華僑総会理事、日中文化交流会理事

顕彰：なし

氏名 千葉 直子 学科 留学生別科 職階 助手

専門分野：日本語教育

教育活動：なし

責任科目：

担当科目：

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：

学術活動：

所属学会・研究会等：看護と介護の日本語教育研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

①介護技能実習生への日本語講習

実施期間：

5月～7月（2か月）、9月～11月（2か月）、1月（1か月）合計講習時間 200 時間

②介護技能実習生向け E ラーニングのコンテンツ作成と運用管理

③ミャンマー人日本語教育者への日本語教育カリキュラム提言

顕彰：なし

11-2 教員の学術業績

11-2-① 総長、学長、参事

氏名 島本 和明 学科 看護学科 職階 総長、教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

原著：

Saito N, Furuhashi M, Koyama M, Higashiura Y, Akasaka H, Tanaka M, Moniwa N, Ohnishi H, Saitoh S, Ura N, Shimamoto K, Miura T. Elevated circulating FABP4 concentration predicts cardiovascular death in a general population: A 12-year prospective study. Sci Rep 11: 4008.

Furuhashi M, Higashiura Y, Koyama M, Tanaka M, Murase T, Nakamura T, Akari S, Sakai A, Mori K, Ohnishi H, Saitoh S, Shimamoto K, Miura T. Independent association of plasma xanthine oxidoreductase activity with hypertension in nondiabetic subjects not using medication. Hypertens Res 44: 1213-1220.

Furuhashi M, Muranaka A, Yuda S, Tanaka M, Koyama M, Kawamukai M, Takahashi S, Higashiura Y, Miyamori D, Nishikawa R, Ohnishi H, Saitoh S, Shimamoto K, Miura T. Independent association of fatty liver index with left ventricular diastolic dysfunction in a general population without medication. Am J Cardiol 158: 139-146.

Furuhashi M, Sakai A, Tanaka M, Higashiura Y, Mori K, Koyama M, Ohnishi H, Saitoh S, Shimamoto K. Distinct Regulation of U-ACE2 and P-ACE2 (Urinary and Plasma Angiotensin-Converting Enzyme 2) in a Japanese General Population. Hypertension 78: 1138-1149.

Furuhashi M, Kataoka Y, Nishikawa R, Koyama M, Sakai A, Higashiura Y, Tanaka M, Saitoh S, Shimamoto K, Ohnishi H. Circulating PCSK7 level is independently associated with obesity, triglycerides level and fatty liver index in a general population without medication. J

Atheroscler Thromb. 2021 Sep 25. doi: 10.5551/jat.63159.

Tanaka M, Takahashi S, Higashiura Y, Sakai A, Koyama M, Saitoh S, Shimamoto K, Ohnishi H, Furuhashi M. Circulating level of FABP4 is an independent predictor of metabolic dysfunction-associated fatty liver disease in middle-aged and elderly subjects. J Diabetes Investig. May;13(5):878-888.

氏名 太田 誠 職階 学長・教授

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

8月31日／北海道理学療法士会 令和3年度空知支部 第1回職能部研修会 web 講師、

1月28日／地域リハビリテーション連携強化研修会 web(オホーツク圏域リハ専門職勉強会)講師

氏名 銭本 隆行 職階 参事

論文 (著書, 総説, 原著, その他) :

その他 : 地域で暮らし続ける～日本とデンマークの福祉から～

毎日新聞 WEB「医療プレミア」連載 2020年1月から2022年3月まで毎月掲載。

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他) :

示説 : 徳広圭子、中澤未美子、坂野剛崇、銭本隆行 :

ソーシャルワーカー養成に必要なハラスメントに関する理想の講義

—アンケート調査とインタビュー調査の“理想”に焦点化した予備的検討

—日本社会福祉学会第69回秋季大会 (eポスター発表) 2021年9月

11-2-② 看護学科教員

氏名 吉野 淳一 学科 看護学科 職階 教授

論文 (著書, 総説, 原著, その他) :

原著 : 神成真, 澤田いずみ, 道信良子, 吉野淳一 (2021). 精神療養病棟の治療構造における病棟規則の機能についてのエスノグラフィー. 日本看護科学会誌, 41, 88-97.

doi:10.5630/jans.41.88

原田由香, 澤田いずみ, 吉野淳一, 高橋正樹 (2022). 母親のうつ病が子ども自身にもたらした影響と家族の対処に関する子どもの認識

—成人期にある4名の子どもの語りから—. 札幌保健医療大学紀要, 8, 17-31.

その他 : 吉野淳一 (2021). 自死遺族への支援—遺族は周りの人々にどのようにふるまってほしいと望んでいるのか—. 保健の科学, 63(6), 401-405.

氏名 : 宮本 篤 学科 : 看護学科 職階 : 特任教授

論文 (著書, 総説, 原著, その他) :

著書 :

- 1) 北川 学、宮本 篤、ハイリスク薬投与患者の薬学的管理、監修 : 高久文麿、矢崎義雄、治療薬マニュアル2021、医学書院、付録31-35、2021
- 2) 宮本 篤、系統別看護師国家試験問題集2021年版 (分担執筆)、医学書院、2021
- 3) 宮本 篤、医薬品副作用・安全性ガイドブック (分担執筆)、南山堂、2021

原著 :

- 1) Kunimoto, Y., Matamura, R., Ikeda, H., Fujii, S., Kimyo, T., Kitagawa, M., Nakata, H., Kobune, M., Miyamoto, A., Fukudo, M. Potential drug-drug interactions in the era of integrase strand transfer inhibitors: a cross-sectional single-center study in Japan. Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences. 7:43, 1-6, 2021

氏名 浅井 さおり 学科 看護学科 職階 教授

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他) :

その他 :

宮坂道夫、長谷川美栄子、浅井さおり、鈴木真理子、小野光美、内山孝子、友竹知恵、三浦直子 : オンライン研修会「身体拘束を始めないための看護管理」。2022年1月22日

氏名 草薙 美穂 学科 看護学科 職階 教授

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

その他：北海道保育士等キャリアアップ研修 乳児保育 講師

氏名 小山 満子 学科 看護学科 職階 教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

投稿論文：

Taeko TERASIMA, Juniti, TANEMOTO, Michiko, KOYAMA, Mieko, MIYAKE, Kyouko, TUJI. 23. Effect of Brief Experiential Learning in Lectures Using Modified Simulated Blood Wessels comparison of nursing students' opinion this year and last year, international, Education Society, 16-17. July, 3. 2021. Honolulu,

氏名 進藤 ゆかり 学科 看護学科 職階 教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

総説：

松村寛子、進藤ゆかり、佐藤みゆき、他（2021）；在宅障害児を養育する父親に関する我が国の研究動向、北海道公衆衛生雑誌 35：33-40.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

一般講演：

武内阿味，渡部恵子，進藤ゆかり，中野政子（2021）；HIV 陽性男性の拳児を希望してから妊娠方法を選択し妊娠が成立するまでの意思決定プロセス，日本エイズ学会

その他：

看護科学研究雑誌 査読1件、Public Health Nursing 査読1件、Clinical Nursing Research 査読1件、日本医療大学紀要 査読1件

氏名 高橋 美和 学科 看護学科 職階 教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：医学書院「2021年度准看護師国家試験問題集」解答・解説

氏名 松本 真由美 学科 看護学科 職階 教授

論文(著書，総説，原著，その他)

原著：

松本真由美(2021). 求められる非自発的入院患者への権利擁護. 精神障害とリハビリテーション. 25(1), 96-104.

Mayumi Matsumoto (2021). Advocacy for Involuntary Inpatients in Mental Health Facility - Through the Legal Aid NSW in Australia -. Japan Healthcare College Bulletin of Japan Health Care College, 7, 45-57.

講演(特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他)：

シンポジウム：

松本真由美，古屋龍太，伊藤時男，東谷幸政，長谷川敬佑，門屋充郎

当事者の声から社会的入院を考える～いま精神保健福祉士ができること～

第20回日本精神保健福祉士学会学術集会北海道大会. 2021年9月9日. Zoom開催

一般講演：

松本真由美：精神科病院における非自発的入院患者への権利擁護

—オーストラリアニューサウスウェールズ州のトライビューナルを参考として—

日本精神保健福祉学会第9回大会. 2021年6月27日. Zoom開催.

松本真由美：精神保健福祉資料にもとづく北海道の精神科病院の特徴

—権利擁護の視点から—. 北海道地域福祉学会研究大会. 2022年1月22日. Zoom開催

その他：

松本真由美：

大阪精神医療人権センター権利擁護システム研究会精神医療審査会班. 報告者.

2022年2月27日.

氏名 森口 真衣 学科 看護学科 職階 教授

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

森口真衣：仏教と精神療法. 第43回日本内観学会学術集会北海道大会.

2021年10月2日. 赤平市.

森口真衣：成就と治癒のはざま：宗教瞑想実践の医療化. 第24回日本精神医学史学会.

2021年11月6日. 札幌市.

シンポジウム：

森口真衣：「山を描写する」：非医療者からみた精神病理学.

日本精神病理学会第44回大会夜話会. 2021年10月21日. 京都.

氏名 山崎 公美子 学科 看護学科 職階 教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

翻訳 看護を教授すること—原著第6版—；第3章 学生の学業成果：法的問題と倫理的問題；

Teaching in Nursing; Chapter 3, The Academic Performance of Students:

Legal and Ethical Issues(trans.)、医歯薬出版、38-58、2021

氏名 山田 敦士 学科 看護学科 職階 教授

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

一般講演：

・山田敦士 (2021). パラウク・ワ語の語彙.

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題

「東南アジア大陸部地域語彙の類型論的研究」2021年度第2回研究会.

2021年12月12日. オンライン.

氏名 鶴木 恭子 学科 看護学科 職階 准教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

(原著) 巻直樹、松田ひとみ、長内さゆり、鶴木恭子、荒木章裕：

地域在住自立高齢者における嚥下機能と健康関連 QOL との関連

(投稿先検討中のものです)

氏名 合田 恵理香 学科 看護学科 職階 講師

論文（著書，総説，原著，その他）：

原著：合田恵理香，神成真（2021）. 卒後2年目の看護師の自己成長への思いと取り組み.
日本医療大学紀要，第7巻，23-32.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

一般講演：

神成真，合田恵理香.

新卒看護師が認識している病棟管理者との関係性と受けている支援.

日本看護管理学会 第25回学術集会. 2021年8月28日～9月27日. ハイブリッド開催.

氏名 吉田 香 学科 看護学科 職階 講師

論文（著書，総説，原著，その他）：

その他：

研究資料 看護師の身だしなみに対する意識調査—看護師、看護大学生の見解—

Attitude survey for the appearance of the nurse—Nurse, opinion of the nursing university student— 投稿中

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

血圧測定時の加圧・減圧における送気球ネジの把持に関する人間工学的研究
—送気球ネジを外側と内側に把持した場合の比較—

2021年度 日本看護技術学会学術集会

氏名 中澤 洋子 学科 看護学科 職階 講師

論文（著書，総説，原著，その他）：

その他：

実践報告：

中澤洋子、納谷知里、岩田直美、中島泰葉、山本里美、作並亜紀子、畑瀬智恵美：
看護学実習前の個人情報保護に関する学習会による学びの認識
—各学年の学習会の感想から—，
日本看護学教育学会誌 31(2)：2021年11月.

氏名 松村 寛子 学科 看護学科 職階 講師

論文（著書，総説，原著，その他）：

総説：松村寛子，進藤ゆかり，佐藤みゆき，山本かれん，田片美羽. (2021).

在宅障害児を養育する父親に関する我が国の研究動向.

北海道公衆衛生学雑誌，35(2)，33-40.

氏名 佐藤 恵 学科 看護学科 職階 講師

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

「介護施設経営士 認定資格標準テキスト」：一般財団法人つしま医療福祉研究財団
2021年12月25日初版

第1章 第2節 介護に必要な知識と技術 P15～P31

第7章 個別ケア P172～P181

著作：「上海智倫企業管理有限公司 介護教育テキスト～基礎編～」：七七舎
「上海智倫企業管理有限公司 介護教育テキスト～応用編～」：七七舎
基礎編・応用編ともに 2022 年 12 月 1 日発行予定

氏名 大久保 未央 学科 看護学科 職階 助教

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

その他：

大久保未央，村松真澄，和田ゆい。

サービス付き高齢者向け住宅における ACP の取り組みと情報共有との関係。

日本老年看護学会．第 26 回学術集会．2021 年 6 月 11 日～27 日 Web 配信

氏名 服部 かおる 学科 看護学科 職階 助教

論文（著書，総説，原著，その他）：

その他：

投稿「精神科病院実習一患者さんと直接かかわる経験は、学生にとってかけがえのないものだ」

医学書院『精神看護』58-61 頁 2022. 1.

氏名 中村 江衣 学科 看護学科 職階 助教

論文（著書，総説，原著，その他）：

その他：

【資料】基礎看護学領域における客観的臨床能力試験(OSCE)導入に向けて準備とその評価，
北海道文教大学研究紀要 第 46 号, 2022, 63-72

氏名 佐藤 みゆき 学科 看護学科 職階 助教

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

一般講演：第 11 回日本在宅看護学会学術集会

氏名 渡邊 美樹 学科 看護学科 職階 助教

論文（著書，総説，原著，その他）：

その他：

「特別養護老人ホームにおける看護職であるケア管理者のケア管理能力の現状と課題」

老年看護学学会に原著論文として投稿中

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

示説：「特別養護老人ホームの看護管理者のケア管理能力に関する認識について」

日本老年看護学学会第 26 回学術集会抄録 P161 (P-86)

「特別養護老人ホームの看護管理者の自己評価から見たケア管理能力の現状と課題」

日本看護科学学会学術集会抄録 第 41 回学術集会示説発表 P11-32

11-2-③ リハビリテーション学科教員

氏名 大堀 具視 学科 リハビリテーション学科 職階 教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：介護福祉士養成講座編集委員会 編 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 第 2 版、中央法規出版、2022。（分担執筆）

原著：

宝田光、外崎達也、安彦かがり、大堀具視（2022）。

脳卒中患者に対する MTDLP の実践過程において修正 CI 療法を実施した一事例。

作業療法 41(2)：247-253.

黒川裕美、大堀具視（2021）。

住み慣れた地域で暮らすための通所作業療法—もっている能力への気づきが活動範囲の拡大へとつながった症例。作業療法ジャーナル 55（12）1432-1435、2021.

短報：

大堀具視、清本憲太、村上元、村上正和（2022）。

臨床場面ライブ配信による学内臨床実習の試み

—遠隔会議システムとリアルタイムモザイクアプリを用いて—

リハビリテーション教育研究 28（頁未定）。

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

一般口演：

新岡美樹、八田達夫、大堀具視、清本憲太。テキストマイニングによるスヌーズレン実施記録の後方視的研究。日本作業療法学会（2021年9月13日～10月17日：オンデマンド）。

大堀具視、清本憲太、村上元、村上正和。臨床場面ライブ配信による学内臨床実習の試み

—遠隔会議システムとリアルタイムモザイクアプリを用いて—

リハビリテーション教育研究大会（2021年10月23日～10月24日：オンデマンド）

氏名 八田 達夫 学科 リハビリテーション学科 職階 特任教授

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

示説：

新岡美樹，八田達夫，大堀具視，清本憲太（2021年）。

テキストマイニングによるスヌーズレン実施記録の後方視的研究。

第55回日本作業療法学会（WEB 9.10-9.11）

氏名 石橋 晃仁 学科 リハビリテーション学科 職階 教授

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

一般講演：

工藤篤志，石橋晃仁：建設関連会社の職長研修会にて行った腰痛予防の講演におけるアンケート調査。第4回日本産業理学療法学会学術大会，

2021年11月13日，大阪(web開催)

氏名 及川 直樹 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

原著：

片山理樹，清本憲太，大窪悠真，宮城島一史，石田和宏，及川直樹，安倍雄一郎：
頰椎椎弓形成術前後における知覚・運動機能，心理面および患者立脚型評価の経時的変化。
作業療法の実践と科学. 3 (2) :21-30, 2021

清本憲太，小川尚平，小椋伸一，有澤沙織，及川直樹，村上元，大堀具視：
痛みの破局的思考の重症度が，痛みの強度や感情，生活障害に与える影響-地域在住高齢者
による検討. 作業療法の実践と科学. 3 (3) 65-73, 2021

及川直樹，清本憲太，榊善成，佐藤史子，倉秀治，岡村健司：
鏡視下腱板修復術後のCRPS様症状と術前の肩関節機能の関係. 整形・災害外科.
64 (9) : 1331-1337, 2021

清本憲太，及川直樹，木村歩，秋林拓真，高橋慶多，谷口雄飛，村上元，大堀具視：
触覚識別訓練が触覚閾値，触覚識別機能に与える影響-健常者による予備的検討-。
日本医療大学紀要. 7 : 69-77, 2021

及川直樹，清本憲太，泉水朝貴，明本聡，榊善成，鈴森雄貴，大堀具視：
肘痛の経験の有する野球選手における尺側手根屈筋および浅指屈筋筋力と最大握力発揮時の
手関節背屈角度の関係. 臨床整形外科. 56(11) : 1367-1372, 2021

Sakaki Y, Taniguchi K, Sato F, Oikawa N, Katayose M, Kura H, Okamura K : Time-course
changes in active stiffness of the supraspinatus muscle after arthroscopic rotator
cuff repair : J Med Ultrasonic. 49(1)77-84, 2022

榊善成，谷口圭吾，佐藤史子，及川直樹，金谷耕平，片寄正樹，倉秀治，岡村健司：
腱板修復術症例における肩関節周囲筋の収縮時スティフネスと最大等尺性肩甲骨面外転筋力の
関係. 日本整形外科超音波学会誌. 32(1) , 2022

清本憲太，坪田貞子，及川直樹，村上元，合田央志，大堀具視：
北海道内の作業療法臨床実習教育施設の実態と臨床実習に対する考え方
-従来型方式とクリニカル・クラークシップ方式の比較。

リハビリテーション教育研究. 28, 2022

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

野球肘経験のある選手における尺側手根屈筋および浅指屈筋筋力と最大握力発揮時の
手関節背屈角度の関係. 北海道ハンドセラピー研究会教育講演. 2021年10月（オンライン）

一般講演：

市川智士，明本聡，鈴森雄貴，谷玲奈，及川直樹，岡村健司：
女子野球選手における投球時肘外反トルクと関連する因子の検討。

第72回北海道理学療法士学会大会 2021年5月22日. 函館市

谷玲奈，鈴森雄貴，明本聡，市川智士，及川直樹，岡村健司：
女子野球選手における身体特性と投球障害の関連。

第72回北海道理学療法士学会大会 2021年5月22日. 函館市

榊善成，谷口圭吾，佐藤史子，及川直樹，金谷耕平，片寄正樹，倉秀治，岡村健司：
腱板修復術症例における肩関節周囲筋の収縮時スティフネスと等尺性肩甲骨面最大外転筋力の
関係. 第32回日本整形外科超音波学会学術集会. 2021年7月17日. 奈良県

新納拓也, 鈴森雄貴, 明本聡, 小野寺悠介, 及川直樹, 榊善成, 佐藤史子, 岡村健司 :
大学・社会人野球選手の投球時痛とトランクローテーションの関連.

第 48 回日本肩関節学会学術集会, 第 18 回日本肩の運動機能研究会学術集会.

2021 年 10 月 29 日. 愛知県

小野寺悠介, 鈴森雄貴, 明本聡, 新納拓也, 及川直樹, 榊善成, 佐藤史子, 岡村健司 :
高校野球選手における投球時痛とトランクローテーションの関連.

第 48 回日本肩関節学会学術集会, 第 18 回日本肩の運動機能研究会学術集会.

2021 年 10 月 29 日. 愛知県

谷玲奈, 鈴森雄貴, 明本聡, 市川智士, 及川直樹, 岡村健司 :

中学野球選手を対象としたメディカルチェックの結果の男女の違い.

第 8 回日本スポーツ理学療法学会学術大会. 2021 年 12 月 11 日. WEB 開催

鈴森雄貴, 明本聡, 新納拓也, 谷玲奈, 小野寺悠介, 及川直樹, 辻英樹, 岡村健司 :

高校野球選手における肘痛と身体機能の関係. 第 8 回日本スポーツ理学療法学会学術大会.

2021 年 12 月 11 日. WEB 開催

氏名 西山 徹 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

論文 (著書, 総説, 原著, その他) :

原著 :

Jumpei Takahashi, Hiroto Suzuki, Naoki Tanaka, Toru Nishiyama(2021). Muscle activity during bridge exercises on different types of floor surfaces. The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 10 (4) , 199-203.

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他) :

一般講演 :

竹内太郎, 伊澤琉奈, 佐々木歌帆, 西山徹 (2021) .

模擬大腿義足を用いた歩行練習における下肢の運動学的分析.

第 10 回日本支障工理学療法学会学術大会 Web 開催

氏名 矢口 智恵 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

論文 (著書, 総説, 原著, その他) :

原著 :

佐藤文亮, 藤原勝夫, 矢口智恵 :

立位で圧力を変えて大腿前面皮膚を伸張したときの皮下組織の動態と姿勢応答.

Health and Behavior Sciences 20(1), 19-29, 2021

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他) :

一般講演 :

矢口智恵, 藤原勝夫, 清田直恵 :

床移動課題時の視覚情報の有無が体性感覚誘発電位と姿勢制御に及ぼす影響.

日本健康行動科学会第 20 回学術大会. 2021 年 10 月 3 日. オンライン

氏名 清本 憲太 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

清本憲太 (2021). リハビリテーションのための姿勢と動作.

濱口豊太、金村尚彦（編集）、須永康代、国分貴徳、中村高仁、平田恵介、埜大樹、田平隆行、牛腸昌利、園尾萌香、小栢進也、千葉恒、戸島美智生、高橋里奈、村田健児、清本憲太、久保田圭祐、牛場潤一、齊藤和夫、白銀暁（著）. CBR 株式会社. 131-140

原著：

及川直樹、清本憲太、榊善成、佐藤史子、倉秀治、岡村健司.

鏡視下腱板修復術後の CRPS 様症状と術前の肩関節機能の関係.

整形・災害外科 64 (10). 1331-1337.

清本憲太、小川尚平、小椋伸一、有澤沙織、及川直樹、村上元、大堀具視.

痛みの破局的思考の重症度が、痛みの強度や感情、生活障害に与える影響

地域在住高齢者による検討. 作業療法の実践と科学 3 (3). 65-73.

片山理樹、清本憲太、大窪悠真、宮城島一史、石田和宏、及川直樹、安倍雄一郎.

頸椎椎弓形成術前後における知覚・運動機能、心理面および患者立脚型評価の経時的変化.

作業療法の実践と科学 3 (2). 21-30.

及川直樹、清本憲太、泉水朝貴、明本聡、榊善成、鈴森雄貴、大堀具視.

肘痛の経験の有する野球選手における尺側手根屈筋および浅指屈筋筋力と最大握力発揮時の手関節背屈角度の関係. 臨床整形外科 56 (11). 1367-1372.

清本憲太、及川直樹、木村歩、秋林拓真、高橋慶多、谷口雄飛、村上元、大堀具視.

触覚識別訓練が触覚閾値、触覚識別機能に与える影響健常者による予備的検討.

日本医療大学紀要 7. 69-77.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

一般講演：

清本憲太、射場浩介、井部光滋、早川光、花香恵、山下敏彦.

四肢不動化慢性疼痛モデルマウスに対する荷重負荷による疼痛改善効果の検討.

第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会. 2021 年 10 月. 三重

早川光、射場浩介、井部光滋、清本憲太、花香恵、山下敏彦.

後肢非荷重モデルマウスにおける骨・筋代謝マーカーの発現変化

骨粗鬆症治療薬の効果を含めて. 第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会. 2021 年 10 月. 三重
新岡美樹、八田達夫、大堀具視、清本憲太.

テキストマイニングによるスノーブレン実施記録の後方視的研究.

第 55 回日本作業療法学会. 2021 年 9 月. 宮城

清本憲太、射場浩介、井部光滋、早川光、花香恵、山下敏彦.

四肢不動化慢性疼痛モデルマウスに対する運動負荷および荷重負荷による疼痛改善効果の検討.

第 39 回日本骨代謝学会学術集会. 2021 年 10 月. 兵庫

早川光、射場浩介、井部光滋、清本憲太、花香恵、山下敏彦.

後肢非荷重モデルマウスにおける骨・筋代謝マーカーの発現変化

骨粗鬆症治療薬の効果を含めて. 第 39 回日本骨代謝学会学術集会. 2021 年 10 月. 兵庫
大窪悠真、清本憲太、末永貴大、石田和宏、竹内裕介.

当院におけるばね指保存療法例の作業療法介入の効果.

第 51 回北海道作業療法学会学術集会. 北海道

清本憲太、射場浩介、井部光滋、早川光、花香恵、山下敏彦.
四肢不動化慢性疼痛モデルマウスにおける運動負荷・荷重負荷による
疼痛閾値改善効果の検討. 第34回北海道骨粗鬆症研究会学術集会. 2022年2月. 北海道

氏名 泉水 朝貴 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

論文(著書, 総説, 原著, その他):

原著:

肘痛の経験を有する野球選手における尺側手根屈筋および浅指屈筋筋力と最大握力発揮時の
手関節背屈角度の関係

講演(特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他):

その他: 北海道理学療法学会学術大会査読委員

氏名 合田 央志 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

講演(特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他):

合田央志、清本憲太、大堀具視 :

新卒作業療法士の臨床現場における困難感～本学の卒業生と職場の管理者を対象とした
アンケート調査～: 第34回教育研究大会、オンライン

氏名 松崎(木原) 由里子 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

論文(著書, 総説, 原著, その他):

著書:

古名丈人, 木原由里子 (2020). 老年症候群. 池添冬芽 編.

高齢者理学療法テキスト. Pp8-14. 東京: メジカルビュー社.

原著:

Makizako H, Nakai Y, Shiratsuchi D, Akanuma T, Yokoyama K, Matsuzaki-Kihara Y,
Yoshida H. Perceived declining physical and cognitive fitness during the COVID-19
state of emergency among community-dwelling Japanese old-old adults.
Geriatrics and Gerontology International. 21(4):364-369, 2021.

Shiratsuchi D, Makizako H, Nakai Y, Taniguchi Y, Akanuma T, Yokoyama K,
Matsuzaki-Kihara Y and Yoshida H. Association of health literacy with the
implementation of exercise during the declaration of COVID-19 state of
emergency among Japanese community-dwelling old-old adults International Journal
of Environmental Research and Public health. 21;18(4):2100, 2021.

Kume Y, Bae S, Lee S, Makizako H, Matsuzaki-Kihara Y, Miyano I, et al.
Association between Kihon check list score and geriatric depression among older
adults from ORANGE registry. PLoS ONE 16(6): 2021.

横山 和樹, 宮嶋 涼, 松崎(木原) 由里子, 小塚 直樹, 池田 望,
地域在住高齢者のフレイルに対する作業機能障害および作業バランスの検討:
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下における質問紙調査.
作業療法の実践と科学. 4(1):16-23, 2021.

氏名 村上 元 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

論文（著書，総説，原著，その他）：

原著：

清本憲太，及川直樹，木村歩，秋林拓真，高橋慶多，谷口雄飛，村上元，大堀具視(2021).
触覚識別訓練が触覚閾値，触覚識別機能に与える影響—健常者による予備的検討—
日本医療大学紀要. 7, 69-77.

清本憲太，小川尚平，小椋伸一，有澤沙織，及川直樹，村上元，大堀具視(2021).
痛みの破局的思考の重症度が，痛みの強度や感情，生活障害に与える影響
—地域在住高齢者による検討— 作業療法の実践と科学. 3(3)，65-73.

その他：

村上元，森元隆文，清本憲太，池田望(2022).

障害認識と認知行動方略に対する介入が就労とその後の就労定着に結び付いた
成人期注意欠如・多動症の1症例. 4(1)，1-6.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

示説：

村上元，森元隆文，西山薫，池田望.

作業療法士による不眠への介入により効果が認められた一例.

第51回北海道作業療法学会 2021年6月.

小笠原那奈，東海林義孝，内田梓，中本久美子，油谷仁美，村上元.

プレイバックシアターへの継続的な参加により，対人行動に変化がみられた事例.

第51回北海道作業療法学会 2021年6月.

氏名：村上 正和 学科：リハビリテーション学科 職階：講師

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

一般講演：

回復期リハビリテーション病棟に入院した大腿骨近位部骨折患者における，
最大一歩幅のバランステストとしての妥当性. 北海道リハビリテーション学会，2021.

氏名 渋川 佳彦 学科 リハビリテーション学科 職階 助教

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

その他：

学会名：2021年度青森県保健医療福祉研究発表会・日本ヒューマンケア科学学会

第14回学術集会合同集会

演題名：歩行解析の最適化による転倒因子抽出の人間適合性評価

氏名 三浦 紗世 学科 リハビリテーション学科 職階 助教

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

その他：学会発表（共同演者）

・松田涼，世古俊明，隈元庸夫，三浦紗世，佐藤佑太郎，濱本龍哉：

脳卒中者における Pull-type Hand-held dynamometer を用いた等尺性脚伸展筋力測定の
再現性について. 第55回日本理学療法学会大会，2021.5.29～30，大分(web).

・佐藤佑太郎，隈元庸夫，松田涼，世古俊明，三浦紗世，田井将彦，濱本龍哉：

Palpation Meter を用いた脳卒中者における骨盤運動時の骨盤傾斜角度測定の再現.
第55回日本理学療法学会大会，2021.5.29～30，大分(web).

11-2-④ 診療放射線学科教員

氏名 杉本 芳則 学科 診療放射線学科 職階 学科長・教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

その他：

多羽田将史，福山篤司，杉本芳則 (2021).

数値流体力学 (computational fluid dynamics : CFD) による血流動態解析の精度検証
～拍動流による模擬血管ファントムを用いた流体実験～.

北海道放射線技術雑誌，91，p56.

小原拓也，福山篤司，磯田治夫，小山修司，杉本芳則.

Parallel Imaging 技術を用いた 3D cine PC MR 撮像法における血流動態解析の精度検証
～ヒトの心拍を模擬した拍動流におけるファントム実験～.

北海道放射線技術雑誌，91，p58.

近藤未崎，福山篤司，磯田治夫，加藤裕，市川和茂，水野崇，数井駿佑，中島美来，
杉本芳則 (2021).

3D cine PC MR 撮像法における Trigger Time のズレが血流動態解析に及ぼす影響について.

第3回 4D FLOW 研究会抄録集. 2021年9月9日、p25.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

一般講演：

近藤未崎，福山篤司，磯田治夫，加藤裕，市川和茂，水野崇，数井駿佑，中島美来，
杉本芳則.

3D cine PC MR 撮像法における Trigger Time のズレが血流動態解析に及ぼす影響について.

第3回 4D FLOW 研究会. 2021年9月9日.

パシフィコ横浜ノース（神奈川県横浜市）Hybrid 開催.

多羽田将史，福山篤司，杉本芳則.

数値流体力学 (computational fluid dynamics : CFD) による血流動態解析の精度検証
～拍動流による模擬血管ファントムを用いた流体実験～.

日本放射線技術学会北海道支部 第77回秋季学術大会. 2021年11月7日. Web 開催.

小原拓也，福山篤司，磯田治夫，小山修司，杉本芳則.

Parallel Imaging 技術を用いた 3D cine PC MR 撮像法における血流動態解析の精度検証
～ヒトの心拍を模擬した拍動流におけるファントム実験～

日本放射線技術学会北海道支部 第77回秋季学術大会. 2021年11月7日. Web 開催.

氏名 西山 修輔 学科 診療放射線学科 職階 教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

原著：

Shusuke Nishiyama, Kosuke Takada, Koichi Sasaki: Estimation of sheath electric field in inductively coupled hydrogen plasma on the basis of Doppler-broadened absorption spectrum of hydrogen Balmer- α line, Japanese Journal of Applied Physics, 60, 076001, 2021.

Kosuke Takada, Shusuke Nishiyama, Koichi Sasaki: Comparison among translational temperatures of He ($^1P_1^o$), He (3S_1), and Ar ($4s[3/2]_2^o$) in inductively coupled plasmas, Japanese Journal of Applied Physics, 60, 066003, 2021.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

一般講演：

伏見 公花，西山 修輔，佐々木 浩一，

「水素原子バルマーアルファ線のキャビティリングダウン吸収分光法における飽和パラメータ：プラズマ中の電場計測に向けて」，
第 39 回プラズマプロセッシング研究会，（オンライン開催，2022 年 1 月 25 日）

伏見 公花，西山 修輔，佐々木 浩一，

「水素原子バルマーアルファ線のキャビティリングダウン吸収分光法における飽和パラメータ（II）」，第 69 回応用物理学会春季学術講演会，
（青山学院大学相模原キャンパス&オンラインハイブリッド開催，2022 年 3 月 22 日）

氏名 樋口 健太 学科 診療放射線学科 職階 教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

原著：

Kenta HIGUCHI. (2021). Survey of indoor radon concentrations in a school in the suburbs of Kagoshima City. Bulletin of Japan Health Care College, 2021, Vol. 7, 3-10, ISSN-2189-2830.

Kenta Higuchi, Takuya Fujimura. (2021). Radiation exposure dose outside the irradiation field due to differences in pediatric head computed tomography scanning methods. Radiological Physics and Technology, Jun;14(2):173-178. doi: 10.1007/s12194-021-00614-6.

Kenta HIGUCHI. (2022). Surveying the Trend of Questions on Radiochemistry included in the Radiology Technician National Examination. Bulletin of Japan Health Care College, 8. 投稿中

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

一般口演：

樋口健太, 玉熊佑紀, 細田正洋, 床次眞司, 秋葉澄伯.

ラドン及び子孫核種の移行過程の解析と放射能環境動態の解明,
放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同利用・共同研究拠点
2021年度Webキックオフミーティング. 2021年5月21日. 筑波.

樋口健太, 玉熊佑紀, 細田正洋, 床次眞司, 秋葉澄伯.

ラドン及び子孫核種の移行過程の解析と放射能環境動態の解明,
放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同利用・共同研究拠点,
2021年度Web年次報告会. 2022年2月14日. 筑波.

氏名：福山 篤司 学科：診療放射線学科 職階：准教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

総説：

Haruo Isoda, Atsushi Fukuyama (2022). Quality Control for 4D Flow MR Imaging. Magnetic Resonance in Medical Sciences, 21, p278-292.

原著：

Atsushi Fukuyama (2021). Validity of a new method for estimating the signal-to-noise ratio for the purpose of daily quality control. Bulletin of Japan Health Care College, 7, p11-22.

その他：

多羽田将史, 福山篤司, 杉本芳則 (2021).

数値流体力学 (computational fluid dynamics : CFD) による血流動態解析の精度検証
～拍動流による模擬血管ファントムを用いた流体実験～. 北海道放射線技術雑誌, 91, p56.

小原拓也, 福山篤司, 磯田治夫, 小山修司, 杉本芳則.

Parallel Imaging 技術を用いた 3D cine PC MR 撮像法における血流動態解析の精度検証
～ヒトの心拍を模擬した拍動流におけるファントム実験～. 北海道放射線技術雑誌, 91, p58.

近藤未崎, 福山篤司, 磯田治夫, 加藤裕, 市川和茂, 水野崇, 数井駿佑, 中島美来,
杉本芳則 (2021).

3D cine PC MR 撮像法における Trigger Time のズレが血流動態解析に及ぼす影響について.
第3回 4D FLOW 研究会抄録集. 2021年9月9日, p25.

中島美来, 磯田治夫, 蓑島啓史, 平野祥之, 福山篤司, 加藤裕, 市川和茂, 水野崇(2021).
深層学習を用いた磁気共鳴流体解析のノイズ低減-Trigger Time に着目した基礎的検討-.
第3回 4D FLOW 研究会抄録集, p26.

数井駿佑, 磯田治夫, 福山篤司, 加藤裕, 市川和茂, 水野崇, 田嶋駿亮 (2021).

高空間分解能 3次元位相コントラスト磁気共鳴法の流速測定精度の検討.
第3回 4D FLOW 研究会抄録集, p27.

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他) :

シンポジウム :

福山篤司, 磯田治夫, 小山修司. 3D cine PC MR 撮像法における trigger time のズレ
が流速ベクトルに及ぼす影響について. 令和3年度名古屋大学脳とこころの研究
センターシンポジウム. 2022年1月26日. Web開催.

一般講演 :

近藤未崎, 福山篤司, 磯田治夫, 加藤裕, 市川和茂, 水野崇, 数井駿佑, 中島美来, 杉本芳則.
3D cine PC MR 撮像法における Trigger Time のズレが血流動態解析に及ぼす影響について.
第3回 4D FLOW 研究会. 2021年9月9日.

パシフィコ横浜ノース (神奈川県横浜市) Hybrid開催.

中島美来, 磯田治夫, 蓑島啓史, 平野祥之, 福山篤司, 加藤裕, 市川和茂, 水野崇.
深層学習を用いた磁気共鳴流体解析のノイズ低減 -Trigger Time に着目した基礎的検討-.
第3回 4D FLOW 研究会. 2021年9月9日.

パシフィコ横浜ノース (神奈川県横浜市) Hybrid開催.

数井駿佑, 磯田治夫, 福山篤司, 加藤裕, 市川和茂, 水野崇, 田嶋駿亮. 高空間分解能
3次元位相コントラスト磁気共鳴法の流速測定精度の検討.
第3回 4D FLOW 研究会. 2021年9月9日.

パシフィコ横浜ノース (神奈川県横浜市) Hybrid開催.

多羽田将史, 福山篤司, 杉本芳則.

数値流体力学 (computational fluid dynamics : CFD) による血流動態解析の精度検証
～拍動流による模擬血管ファントムを用いた流体実験～.

日本放射線技術学会北海道支部 第77回秋季学術大会. 2021年11月7日. Web開催.

小原拓也, 福山篤司, 磯田治夫, 小山修司, 杉本芳則.

Parallel Imaging 技術を用いた 3D cine PC MR 撮像法における血流動態解析の精度検証
～ヒトの心拍を模擬した拍動流におけるファントム実験～.

日本放射線技術学会北海道支部 第77回秋季学術大会. 2021年11月7日. Web開催.

氏名 島 勝美 学科 診療放射線学科 職階 准教授

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

示説：3Dプリンタによる脳定位放射線治療用の赤外線反射マーカアレイの開発

村山 祐輝、柴山 航平、木村 傑、宮田 賢人、島 勝美、盛 洋一

第77回日本放射線技術学会総会学術大会、2021年4月、横浜市

氏名 黒蔵 邦夫 学科 診療放射線学科 職階 講師

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

シンポジウム：

第78回日本放射線技術学会総会学術大会

日本放射線技術学会・日本医学放射線学会・日本医学物理学会合同シンポジウム

テーマ「Evolution in mammographic systems and images」座長

2021年4月17日パシフィコ横浜(国立大ホール)

一般講演：

第31回日本乳癌検診学会学術総会

「札幌市における超音波検査（任意型）を併用した乳がん検診の成績」

2021年11月26日京都国際会館

その他：

- ・日本放射線技術学会 第11回デジタルマンモグラフィを基礎から学ぶセミナー
講演名「デジタルマンモグラフィの現状」
2021年9月23日WEB開催
- ・第294回札幌ニューテクノロジー研究会
講演名「マンモグラフィによる乳がん検診のこれまでとこれから」
2021年9月8日WEB開催
- ・富士フィルムメディカルWEBセミナー2022in北海道
「乳がん検診の有効性—J-STARTの現状—」
講演名「札幌市における検診の現状とJ-STARTの取り組み」2022年3月10日WEB開催
- ・令和3年度 日本対がん協会・日本結核予防会 診療放射線技師研修会
講演名「乳がん検診について—マンモグラフィの基礎と品質管理—」
2022年3月17日WEB開催
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構 第177回認定技師 更新講習会
講演名「マンモグラフィの臨床画像評価」2021年11月6・7日（富士フィルム本社）
- ・令和3年度 札幌市医師会マンモグラフィ撮影技師研修会
講演名「マンモグラフィの基礎と画像評価」2022年1月20日WEB開催
- ・令和3年度 札幌市医師会超音波検査技師研修会
講演名「スクリーニングに必要なマンモグラフィの読影」2022年3月9日WEB開催

氏名 白石 祐太 学科 診療放射線学科 職階 講師

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

その他：学会発表

Yuta Shiraishi, Hiroyuki Date. Acquisition of physical quantities of electrons for modeling the FLASH effect. The 5th FHS International Conference. Sapporo, 2021. 9.

11-2-⑤ 臨床検査学科教員

氏名 品川 雅明 学科 臨床検査学科 職階 学科長・教授

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

小野 誠司，木田 秀幸，岡田 一範，米澤 仁，橋内 健一，品川 雅明，早坂 光司，磯辺 正道（2021）.

新型コロナウイルス感染対策ガイドライン(Ver. 1.2). 北臨技会誌 19 巻 2 号 71.

朝倉 宏，牛島 廣治，大楠 清文，大瀧 博文，甲斐 明美，柏谷 淳，木村 圭吾，口広 智一，幸福 知己，小西 典子，品川 雅明，鈴木 智一，田中 美智男，田中 洋輔，戸田 宏文，豊川 真弘，永田 邦昭，中村 彰宏，名取 達矢，仁木 誠，西 功，根岸 達哉，原 祐樹，藤田 拓司，三澤 成毅，御手洗 聡，亘 秀夫，小松 方，中村 竜也，笠原 敬，中村 彰宏，山本 剛，宮本 仁志，川上 小夜子，金光 敬二，舟橋 恵二，静野 健一，砂田 淳子，高橋 孝，田中 香里，中村 文子，西村 恵子，西山 宏幸，細川 直登，村上 忍，安田 満，山口 育男（2021）.

腸管感染症検査ガイドライン第2版. 日本臨床微生物学会誌 31Suppl. 1-217.

原著：

田中 真輝人，品川 雅明，古谷 大輔，高橋 聡（2021 年）.

血液培養にてレンサ球菌検出時における迅速鑑別法の検討. 医学検査 69 巻 2 号：205-208.

田中 真輝人，品川 雅明，高橋 聡（2021 年）.

シカベータテストによる血液培養陽性ボトルからの直接

extended-spectrum β -lactamase 検出法の検討. 医学検査 70 巻 1 号：205-208.

田中 真輝人，品川 雅明，高橋 聡（2021 年）.

MRSA-LA を用いる血液培養陽性ボトルからの直接迅速 MRSA 検出法の検討.

医学検査 70 巻 1 号：325-329.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

品川雅明：特別講演 POT キット大腸菌を用いた分子疫学調査について.

第8回関西 POT キット研究会. 2021 年 10 月 23 日. 大阪.

シンポジウム：

品川雅明：微生物検査室に質量分析装置が導入されて 10 年

一菌種同定性能向上は感染症診療にどのような影響を与えたかー.

第 33 回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 2022 年 1 月 30 日. 仙台.

一般講演：

小池 祐史，卸川 紘光，福元 達也，品川 雅明.

北臨技微生物部門 第 4 回フォトサーベイ報告

(前編). 第 94 回北海道医学検査学会. 2022 年 10 月 16 日. 札幌

小池 祐史，卸川 紘光，福元 達也，品川 雅明.

北臨技微生物部門 第 4 回フォトサーベイ報告

(後編). 第 94 回北海道医学検査学会. 2022 年 10 月 16 日. 札幌

卸川 紘光，小池 祐史，福元 達也，品川 雅明.

北臨技微生物部門 第 5 回フォトサーベイ報告

(前編). 第 94 回北海道医学検査学会. 2022 年 10 月 16 日. 札幌

卸川 紘光, 小池 祐史, 福元 達也, 品川 雅明.
北臨技微生物部門 第5回フォトサーベイ報告
(後編). 第94回北海道医学検査学会. 2022年10月16日. 札幌
磯辺 正道, 品川 雅明, 浅沼 広子, 梅森 祥央, 徳永 祐一, 澁谷 斉.
クラス理念から学生ファーストに繋げる教育 日本医療大学臨床検査学科の取り組み.
第94回北海道医学検査学会. 2022年10月16日. 札幌

氏名 浅沼 広子 学科 臨床検査学科 職階 教授

論文 (著書, 総説, 原著, その他):

原著:

A screening assistance system for cervical cytology of squamous cell atypia based on a two-step combined CNN algorithm with label smoothing 18 November 2021 Cancer Medicine
Yuta Nambu¹ | Tasuku Mariya² Hiroko Asanuma³ | Ikuma Sato¹ | Yuichi Fujino¹ | Tsuyoshi Saito² Shota Shinkai² | Mina Umemoto² | Yoshihiko Hirohashi³ | Toshihiko Torigoe³ |

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他):

示説:

- ・「ホルモン受容体陽性乳がんの最適治療選択に向けた免疫病理学的解析」
第110回日本病理学会総会 2021.4/22~4/24 京王プラザホテル東京
- ・「Immunophenotypic analysis of ER-positive breast cancer toward the establishment of immunotherapy」
第80回日本癌学会総会 2021.9/30~10/3 パシフィコ横浜
- ・「Immunophenotypic analysis of ER-positive breast cancer toward the establishment of immunotherapy」
第49回日本臨床免疫学会総会 2021.10/28~10/30 京王プラザホテル東京

氏名: 梅森 祥央 学科: 臨床検査学科 職階: 教授

論文 (著書, 総説, 原著, その他):

著書: 必携! 日当直の緊急検査マニュアル 9. 外注検体の保管.

Medical Technology. 2021, 49:1504-1509.

原著: Luteinizing hormone (LH) formed a complex with an immunoglobulin G caused abnormally high levels of LH: A case report. Clinical Biochemistry. 2021, 93: 33-35.

血中リチウム測定キット「エспа・Li II」の性能評価. 医療検査と自動化

2021, 46: 264-270.

ピリドキサミンリン酸を使用したASTおよびALT IFCC法対応試薬の性能評価.

臨床化学 2021, 50: 355-363.

「ナノピアBNP-A」の基本性能評価および脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体に対する交差反応性の検証. 医療検査と自動化 2022, 47: 212-218.

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他):

一般講演:

抱合型ビリルビンを選択的に測定するビリルビン試薬の特異性の検証と臨床的有用性,
第94回北海道医学検査学会.

その他：

令和3年度 新入会員 Web 研修会(北海道臨床衛生検査技師会), ALP/LD の測定法変更について.
第 216 回北臨技講習会(北海道臨床衛生検査技師会), 生化学検査分野から見た微生物検査.
第 26 回札幌セミナー(札幌臨床衛生検査技師会),
生化学分析装置ドライケムの原理・ピットホール.

氏名 磯辺 正道 学科 臨床検査学科 職階 助教

講演(特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他)：

シンポジウム：

第 94 回北海道医学検査学会パネルディスカッション講演
臨床検査技師に託されたタスク・シフト/シェア「我々に何ができるか北海道からの
発信を考える②」～北臨技からの提言～

一般講演：

- ・第 94 回北海道医学検査学会 発表 クラス理念から学生ファーストに繋げる教育
～日本医療大学 臨床検査学科の取り組み～
- ・日本臨床衛生検査技師会 北日本支部医学検査学会 発表 多職種連携マネジメント
～プロセス・エクセレンス (Process Excellence) の手法からの業務改善成果～
- ・空知臨床検査技師会 秋季研修会 講演「タスク・シフト/シェアの現状と問題点について」
～患者中心のタスクとは?～

11-2-⑥ 留学生別科教員

氏名 唐 焯 学科 留学生別科 職階 講師

論文(著書, 総説, 原著, その他)：

原著：唐焯：日本における唐代伝奇小説『遊仙窟』の場合の漢文訓読

「第 12 界漢日対比言語学研讨会」. 2021 年 8 月 20-22 日. 浙江 PP121-132